岩手大学グローバル教育センター・
国際連携室報告 vol.5（2019）

岩手大学グローバル教育センター・国際連携室
2020 年 8 月

目次

—グローバル教育センター 業務報告—

—教育業務報告—

日本語教育実施報告（国際教育科目・教養科目） 1

夏期休暇日本語補講および課外日本語学習支援報告 5

教養教育科目 7

日本事情、多文化コミュニケーション A・B、
現代の諸問題（教育とグローバル化、英語討論入門）、
初年次ゼミナール、地域と国際社会、英語で学ぶ日本文化

国際研修 SCIP：フィリピン（貧困と持続可能な社会） 10

国際研修 SCIP:インドネシア（世界遺産と持続可能な社会） 15

国際教育科目（共修科目・留学生専用科目） 17

国際協力・開発援助論、国際講義 Global Studies、
Iwate Studies A・B、Comparative Japanese History A・B、
Japanese Traditional Culture A

短期留学生・日本語日本文化研修留学生個別研究 20

北東北国立３大学合同合宿研修 22

多言語多文化交流空間 Global Village 25

留学生のための着物体験ワークショップ 32

デ・ラ・サール大学（フィリピン）英語研修 33

海外研修「カリフォルニア・グローバルプロ研修」 34

令和元年度新入生オリエンテーション 35

海外留学支援事業 37

IHATOVO グローバルコース・グローバルマイレージ 39

—地域支援・地域連携業務報告—

地域日本語教育支援事業 42

岩手県留学生交流推進協議会事業 45

地域への支援事業（English Camp） 47

One Day English School in 陸前高田 49

留学生と市民のガーデンパーティー～世界の屋台村～ 51

高大連携ウィンターセッション 52

地域連携一般公開グローカルセミナー 53

―国際連携室 業務報告―

岩手大学国際戦略推進体制及び各プロジェクトについて 55
令和元年度 岩手大学教員海外派遣事業 58
岩手大学創立 70 周年記念事業・UURR プロジェクト
「グローカル人材で未来創造」国際シンポジウム 60
令和元年度がんちゃん国際フォーラム 73
米国で日本語を学習する高校生対象の進学説明会 75
日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等 76
外国人留学生同窓会設立大会・懇談会・国際交流会館植樹
及びタイ・マレーシア卒業生との懇談会 88

―資料―

国際連携・国際教育関連組織図 91
外国の大学との交流 Academic Cooperation between Universities/Faculties 92
岩手大学教員海外派遣事業実施要項 97
国際交流支援コーディネータ 100
Iwate University Global Fellow 102
留学生関係行事 103
令和元年度交換留学生受入・派遣実績 104
岩手大学訪問海外研修生受入実績 105
岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧（短期研修・研究型） 106
岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧 109
トビタテ！留学ＪＡＰＡＮ 日本代表プログラム岩手大学採用実績 111
岩手大学留学生数（令和元年５月１日 現在） 113
岩手大学留学生数（令和元年１１月１日 現在） 114

―グローバル教育センター業務報告―

―教育業務報告―

日本語教育実施報告

1. 概要

グローバル教育センターでは、本学の留学生を主な対象として、1)大学院入学前予備教育日本語研修コース、2)国際教育科目日本語科目、3)教養教育外国語科目日本語科目、の3種の日本語教育科目を前後期それぞれ提供している。今年度は、昨年度と同様の授業を実施した。受講者には、オンラインプレースメントテスト受験とオリエンテーション参加を義務づけた。オリエンテーションでは、英語、中国語の通訳を介し、講義の概要、受講方法等の説明を行った。学生は各自のレベルの授業の中から履修授業を選択し、受講した。

＜前期＞ 4 月 8 日(月) 14:30-15:30 学生センターA 棟 G19 参加者 60 名

＜後期＞ 9 月 26 日(木) 10:00-11:00 学生センターA 棟 G1 大 参加者 70 名

2. 授業概要

※今年度から、全学の授業が 1 コマ 100 分授業、1 学期 14 週に変更となった。

＜日本語研修コース＞

日本語研修コースは、文部科学省国費留学生入学前予備教育と国際教育科目を兼ねて開講されている。1 学期あたりの総学習時間は 340 単位時間である。教科書は、『ひとりで学べるひらがな・カタカナ』(スリーエーネットワーク)と、『A New Approach to Elementary Japanese』(くろしお出版)の Vol.1,2 を使用している。授業スケジュール、担当者は以下の通りである。

	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
総合 (8:50-12:10)	総合 (坂本)	総合 (松林)	コミュニケーション (松岡)	総合 (坂本)	総合 (松林)
漢字 (13:00-14:00)		漢字 (坂本)		漢字 (松林)	

受講者は、前期 6 名(国費 1 名、交換 4 名、研究生 1 名)、後期 14 名(国費 5 名、交換 3 名、研究生 4 名、家族 2 名)である。なお、修了発表プレゼンテーションおよび筆記試験により評価を行った。

＜国際教育科目日本語科目＞

◎初級日本語Ⅰ（初修者対象）

科目名	内　容	時間	担当
文　法	初歩的な文法、語彙等の学習。 テキスト:『Nihongo fun & easy』(アスク)	水 1	加藤
会　話	日常生活で使う挨拶や簡単な会話学習。 テキスト:同上	水 2	大高
読　解	かな、簡単な漢字の読み、および簡単な文章読解の学習。 (ハンドアウト)	金 2	大高

◎初級日本語Ⅱ（150 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N4レベル）

科目名	内　容	時間	担当
文　法	初級後半の文法学習。 テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times)	月 1･2	大高
漢　字	漢字300 字程度学習。 テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times)	木 1	大畑
会　話	日常生活のやや長い会話学習。 テキスト:『げんきⅡ』(the japan times)ほか	木 2	佐藤

◎中級日本語Ⅰ（300 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N3レベル）

科目名	内　容	時間	担当
文　法	初級レベルの復習、中級前半レベルの文法学習。 テキスト:短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』、『中級日本語文法整理ポイント 20』(アルク)	月・木 1	松岡
会　話	日常生活や大学生活に必要な基礎的な会話学習。 テキスト:『聞いて覚える話し方－日本語生中継初中級1』(アルク)	月 2	加藤
読　解	アカデミック文章読解基礎。 テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1読解編』(アルク)	火 4	松林
作　文	アカデミック文章作成基礎。 テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1作文編』(アルク)	火 2	坂本
漢　字	中級前半レベルの漢字 300 字程度学習。 テキスト:『日本語総まとめ N3 漢字』(アスク)	木 2	松林

◎中級日本語Ⅱ（450 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N2レベル）

会　話	大学生活（研究室、授業等）に必要なやや高度な日本語の会話学習。 テキスト:『聞いて覚える話し方日本語生中継中上級編』(くろしお出版)	月 1	加藤
読　解	やや高度なアカデミックな文章の読解学習。 テキスト:『留学生のための読解トレーニング』(凡人社)	金 3	大高
文　法	日本語能力試験N2程度の文法学習。 テキスト:『中級日本語文法整理ポイント 20』(スリーエーネットワーク)	水 2	加藤

作　文	やや高度な文章作成方法学習。テキスト:ハンドアウト	火 3	加藤
漢　字	大学の学習、研究に役立つ漢字・語彙学習。 テキスト::『日本語総まとめ N2 漢字』(アスク)	水 3	大高
アカデミック日本語	日本語能力試験N2対策。テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2』(アルク)	木 4	松林

◎上級日本語 (600 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N1レベル以上)

ビジネス日本語	600 時間程度以上学習した人が対象。仕事で使う日本語表現学習。テキスト:『日本企業への就職ービジネスマナーと基本のことば』(アスク)	月 3	坂本
アカデミック日本語	600 時間程度以上学習した人が対象。日本語能力試験N1対策学習。テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1』(アルク)	金 4	坂本

＜教養教育　外国語科目＞(600 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N1レベル以上)

上級日本語 A・E (口頭表現)	前期は討論および発表能力、後期は状況による使い分けに焦点を当て、口頭表現能力を養成する。 テキスト:ハンドアウト	月 4	松岡
上級日本語 B・F (論文作成)	600 時間程度以上学習した人が対象。大学の学習、研究に必要なレポート、論文作成学習。 テキスト:(前期)大学・大学院留学生の日本語4論文作成編(アルク) (後期)大学生のための論理的文章の書き方 (スリーエーネットワーク)	水 4	加藤
上級日本語 C・G(文系)	600 時間程度以上学習した人が対象。前期は、文系分野で使われる基礎的な語彙力、後期は文系の専門分野別日本語表現学習。 テキスト:ハンドアウト	木 3	加藤
上級日本語 C・G(理系)	600 時間程度以上学習した人が対象。実験、レポート等、理系分野で使われる専門基礎用語、表現力学習。 テキスト:ハンドアウト	金 1	大高
上級日本語 D・H(読解)	600 時間程度以上学習した人が対象。授業、研究、日常生活で接触する文字情報の読解力学習。 テキスト:大学・大学院留学生の日本語3論文読解編(アルク)	金 2	D 菊池 H 大高

＊時間数は各学期分。A,B,C,D は前期、E,F,G,H は後期開講科目。

＊農、理工学部正規留学生日本語履修者は上級日本語C, G(理系)が必修。

3. 実施状況

各学期の受講者数は以下のとおりである。なお、下記のほか、後期にはアメリカ・アーラム大学 SICE プログラム学生7名(初級Ⅱ1名、中級6名)が月曜・木曜午前に 7 週間のみ受講した。

	交換留学		総合科学研究科		学部正規		院生・研究生等	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
初級日本語Ⅰ文法	2	1					3	3
初級日本語Ⅰ 表記・読解	2	1					3	2
初級日本語Ⅰ会話	2	1					3	3
初級日本語Ⅱ文法	1						8	2
初級日本語Ⅱ漢字	1						3	1
初級日本語Ⅱ会話		1					7	1
中級日本語Ⅰ文法	9	9					1	4
中級日本語Ⅰ会話	8	10					4	4
中級日本語Ⅰ作文	2	10	1				1	1
中級日本語Ⅰ読解	6	8					3	4
中級日本語Ⅰ漢字	3	7	1				1	5
中級日本語Ⅱ文法	9	8	1				5	9
中級日本語Ⅱ会話	7	11	1				5	2
中級日本語Ⅱ読解	7	5					2	7
中級日本語Ⅱ作文	11	10					1	1
中級日本語Ⅱ漢字	13	3					4	1
中級日本語Ⅱ アカデミック	14	5	1				2	3
上級日本語 ビジネス	7	9					4	2
上級日本語 アカデミック	6	4		1			1	5
上級日本語 A・E （口頭）	5	2	2		3	6	1	2
上級日本語 B・F （論文作成）	14	14	7	1	2	4	4	2
上級日本語 C・G （理系）	1			1			1	1
上級日本語 C・G （文系）	3	3		1	2		2	1
上級日本語 D・H （読解）	5	3		3	3		2	
小計	138	125	14	7	10	10	71	66
合計	前期　233			後期　208			合計　441	

＊総合研究科：大学院総合研究科「アカデミック日本語」として単位認定

「その他」は大学院生、研究生、家族、県立大学生

報告：松岡洋子

夏期休暇日本語補講および課外日本語学習支援報告

夏期休暇中に初級レベルの日本語学習を希望する学生および、本学の協定大学であるアメリカ・アーラム大学短期研修（SICEプログラム）の学生を対象として、夏期休暇日本語補講を行った。また、学習者の個別ニーズに対応するため、日本語教育を学ぶ学生による日本語チューター活動と、「日本語カフェ」を実施した。各内容は以下のとおりである。

1. 夏期休暇日本語補講

期　間: 2019 年 8 月 26 日～9 月 12 日　9:00－12:00 （全6日×2コマ×2 レベル）

受講者: 初級修了者（12 名:うち SICE 学生 7 名）

＜内容・スケジュール＞

	初級Ⅰ復習		初級Ⅱ復習	
	内容	担当	内容	担当
8 月 26 日	漢字 1 （げんき review 1-3）	加藤	漢字1 （N4トライアル）	松林
	聴解 1 （げんき review 1-3）	加藤	聴解1 （N4トライアル）	松林
8 月 29 日	文法 1 （げんき review　1-3）	大畑	文法1 （N4トライアル）	坂本
	聴解2 （げんき review 4-6）	大畑	漢字2 （形容詞）	佐藤
9 月 2 日	漢字2 （げんき review 4-6）	加藤	文法2 （自動詞・他動詞）	坂本
	文法2 （げんき review 4-6）	加藤	会話・聴解2 （自動詞・他動詞）	坂本
9 月 5 日	聴解3 （げんき review 7-9）	大高	漢字3 （位置・方向・量）	佐藤
	漢字3 （げんき review 7-9）	大畑	文法3 （条件）	佐藤
9 月 9 日	文法3 （げんき review 7-9）	大高	会話・聴解3 （条件）	松林
	漢字4 （げんき review 10-12）	大高	漢字4 （学校・科目）	松林
9 月 12 日	文法4 （げんき review 10-12）	大高	文法4 （敬語）	松林

① **個別学習支援**

授業以外に個別学習を希望する学生に対して、教育学部1名、人文社会科学部 1 名の学生による個別学習支援を行った。

実施時期: 前期 6～7月、 後期 11～1 月

対象:日本語研修コース学生 1 名、交換留学生1名、大学院生 1 名

② **日本語カフェ**

後期(10 月～1 月)の毎週火曜、木曜の昼休みにグローバルビレッジにおいて実施した。日本語学習を希望する留学生や日本語での交流を希望する留学生と日本人学生が参加し、グローバルビレッジのスタッフと日本語チューターが運営を担当した。

報告:松岡洋子

教養教育科目

1.　日本事情 A・B

教養教育科目「日本事情A・B」は、留学生が専攻や学年制限なしで参加できる日本文化のプログラムである。「日本事情A」（前期）は、日本の地域史をテーマにし、イントロダクション（1回）・陸奥（岩手県を中心に）（3回）・横浜（神奈川県）（1回）・土佐（高知県）（1回）・出雲（島根県）（3回）・筑前（福岡県）（1回）・琉球（沖縄県を中心に）（3回）・まとめと復習（1回ずつ）の順で、日本各地の歴史、風土、文化について説明した。

「日本事情B」（後期）は、基本的に日本の世界遺産をテーマにし、4回は木村先生の協力を得て、「習性法則」の課題で講義した。その後は、紀伊山地・平泉・厳島神社・琉球王国・石見銀山・姫路城・明治日本の生産革命・原爆ドーム・長崎の教会群・まとめ・復習の順で講義を行った。

授業の形は講義がメインだが、参加学生ははプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。留学生の場合、日本語能力が限られているため、できるだけ単純で理解しやすい言葉や文法を使用して講義を行った。教科書も読みやすい本を選んだ（前期は、数研出版の『基礎からの中学歴史』、後期は、ジャパンタイムズの『英語で伝えたい日本の世界遺産』）。この授業の履修を契機に留学生は自分の専門以外の日本文化や歴史に触れ、日本の様々な事情をよりよく理解できた。

担当：アンデス・カールキビスト

2.　多文化コミュニケーション A・B

日本人学生、外国人留学生共修科目である多文化コミュニケーションA（前期）、多文化コミュニケーションB（後期）を実施した。多文化社会におけるコミュニケーション課題をトピックとして取り上げ、討論、共同作業を通じた実践的な授業を行った。合宿研修を授業に組み込んでいるため、その移動、授業効果等を勘案し、履修者は日本人学生、留学生各 20 名に制限した。　前期（多文化コミュニケーション A）は学部2年次および交換留学生が主たる受講者である。今年度も二戸市教育委員会の依頼により、中学生（18 名）と岩手山青少年交流の家で合同合宿を行った。合宿では多文化コミュニティでの課題（今年度は「多文化運動会を企画する」）を与え、グループでの共同作業の成果を発表させた。後期（多文化コミュニケーション B）は学部1年次および交換留学生が主たる受講者で弘前大学、秋田大学との合同合宿を岩手山青少年交流の家で行った（合宿については「北東北3大学合同合宿研修報告」参照）。この授業は、留学生、日本人学生の共修教育として、他大学、中学生等の多文化接触の機会として、多文化コミュニケーション能力の中で「意識啓発」の意義がある。今後も継続予定である。

担当：松岡洋子・尾中夏美

3. 現代の諸問題（教育とグローバル化）

1年生を対象とし 46 名が受講した。岩手に縁があってグローバルに活躍するゲストスピーカー（以下 GS）5 人からキャリアを積み上げる過程について聴くことを軸に実施した。流れとしては事前課題で GS から提示された資料を読んで質問を準備する。講話を聴いてから4、5名で構成されるグループで講話内容をまとめ、それをベースにディスカッションを行い、GS の態度、考え方、能力などを分析しポスタープレゼンテーションを実施。これを 5 回繰り返す。最終的には、5 人の GS の共通項を抽出し、グローバル人材の特性をまとめてポスタープレゼンテーションを行った。これを踏まえ、大学生活の中で自分にとって必要と思われる考え方や能力を育成するためにどのように送っていくかの決意表明を各自がポスターにまとめて動画を撮り、一般公開しない設定で YouTube にアップロードした。グループの構成メンバーは 2 週間毎にシャッフルすることにより多様性の確保とコミュニケーションスキルの涵養を目指した。今後もグローバル人材が遠い存在ではないことを理解し、体験者から身につけるべき知識・能力などを学ぶとともに、グループ作業等を通じてコミュニケーション能力とプレゼンテーション技能等の向上を図っていきたい。

担当：尾中夏美

4. 初年次ゼミナール（トビタテ！岩大生）

「トビタテ！留学 Japan」の申請用紙を完成させる、という作業を通して、具体的なプロジェクトの立て方と、読み手が具体的に内容を把握できる書き方の基礎が習得できる講義内容とし、限られたスペースの中でいかに具体性が高く情報密度の高い文章を作文するかを中心的課題とした。履修者は人社学部1年生5名、理工学部1名、農学部 1 名であった。毎回 1 項目ずつ記載項目に記入し、相互に評価し、それを元に改訂していくという作業を行った。最終的には、実際に採択となった申請書を参考にして、説得力のある申請書を完成するとともに、最後は、二次審査と同じ形式を採用して 4 分間の口頭発表も実施し相互評価を行った。

担当：尾中夏美

5. 現代の諸問題（英語討論入門）

この授業の目的は、日本人学生が英語をツールとしてディスカッションや口頭発表を実施し、論理立てて主張する手法や英語でのコミュニケーションに自信を身につけることにある。今期は1年生5名、交換留学生は米国人1名、アイスランド人1名、韓国人 1 名、正規生のマレーシア人 1 名、大学院生の中国人1名が受講した。交換留学生と日本人学生が混ざる小グループでテーマに関して賛成・反対の口頭発表を行い、それまでのプロセスでの自分の学びを評価するという内容で実施した。ディベートのテーマは”Should the death penalty be allowed?”, “Should Freedom of Speech be Guaranteed?”そして3つ目は学生たちの希望か

ら”Should Euthanasia be Allowed?”に決まった。ディスカッションは英語で実施し、発表について日本人は英語、留学生は日本語でチーム毎に協力してそれぞれ発表した。

担当：尾中夏美

6. 地域と国際社会

世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した「持続可能な開発目標（SDGs）」を参照しながら、貧困、教育を皆に、ジェンダー平等、住み続けられる街づくりなど、持続可能な社会をつくるために世界が一致して取り組むべきビジョンや課題を理解した。これらの開発目標は開発途上国をはじめとする地球規模課題である一方、日本に暮らす私たち自身が抱えるローカルな問題でもある。このような認識の元、本授業では、世界の課題と地域の課題を相関的に捉え、リアルな日常から課題解決を考える視座と当事者意識を養い、具体的行動を喚起することを目的とした。外務省国際機関人事センター中野美智子課長補佐による講演「国際機関で働こう！グローバルキャリアの築き方」、NPO 法人インクルいわて山屋理恵理事長による講演「こども食堂と社会包摂」を Global Village 共催で実施した他、教育協力NGOネットワークJNNEの協力を得て「My education, My rights：教育は私の権利」というテーマで「世界一大きな授業」という SDGs4の達成を目指す世界同時キャンペーンに授業を通じて参加した。これらの講義は一般公開とし、県外からの高校生や地域からの方々の参加があった。アクティブラーニング形式の元で、学生はディスカッションやグループワーク、口頭発表を行い、国際社会で必須の発言力やプレゼンテーション能力を向上させた。

報告：平井華代

7. 英語で学ぶ日本文化（いけばなB）

教養教育科目「英語で学ぶ日本文化」は、留学生と日本人学生が専攻や学年の制限なしで参加できる日本文化プログラムで、イントロダクション、盛り花の稽古（5回）、いけばなの歴史①（いけばな入門）・生花（しょうか）の稽古（5回）、いけばなの歴史②（いけばなの伝統）・復習（2回）の順で、日本の文化の1つであるいけばなの学習及び体験をした。

授業は稽古がメインだったが、留学生と日本人学生の交流の場にもなり、いけばなの歴史の学習も行った。授業は英語で行い、日本の学生にとっては英語の練習にもなった。花材は参加学生の自己負担にした（稽古1回につき千円、計10回の花材は合計一万円）。

この授業の履修を契機に留学生に限らず日本人学生も知らなかった日本文化や歴史についてより深く学んだ。

担当：アンデス・カールキビスト

国際研修 SCIP：フィリピン（貧困と持続可能な社会）

1. 概要

（1）本科目は、貧困と持続可能な社会をテーマに、グローバルな課題を地域の視点から理解し取り組む志向を持つリーダーに求められる資質を養成することを目的とした、フィリピン・セブ島で実施する約2週間の海外研修である。1週目はサンカルロス大学語学研修所で英語研修を実施した。2 週目はセブ市及びマンダウエ市の都市インフォーマル地域に暮らす子供と家族を支援する現地NGOの活動に視察・参加するフィールドワークを実施した。

（2）日本とフィリピンにおける貧困、格差、ジェンダー平等、支援、発表やインタビューの方法等、英語を交えつつ、講義、文献購読、国内関連団体への訪問、発表を通じて学ぶ事前研修を実施した。帰国後は事後研修を通じ、学びを深めたほか、口頭発表・報告書作成を行い、学びを総括した。

（3）受け入れ先はグローバル教育センター―との覚書を締結しているサンカルロス大学 External Relations Office 及び Bidlisiw Foundation Inc.である。海外送金を中心とする事務手続きの一部は、京王観光株式会社が代行した。

2. 日程と研修内容

以下のように、事前事後研修及び現地研修を実施した。

(1) 事前事後研修

以下の日程と内容で事前事後研修を実施した。

	日程（2019 年）	授業で取り上げるテーマ
1	4 月 23 日（火）	オリエンテーション、自己紹介 事前アンケート記入、持続可能な開発目標（SDGs）とは 図書貸し出し開始、Line グループ作成
2	5 月 7 日（火）	英語で自己紹介　貧困とは、開発の理論 国際協力、支援：ODA
3	5 月 21 日（火）	Philippines の貧困、 貧困分析：ケーススタディ（貧困の連鎖を断ち切る支援）
4	5 月 28 日（火）	ソーシャル・キャピタル（つながり）　こども食堂
5	6 月 4 日（火）	県庁保健福祉課こども子育て支援課
6	6 月 18 日（火）	ビデゥリシウ財団の活動 振り返り（県庁、インクルいわての講話） フィリピンについての発表準備（①文化、②言語、③歴史、④社会、5民族、⑥経済、⑦日本との関わりなど）
7	6 月 25 日（火）	Philippines について発表 インタビュー練習　次週発表準備
8	7 月 2 日（火）	学生の発表：日本の貧困（①ひとり親、②学生と奨学金、 ③子供、④ホームレス、⑤ワーキングプア、⑥女性・ジェンダー、

		⑦生活保護と支援制度、⑧こども食堂、⑨つながりを生む支援）
9	7 月 9 日（火）	英語で上記課題を発表　　8 分X10 人（80 分）質問 2 分
10	7 月 23 日（火）	英語で発表つづき、ジェンダーと貧困
11	7 月 30 日（火）	こども食堂×岩手大学フィリピン研修生（注1）
12	8 月 20 日（火）	旅行代理店京王観光　渡航前オリエンテーション
13	9 月 3 日（火）	渡航前準備、現地ケータイ操作練習、交流準備等
14	9 月 24 日（火）	事後研修振り返り、報告書
15	9 月 25 日（水）	同上
16	2019 年 11 月 2020 年 2 月	体験報告会

（注 1）国内の家族支援の現場を知るため、以下のように特定非営利活動法人インクルいわてのこども食堂を参加学生と実施した。

【日程】:2019 年 7 月 30 日（火）12:20～14:30

【タイトル】:こども食堂「英語で遊ぼう！」

【場所】:岩手大学中央学生食堂、学生センター1 階 Global Village

【参加者】:40 名（内訳:3 歳から 11 歳までの子どもを含む親子 25 名、学生 9 名、八戸学院大学からの視察者 2 名、インクルいわてスタッフ 2 名、教員 2 名）

【内容】:平井からフィリピン研修の説明、本学学生によるフィリピン紹介、英語でゲーム、風船あそび等。

(2) 現地研修

以下の通り、2019 年 9 月 9 日から 9 月 21 日まで実施した。グローバル教育センターより2名の教員が交代で現地引率を行った。

尚、出発の 9 月 9 日は、台風 15 号の影響により、東京駅から成田空港までの交通機関が麻痺しており、やむを得ずフライトをキャンセルした。京王観光による手配の元、成田空港近隣のホテルに宿泊し、翌朝 9 月 10 日のフライトでセブに到着した。研修日程は、休日の時間を調整し、予定していたプログラムをすべて消化した。

日程		午前	午後
1 日目	9 月 9 日（月）	成田空港	成田 AIC エアポートホテル
2 日目	9 月 10 日（火）	成田空港	セブ・マクタン空港到着 サンカルロス大学語学研修開講式
3 日	9 月 11 日（水）	英語研修開始　インタビューテーマ:日本人の印象、日本文化	
3 日目	9 月 12 日（木）	英語研修:インタビューテーマ:貧困	
4 日目	9 月 13 日（金）	英語研修:インタビューテーマ:環境、ごみ処理	
5 日目	9 月 14 日（土）	英語研修:インタビューテーマ:ジェンダー	
7 日目	9 月 15 日（日）	ゴミの山で暮らすコミュニティ訪問（Umapat Dump site community）	ゴミの山から移住した先のハウジングプロジェクトと住民訪問・インタビュー（Jansenville Housing Project）

8 日目	9 月 16 日（月）	ブリーフィング ＠Bidlisiw Foundation FORGE（こども支援NGO）の活動説明	セブ州防災センター訪問、防災プログラムについてブリーフィング
9 日目	9 月 17 日（火）	支援を受けて復学・就職したスラムの元 CSEC の若者へのインタビュー（3 名）	支援を受けて行動変化を起こしつつある CICL の若者にインタビュー（2 名）
10 日目	9 月 18 日（水）	カランバ墓地（Calamba Cemetery）訪問、墓地に暮らす Lorda, Christian 親子にインタビュー、支援を受けた Femily さん夫妻にインタビュー	ビデゥリシウ財団セブ事務所にて地元高校生ピア・エデュケーターの研修（構造学習活動 Structured Learning Activity）に参加。
11 日目	9 月 19 日（木）	ビデゥリシウ財団職員 Pam 氏との振り返りセッション、意見交換	支援を受けたスラムの母親 2 名にインタビュー
12 日目	9 月 20 日（金）	修了発表会準備	修了発表会、修了証書授与 振り返りセッション
13 日目	9 月 21 日（土）	セブ・マクタン空港	帰国

3. 単位

海外研修（教養教育科目）に 2 単位、海外研修事前事後研修（国際教育科目）において 2 単位、合計 4 単位を付与した。

4. 参加学生

合計8名（内訳：人文社会学部 4 名、教育学部 1 名、理工学部 1 名、農学部 2 名）

男女内訳：女性7名、男性1名

＊人文社会学部よりもう一名の参加予定があったが、体調不良により現地研修はキャンセルされた。

5. 奨学金

JASSO より 7 万円の奨学金が支給された。

6. 成果

(1) 事前研修

地域のこども・家族支援について理解を深めるため、岩手県庁保健福祉課担当者を招き「岩手県子どもの生活実態調査集計結果」について説明を受けた。子ども食堂などの居場所の利用を希望する保護者が就学援助世帯で 5 割を超えるなど、高い利用希望率が示された。また、昨年度に引き続き特定非営利活動法人インクルいわてと共催で子ども食堂を実施した。こども食堂への理解が深まる機会となっただけでなく、現地で必要な積極的な姿勢やチームワークが養われる機会となった。

事前研修では、日本の課題を理解し、さらに英語で重要なポイントを話せるようになることを

一つの大きな目標に据えている。そのため、テーマを①ひとり親、②学生と奨学金、③子供、④ホームレス、⑤ワーキングプア、⑥女性・ジェンダー、⑦生活保護と支援制度、⑧こども食堂、⑨つながりを生む支援に分け、各学生が発表を行い、それらを英語で発表する練習を実施した。フィリピン現地研修での最終日に実施したプレゼンテーションでは、日本とフィリピンの事例の比較検討やフィリピンでの学びを日本で応用する提案がなされており、事前研修の成果が見られた。

(2) 英語研修

サンカルロス大学での英語研修中は、英語での発話力・会話力の向上を最重要視している。そのため、研修内容は教室外でのインタビューを中心に据え、教室では関連する表現や発音、文法を学習する内容に構成している。インタビューテーマは、日本人・文化について、貧困、ジェンダー平等とした。一週目に話す訓練を積むことで、生きた英語を学び、使う度胸が育まれ、二週目のスラム地域での積極的な対話姿勢や発話につながっていた。

(3) フィールドワーク

Bidlisiw 財団の支援を受けたこども、若者、家族を中心にインタビューや交流を実施した。支援を受けて大学生になった元ストリートチルドレンの若者や現在政治に携わる元 CSEC（商業的性搾取を受けた子ども）だった若者や、夫の家事育児に積極的になり、家族関係が良好になり収入が増えた夫婦の話を聞き、有効な支援とはどのようなものかを検討した。また、関連 NGO（FORGE）、行政機関（防災組織）への視察を通じて官民によるこども・家族支援の現場を知り、学びを深めた。

(4) 事後研修

聞き取り調査をもとに、NGO 被支援者の若者のライフストーリーを振り返り、どのような支援が貧困の連鎖を断ち切るために有効か、活発な意見交換が行われた。ジェンダー平等の取り組みが遅れている日本において、NGO が実施していた動画教材を使用して Husband Training をすることが提案され、実際に学内 Global Village のイベントとして「The Impossible Dream 幸せな家族になるために」というワークショップが学生により実施されたことは特筆に値する。

7. まとめと今後の展開

台風の影響を受けるというスタートとなり、途中体調を崩して休む学生がいたが、大きな事故病気はなく無事帰国できた。

本年度で 5 回目となるが、この間、試行錯誤を重ね、さらに、こどもの貧困や支援について、フィリピンと日本を事例に理論だけでなく体験と交流に基づいた、「実感」を伴う学びを伴う研修になったという手ごたえを感じている。課題への理解や、課題解決に向けた動機づけが涵養されているだけでなく、学生自身の生き方や価値観をも揺さぶられる体験となっている。以下に帰国後アンケートからの一部抜粋を記す。今後、長期にわたり、この研修での学びが学生自身と、社会に好影響を及ぼすことを望む。

☆参加学生の声（海外研修フィリピンに参加して）

・第一に、フィリピンと日本の貧困問題に対する認識が変わった。以前は、フィリピンの貧困と日本の貧困は全くの別物であると考えていた。たしかに同じ貧困問題でもその内容や程度は異なっているが共通する点もあり、貧困家庭の家庭環境の悪さや家庭環境や周囲との関係の在り方によって、特に子供は影響を受けやすく、非行や犯罪に走ってしまいやすくなるという構造は似ていて、フィリピンと日本の共通の課題であると考えるようになった。また、フィリピンでは、貧困などの問題が目に見えやすいゆえに、当事者ではなくてもその課題について問題意識をもって考えている人が多いが、日本では、自分や自分に近い人が当事者にならない限り、問題を認識していない人がほとんどであるように感じ、そこが日本の課題の一つであると考えた。第二に、英語を話すことに対する苦手意識が少なくなったことは自分にとって大きな変化だと感じる。現地ではほとんど常に英語を使っていたので、次第に慣れていったことと、自分の英語が思っていたよりも伝わるということが分かってすごく自信につながったように感じる。（人文社会学部 3 年 HM さん）

・公務員を目指していたが、この研修に参加したことで別の職種にも目を向けようと思った。そのために、英語をより勉強していき TOEIC を900点まで上げたい。この研修のおかげで自分の将来について見直す機会を与えてくれた。今回の研修で終わるのではなく、今後の大学生活もこれから頑張ろうと思った。（人文社会学部 3 年 YT さん）

報告：平井華代

国際研修 SCIP：インドネシア（世界遺産と持続可能な社会）

1. 趣旨と概要

本研修は「世界遺産と持続可能な社会」をテーマとし、岩手県内の世界遺産とインドネシアの世界遺産を比較し、その保全、活用に関する持続可能性について考えることを目的として実施した。グローバル教育センターが実施する国際研修（SCIP）では、英語を活用するものが中心だが、本研修は英語に自信のない学生でも参加しやすいよう、日本語使用がメインとなるプログラムである。なお、現地でインドネシア語を使用する場合には日本語通訳者が付いて対応した。海外研修に必要な資源の多くはスラバヤのアイルランガ大学から提供されており、宿泊費、渡航費も安価であることが、特徴である。

2. 実施内容

研修は、事前研修で県内の世界遺産に関する学修、インドネシアの世界遺産に関する予備知識の学修、インドネシアでの海外研修、帰国後の事後研修で両国の世界遺産の比較からの提言報告、という 3 つのカテゴリーで実施された。スケジュールは以下の通りである。

＜事前研修＞

4 月から 7 月にかけ、週 1 回の事前研修を行った。内容は、ガイダンス、日本の世界遺産概論講義、岩手の世界遺産解説講義、遺跡の保護に関する講義、インドネシアの生活および遺跡に関する解説講義を学内外の講師および本学に交換留学で在籍するアイルランガ大学の学生により行われた。また、平泉（中尊寺、毛越寺等）、釜石（橋野高炉等）の見学を行い、県内の遺跡に関する知識を高めた。

＜海外研修＞

日程	活動
8 月 25 日（日）	移動（盛岡~羽田）
8 月 26 日（月）	移動（羽田～スラバヤ） チェックイン（Hotel Evora）
8 月 27 日（火）	【ガイダンス】インドネシア研修について 【講義1】「マタラム王国と中部ジャワ島の歴史」 【講義2】「ボロブドゥール遺跡、プランバナン寺院群」 【ディスカッション1】「世界遺産の意識について」
8 月 28 日（水）	【講義3】「遺産促進と大学生ができること」 【ディスカッション2】「保護と活用」 【見学1】スラバヤ市内（タバコ博物館、中華街、モスク）
8 月 29 日（木）	移動(スラバヤ～ジョクヤカルタ) →チェックイン （Hotel Matantha） 【講義4】「中部ジャワ島の世界遺産と保護」

8 月 30 日（金）	【見学2】プランバナン、チャンディ・セウ寺院群、チャンディ・ロトゥボコ宮殿跡
8 月 31 日（土）	【見学3】ボロブドゥール、パオン、ムンドゥッ寺院見学 移動（ジョクヤカルタ～スラバヤ
9 月 1 日（日）	スラバヤにて自由時間　　中間レポート作成（2000 字）
9 月 2 日（月）	【講義5】「バティックの世界」 【見学4】バティック工場
9 月 3 日（火）	【講義6】「マジャパイト王国と古都トゥルーラン」 【見学5】古都トゥルーラン（資料館、Bajang Ratu 都門、Candi Tikus 寺院 地元住民へインタビュー
9 月 4 日（水）	日本語版パンフレット作成 ランチ（アイルランガ大学食堂にて）
9 月 5 日（木）	【発表】日本語版パンフレットの紹介 【ディスカッション3】「岩手県とインドネシア：異類と共通点」 フェアウェルパーティー 移動（スラバヤ～羽田）
9 月 6 日（金）	移動（羽田～盛岡）

＜事後研修＞

10 月から 11 月にかけ、事前研修、海外研修で得た知識を元に参加者それぞれの関心事項について比較検討しながら、最終報告会の準備を行い、グローバルビレッジにおいて公開報告会を行った。また、各参加者には最終報告書の提出を義務付けた。

3. 参加者

理工学部 2 年次　2 名　　農学部 3 年次　2 名　　計 4 名

4. 研修効果・課題

学生の報告書、アンケートから、世界遺産に対する関心の向上、インドネシアやイスラム教に対する見方の変化、日本と海外を比較することによる双方に対する認識の深まりなどが見られた。また、この研修では英語力を求めることはないが、海外での滞在で言語力の重要さに対して意識が高まり、英語力の習得に対する意欲が高まった。今年度は、昨年度の反省を生かし、インドネシアでの研修において移動の負担を軽減したため、参加者の負担が少なくなった。また、今年度も JASSO の奨学金を得られたため、学生の経済的負担も軽減できたが、今後、JSSSO 奨学金が募集されないことが決定されており、参加者負担が増え、参加者が減少することが予想される。また、夏期休暇中には国内外で多様な教育プログラムが重複する状況にあり、実施時期等について検討が必要となる。

報告：松岡洋子・アンデス・カールキビスト

国際教育科目（共修科目・留学生専用科目）

1. 国際協力・開発援助論

貧困を始めとした世界が直面する諸問題について持続可能な開発目標（SDGs）を使って考察するとともに、開発に関連して生起する諸問題や、国際協力・開発援助の仕組みや政策、国際協力分野におけるキャリアパスについての理解を深めることを目的とした。国際協力・開発援助に関わる政府、NGO、国際機関等、様々なアクターの特徴、開発に向けてのアプローチについての理解を深めた。学生の積極的な参加と発言を促すため、講義のみならず学生による発表やディスカッション、ワークショップを交えたアクティブラーニング形式で進めたほか、フィリピンの行政官との交流、外部講師による講演、国際シンポジウム、こども食堂の参加など、実地体験の機会や実践者からの体験談を聞く機会を設けることにより多角的に学ぶ機会を設けた。援助とつながりを資源と捉えるソーシャル・キャピタルを取り上げ、こどもの貧困課題に取り組むフィリピンと日本 NPO/NGOの取り組みを例に、ソーシャル・キャピタルと支援について議論し、子ども食堂への訪問を実施した（下記の日程の通り）。

日程	主催団体	子ども食堂名 開催場所	内容
11 月 9 日（土） 9:15-14:00	NPO 法人 インクルいわて	いんくるステーション アイーナ いわて県民情報交流センター	シチューやサラダ、カード遊びや絵本読み聞かせ、フィナンシャルプランナーによる「いくらかかるの？教育費」視察参加、交流
11 月 30 日（土） 10:30～13:30	特定非営利活動法人もりおかユースポート	子供・地域よりあい広場“わっこの家 盛岡市青山 3 丁目 29－4	カレーとナン、プラバンづくり、交流
12 月 15 日（日） 10:30～13:30	矢巾町母子寡婦福祉協会	ここかむ食堂 紫波郡矢巾町南矢幅 14-78 矢巾町保健福祉交流センター	クリスマス会の食事づくり、交流

報告：平井華代

2. 国際講義 Global Studies

The course helps the students to identify the issues and challenges related to Sustainable Development Goals (SDGs) that current Japan and the world have and to explore possible measures and solutions to achieve sustainable society. This year, the course had students from Iceland, China, Japan, Rossia and Korea. Through lectures, discussions and presentation, the students developed knowledge and skills for critical thinking about social exclusion, poverty, social capital, gender equality, happiness and well-being at local, national and global level. Participation in an international symposium on SDGs, interaction session with JICA trainees from the Philippines and lecture on world adventure conducted by Mr. Tatsu Sakamoto gave them additional opportunities to interact with various people with global perspective. The course ended with questionnaire of the students, which showed high satisfaction of the contents and actively conducted discussions from international perspective.

報告：平井華代

3. Iwate Studies A・B

国際教育科目「Iwate Studies A・B」は、日本語能力の低い留学生の為に行う日本文化のプログラムである。「Iwate Studies A」（前期）は、岩手の歴史をテーマにし、講義と見学を交互に行った。イントロダクション・講義①先史（縄文時代～古墳時代）・見学①（岩手大学ミュージアム）・講義②蝦夷（飛鳥時代～平安時代前期）・見学②（志波城の跡）・講義③平泉（平安時代中期～後期）・見学③（遺跡の学ぶ館）・講義④南部氏（鎌倉時代～江戸時代）・研修④（盛岡城跡、櫻山神社）・講義⑤盛岡市（江戸時代～大正時代）・見学⑤（岩手県立博物館）・講義⑥近代の岩手（昭和時代～平成時代）・見学⑥（盛岡市内：鉈屋町）・まとめ・復習の順で岩手の歴史について説明した。授業は講義がメインだが、参加留学生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。

「Iwate Studies B」（後期）は、岩手の文化をテーマにし、岩手大学内のサークルや盛岡市内の施設を見学したほか、復習のため幾つかの講義も行った。イントロダクション・仏教（報恩寺）・民俗学（岩手県立図書館）・茶道体験（盛岡公民会館）・神道（盛岡八幡宮）・南部鉄器（岩鋳）・日本酒①（菊の司）・日本酒②（グラスト）・日本酒③（あさ開）・伝統的な町作り（鉈屋町）・和食（刺身）・まとめ・復習の順で行い、岩手らしい文化について学習し、体験させた。

見学は大学負担でタクシーを利用し、施設の利用料などは留学生・教員共に自己負担にした。授業は英語で行い、見学場所では、ガイドが英語対応できない場合、担当教員が通訳をした。

担当：アンデス・カールキビスト

4. Comparative Japanese History A・B

「Comparative Japanese History」は、日本語能力の低い留学生を対象にしたが、日本人学生も参加できる日本文化プログラムでもある。「Comparative Japanese History A」(前期)では、日本神話をテーマにし、海外の様々な神話との比較を行った。イントロダクション・日本神話入門・日本神話と印欧神話・大陸からの影響①(セイントジョージとスサノヲ)・大陸からの影響②(ギリシア神話と日本神話)・日本神話と東南アジア神話・日本神話と政治①(神武天皇)・日本神話と政治②(ヤマトタケル)・地方の神話と「風土記」・地方の神話と自治制(出雲神話)(2回)・日本神話と貿易・奈良時代仏教の伝説・復習・まとめの順で、様々な視点から日本神話について説明した。

「Comparative Japanese History B」では、江戸時代の日本をテーマに、イントロダクション・歴史的な背景・家族・商品・政治(2回)・外交(2回)・社会・経済・娯楽(2回)・宗教・復習・まとめの順で講義を行い、江戸時代の日本を様々な視点から説明した。

授業は講義がメインだが、留学生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。教材として「Comparative Japanese History A」の授業では、『古事記』を始め、『日本書紀』、『出雲国風土記』、『日本霊異記』などの資料を英訳で読んだ。授業は英語で行い、基本的に英語の論文も宿題として読み、レポートを英語で書かせた。本授業の履修を契機に留学生に限らず日本人学生も知らなかった日本文化や歴史に触れ、より深い知識を得る機会となった 。なお、「Comparative Japanese History B」は、今期は実施しなかった。

担当:アンデス・カールキビスト

5. Japanese Traditional Culture A (いけばな A)

「Japanese Traditional Culture A」は、留学生と日本人学生が専攻や学年の制限なく参加できる日本文化プログラムである。前期には、日本いけばな(池坊)をテーマにし、イントロダクション(1回)・いけばなの歴史①(いけばな入門)・盛り花の稽古(5回)・いけばなの歴史②(いけばなの伝統)・生花(しょうか)の稽古(5回)・復習(2回)の順で、日本の文化の1つであるいけばなの知識を学習し、体験した。

授業は稽古がメインだが、留学生と日本人学生の交流の場にもなり、いけばなの歴史を一緒に勉強することができた。教室内では英語を使い、日本人学生にとっては英語の練習にもなった。花材は参加学生の自己負担にした(稽古1回につき千円、計10回の花材は合計一万円)。

本授業の履修を契機に留学生に限らず日本人学生も知らなかった日本文化に触れ、より深い知識を得る機会となった。

担当:アンデス・カールキビスト

短期留学生・日本語日本文化研修留学生個別研究

1. 概要

交換留学文系コースおよび日本語日本文化研修留学生に対する必修科目として「個別研究」を課している。グローバル教育センター専任教員4名の指導・助言の元、それぞれのテーマで研究し、日本語または英語でポスター発表を行った。

2. 研究テーマ

各学期の研究テーマは以下の通りである。

前期　（発表会　2019 年 7 月 16 日）	
所属	研究課題
韓国・群山大学	枕草子「春は曙」の季節
フランス・ボルドー・モンテーニュ大学	タトゥーの社会的意味 −日本とフランスの比較研究−
フランス・ボルドー・モンテーニュ大学	柴犬への日本人の愛着
フランス・ボルドー・モンテーニュ大学	盛岡の小学校における伝統文化の教育
タイ・サイアム大学	日本人大学生が持つタイのイメージ −岩手大学の学生を事例に−
タイ・サイアム大学	河童に対する外国人の意見
中国・西北大学	中国考古学からみた弥生時代の研究
中国・西北大学	大学生にとっての和服と漢服の対比
中国・寧波大学	日本における曹操の人物像 －盛岡地域を中心に－
アメリカ・ノースセントラルカレッジ	日本のホラー映画とアメリカのホラー映画の対比
中国・清華大学	日本と中国における大学生のキャリア支援 システムの比較
アメリカ・テキサス大学オースティン校	ロック音楽のギターコード進行の日米比較
韓国・明知大学	日本語と韓国語の敬語の違い －優しいか、冷たいか－
ロシア・サンクトペテルブルク ゛国立文化芸術大学	日本の平安時代の詩とロシアの黄金時代の詩における「寂しさ」の概念
アメリカ・アラスカ大学アンカレッジ校	日本語における英語の影響力と理解度
タイ・パンヤピワット経営大学	外国人から見たおもてなし
インドネシア・アイルランガ大学	字幕と吹き替えの比較の社会研究

後期　　（発表会　2020 年 1 月 14 日）	
所属	研究課題
韓国・群山大学	日本と韓国の若者のスタイルの違い
中国・寧波大学	日中における死生観の比較研究 ー現代社会の葬式文化を中心にー
中国・寧波大学	近代女子教育論の日中比較研究 ―森有礼と梁啓超を中心にー
中国・寧波大学	盛岡市の中学生不登校現象に対しての研究
中国・曲阜師範大学	『山椒魚』の仏教解釈:「貪・瞋・癡」
中国・曲阜師範大学	日本の高齢化から無縁社会の現状を考察する
中国・曲阜師範大学	あいづちの日中比較
ロシア・サンクトペテルブルク ゛国立文化芸術大学	ちりめん細工の説明書の翻訳を通じた日本語と日本文化の学習
ロシア・サンクトペテルブルク ゛国立文化芸術大学	プーシキンの散文の翻訳における日本語と英語での 行為開始表現の比較
韓国・明知大学	日韓関係の悪化による認識調査とその改善策
韓国・明知大学	日本と韓国の対外行事比較研究 ―2019 年の日本の G20 と 2018 年の韓国のオリンピック―
インドネシア・アイルランガ大学	日本とインドネシアのことわざの比較―猫に関することわざ―

3.　現状と今後の展開

今年度は、各学期に集合授業によって、研究の進め方、中間報告、ポスター発表の方法等について説明を行い、最終報告はポスター発表の形式をとった。日本語力が十分ではない履修者は、英語での発表も一部認めた。ポスター発表はグローバルビレッジにて公開発表形式として、学生、教職員、学外者等、各学期約 40 名程度が来場し、履修者の発表に対し質疑応答が繰り返された。また、来場者によるベストポスターの投票も実施した。

次年度もこの形式で、個別研究を進める予定であるが、教員の移動により指導体制の維持が困難となることが予想され、各交換留学生の指導教員の協力を得ることも検討を進めたい。

なお、芸術系コースの学生については、それぞれの所属において、作品制作などに取り組み、作品発表会を行った。

報告:松岡洋子

北東北国立3大学合同合宿研修

1. 実施概要

本合宿研修は、留学生と日本人学生との共修教育の連携を図ることを目的とし秋田大学、弘前大学と本学の3大学合同で平成 16 年度から行われている。岩手大学は教養教育科目「多文化コミュニケーション B」の一環として実施し、また、第 3 期中期計画の大学間連携事業として位置づけられたものである。今年度は弘前市の岩木青少年スポーツセンターを会場として実施した。活動としては、大学紹介、学生主導によるアイスブレーク、大学混成のグループでの共同作業として文化の違いを表すスキット作成を行った。

実施時期・場所 ： 令和元年12月 7日（土）～8日（日）
岩木青少年スポーツセンター(弘前)

参 加 者 ：

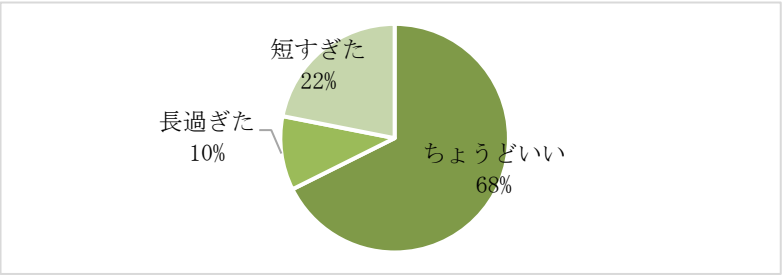
	秋田	岩手	弘前	計
日本人学生	10	19	17	46
留学生・外国人学生	21	21	19	61
引率・指導教員	1	2	2	5
計	32	42	38	112

経 費： 参加者は各自2500円を施設利用経費（食費4回分、シーツクリーニング代）として負担し、移動費（借り上げバス）および文具等経費は各大学で負担した。

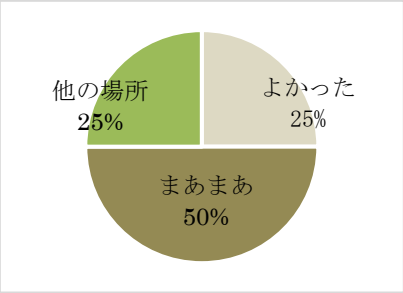
2. 参加者の反応

参加者アンケートの結果は概ね肯定的であり、共修教育の効果が認められた。以下にアンケート結果を記す。

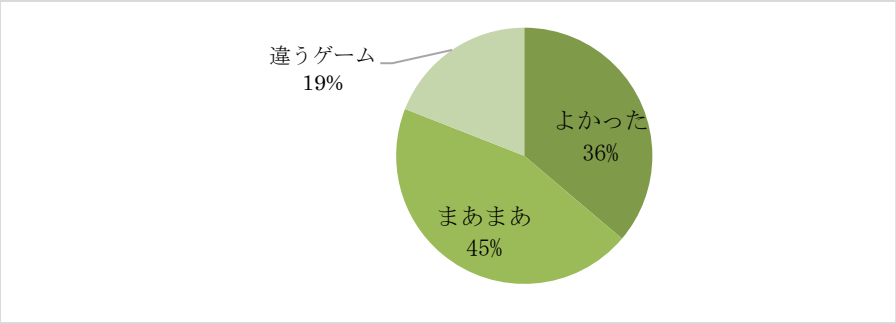
合宿期間



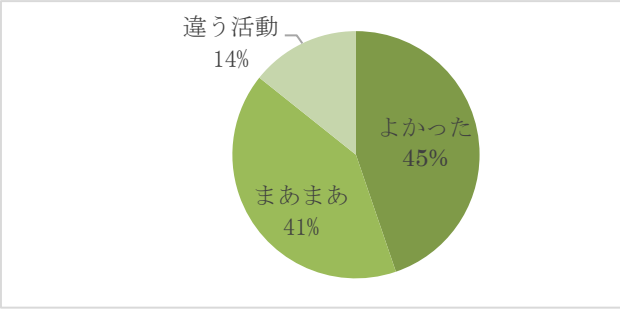
会場



コミュニケーションゲームの満足度



共同作業（文化差スキット作成）



＜感想＞（自由記述）＊一部抜粋。下線部分は学びの効果として筆者が加筆。

ほかの大学の学生と触れ合うことができて、よかった。自分のコミュニケーションが今回の活動を通して伸びたと思う。

3 大学が一緒にいるとは思えないほどアットホームな雰囲気で良かった。
様々な人たちと交流することができ、よい機会となった。

2days and 1night is not enough for me to know my roommates. The roommate is the same group member for us to know better all the people.

It was fun meeting students other universities and working together with them. I think it was a good idea to get 2 students from each university in groups.

ベースとなる言語の違いにより、意思の疎通が若干できなかった場面はあったが、最後今は気にならないくらい協力できたし楽しかった。ただ、ここまでの移動だけは辛かった。

他の大学と交流できて、いろんな人と出会うことができた。今まで知らなかった国の文化や習慣も知ることができた。自分の国だけでなくいろいろな国に目を向けて吸収したいと思った。

今回の合宿でいろいろな知らない国際的な知識を手に入れた。

たくさんの留学生、日本人学生と話すことができていたが、グループワークは同じチームメンバーと話すことより、時間によって違うチームメンバーと組み、活動をした方がいいと思う。

自分の大学にいない国の留学生と交流ができて良い経験になった。他大学の学生と話す機会も今までほとんどなかったので、互いのことについて知れて良かった。

他の日本人学生や留学生と交流して、改めて人とコミュニケーションをとる楽しさを感じた。種々小さな衝突はあったけれども、それはむしろ当たり前のことで、どう協働していくかが重要なのだと思えたスキット作成だった。

他校との交流で、国は同じでも全く別の性質の留学生がいて、とても驚いた。日本語もほぼほぼ通じていたし、逆に留学生側も国の言葉もまちまちとではあるが知ることができた。

英語の間違った使い方をしている時に、直してくれてとても勉強になった。もっと英語を勉強したいと思った。

3. まとめ

昨年度までと同様に、3大学が集まることによって、参加留学生が多様になった。また、出身に関わらず様々な学生同士が協働することにより、その難しさ、おもしろさを実感した学生が多く、一定の効果が見られた。今回は弘前大学の教職大学院の教員が協働作業のコーディネータとして新たに参画し、教員間で情報交換できたことが収穫であった。しかし、合宿場所の確保、3 大学からの移動の負担、教員の準備、引率の負担や、各大学での授業における本研修の位置づけの違いなどが昨年度から課題となってきた。その調整が困難であることから、次年度は、3大学での合宿研修は一旦休止し、本学単独での研修を実施することにより、教育効果の比較等を行う予定である。

報告：松岡洋子

多言語多文化交流空間 Global Village

1. 全体の総括

今年 4 年目となった多言語多文化交流空間 Iwate University Global Village（以下グローバルビレッジ）は、これまでの基盤体制整備による常勤教員、特任教員、学生スタッフ、国際課等関連部との連携が効果的に機能し、①グローカルイベント（国際交流・異文化理解・地域理解）、②日本語カフェ（日本語で留学生と会話、交流）、③English Time （英語個別指導）を拡大実施することができた。参加者数と活動回数、内容において飛躍的な発展を遂げた。全学部からの参加者数がのべ 3296 名 [1]となり（表 1）、前年度比で 2 倍の伸びとなった（図 1）。留学生（のべ数 713 名）と日本人学生（のべ数 2578 名）の参加割合は 8 : 2 であった（図 2）。キャンパスのグローバル化に資する国際交流・国際共修の場を構築している。

広報周知では、岩手県国際交流協会が発行する情報誌紙での広報を開始した。地域への広報が充実化し、のべ 42 名の地域市民がグローバルビレッジに参加した。

学生スタッフ・その他の学生による自主的な企画実施が 19 件となり、学生の国際的な企画運営力の向上が図られた。

English Time やイベントに参加した学生の英語力の向上が示唆された。

海外プログラム経験学生及び交換留学生のグローバルビレッジ参加率は 46%となり、本学第三期中期計画【16】に掲げられた達成目標を上回った [2]。

表 1　2019 年度グローバルビレッジ活動開催回数と参加者数

	ｸﾞﾛｰｶﾙｲﾍﾞﾝﾄ	日本語カフェ	English Time	合計
開催回数	145	36	156	337 回
参加者総数	2099	624	573	3296 名
内留学生総数	417	269	27	713 名
（交換留学生数）	(237)	(129)	(0)	(366 名)
内日本人学生総数	1677	355	546	2578 名

1 実数値ベースでは、参加合計 542 名、うち留学生は 77 名、日本人学生は全学部から 352 名であった。

2 第三期中期計画【16】では、「留学、研修等の海外プログラム経験学生及び交換留学生の両者総数の 4 割以上の参加」が目標値として掲げられている。両者総数/実数（海外プログラム経験学生：247 名＋交換留学生 61 名=308 名）÷うちグローバルビレッジ参加学生（海外プログラム経験があるグローバルビレッジ参加学生：84 名＋グローバルビレッジに参加している交換留学生：57 名=141 名）=46%となった。

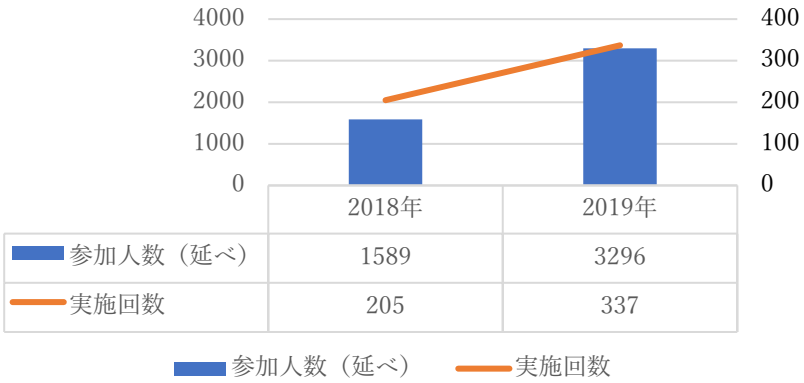


図１　グローバルビレッジ参加者数と実施回数　年度別比較（延べ数）

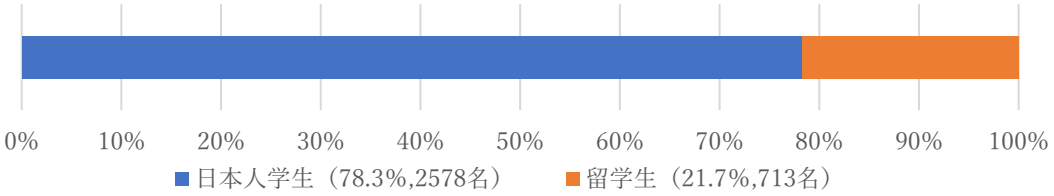


図2　グローバルビレッジ参加留学生・日本人学生割合

2. グローカルイベント

今年度実施した 145 のイベント(前期:35、後期:110)は、内容種類別に国際交流、講演、文化体験、国際教養、教養、学生体験談、留学生、その他の 8 種類があり、種類ごとの内訳はそれぞれ国際交流:7 回、講演:12 回、文化体験:19 回、国際教養:56 回、教養:18 回、学生体験談:22 回、留学生:3 回、その他:8 回であった(参考資料:活動一覧の抜粋参照)。

イベント内容は、自転車で世界一周を遂げた冒険家の講演やNGO共催で実施したSDGs(持続可能な開発目標2030)目標である教育と貧困を考える「世界一大きな授業」、外務省国際機関人事センター講師による「国際機関で働こう！グローバルキャリアの築き方」、タイの高校教員による「タイの教育事情」、大連外国語大学・南京郵電大学の大学教員による講演等、多国籍の講師を交えた国内外の課題解決や国際理解を促進する講演の他、「生け花教室」等の日本文化体験の定期イベントを実施した。また、「留学生向けごみ分別ワークショップ」、「合気道×カンボジア×平和」等、学生スタッフを含めた学生による自主的企画実施が19回に上ったことは、グローバルビレッジが学生の自主的な国際的活動企画や実施力育成の場として機能していることを示唆する。さらに、「留学準備講座」やAll in English等の海外留学への意識喚起と英語力向上のための連続講座を実施した。English Timeと合わせ、これらの参加者の中にTOEICのスコアが250点以上・TOEFLのスコアが35点以上上昇し、英検準一級に合格する等、英語力に顕著な向上がみられたと報告する学生が複数に上り、グローバルビレッジが英語力向上とそのための学習意欲の喚起・持続を支える役割を果たしていることがわかる。

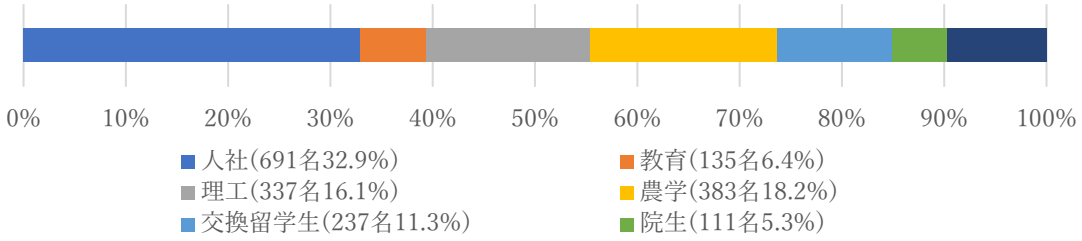


図3　グローバルビレッジイベント参加学生内訳

3. 日本語カフェ

留学生と日本人学生が集い、日本語で交流するという趣旨の本事業は、今年度 36 回行われ、参加者は全学部の学部生、院生、留学生延べ 614 名(実数:132 名、平均参加者数 17 名)であった(図 4)。

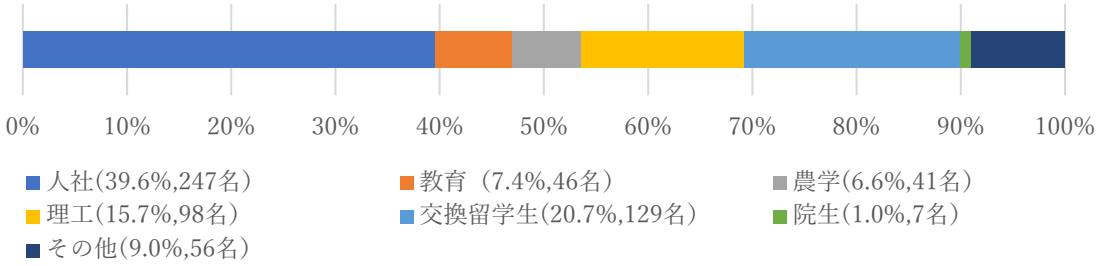


図4　日本語カフェ参加者所属別割合

4. English Time

全学部の学部生と院生から延べ 573 人(実数:132 名)が参加した(図 5)。本年度は教員 3 名(英語ネイティブ教員 2 名:Jacob Petersen 准教授、Hamish Smith 非常勤講師・日本人教員 1 名:會田篤敬 特任助教)が毎週各 2 回担当し、より多くの学生が参加できる環境を提供した。一方で英語個別教育のニーズの高さから予約が取りづらい状況が続いており、English Time の拡充が望まれる。

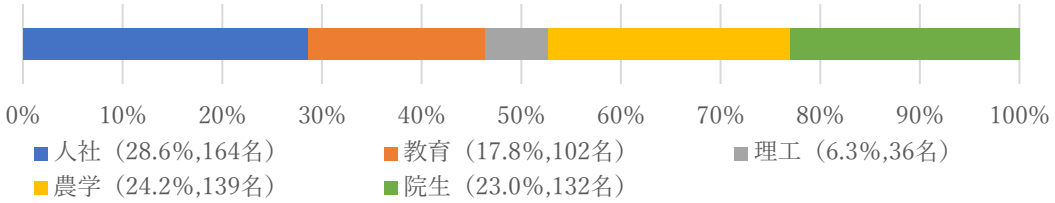


図5　English Time参加者所属別割合

5. まとめ

昨年度までの基盤と体制整備と学生スタッフの育成の効果が発揮され、事業内容や講師が多様化するとともに、参加者数と実施回数において飛躍的に発展した。グローバルビレッジは本学学生の自主的な国際教育の場となり、国籍・性別・職業を問わず、

誰もが情報発信者となれる場として機能しているといえる。次年度は、グローバルビレッジの活動を総括し、第四期中期計画を見込んだ発展を図りたい。

参考資料　グローカルイベント活動一覧抜粋[3]

日時	種類	企画名	講師・進行	内容
4 月 24 日	交流	留学生歓迎 Welcome Party	学生スタッフ 會田篤敬特任助教	日本人学生と留学生 100 名が交流した。
5 月 9 日	講演	世界一大きな授業 My ducation, My Rights SDGs 達成へ	平井華代 准教授	教育協力 NGO との JNNE 共催での教育課題について公開セミナーを実施した。
前期	講演	留学準備講座 連続講座 （全 5 回）	学生 會田篤敬特任助教 相川和慶(国際課職員)	本講座は留学・海外研修のある学生が体験をもとに必要な準備を伝授した。
5 月～ 2020 年 2 月	文化	生け花教室全 12 回	崔華月(国際課職員) 會田篤敬特任助教	講師の指導のもと、留学生、日本人学生が華道体験をした。
5 月 16 日	講演	国際機関で働こう！グローバルキャリアの築き方	中野美智子氏(外務省国際機関人事センター課長補佐) 平井華代　准教授	国際機関に就職するためのキャリアの築き方、現場での実際等を説明された。
5 月 17 日	講演	留学生向けごみ分別ワークショップ	環境マネジメント学生委員会 會田篤敬特任助教	学生が英語でエコの歴史やごみ分別方法を説明した。
5 月 30 日	講演	Foreign Language Education in Thailand Secondary Schools	ジェームズ・ホール准教授 Wat Nuannoradit School, Satri WatAbsornsawan School 教員	タイの高校教員が タイの高校での外国語学の体制について講義した。
5 月 31 日 6 月 21 日 12 月 9 日	留学生	留学生によるお国紹介 全 3 回	留学生	観光地や文化など、留学生が母国について紹介した。
6 月 13 日	講演	地域に広がるつながる こども食堂	山屋理恵氏 （NPO 法人インクルいわて理事長） 平井華代准教授	社会的排除の課題やこども食堂の取り組みについて講義された。

[3] 全活動一覧は年間活動報告書を参照のこと。

6 月 17 日	講演	海外で学ぼう! ～ヨーロッパ内の国際交流制度の紹介	南一郎氏(ルレオ工科大学教授) 會田篤敬特任助教	留学の心構えや履歴書の記入方法について説明がなされた。
6 月 18 日	講演	Airlangga University 教授による講演 Three Voices from Indonesia	Purnawan Basundoro 氏 Ikhsan Anwari 氏 Antonius Purnomo 氏	インドネシアのアイルランガ大学の教授による、建築物、歴史、文学についての講演がなされた。
6 月 19 日	学生体験談	留学の失敗を赤裸々に語る会 ～トビタテ!留学 JAPAN 経験者報告～	学生 會田篤敬特任助教	会場内に 3 つのブースを設け、個別留学相談に答える形で行なわれた。
6 月 28 日	文化	七夕ワークショップ	学生スタッフ 會田篤敬特任助教	七夕を知り、短冊を笹に括り付けた。
6 月 28 日 1 月 28 日	文化	さんさワークショップ	山下千佳氏(国際課職員) 佐藤和恵氏(放送大学職員) 會田篤敬特任助教	さんさの歴史の説明と踊りの体験ワークショップがなされた。
7 月 29 日	講演	「明治人物の清末立憲に対する態度:伊藤博文を中心に」	崔学森氏(大連外国語大学日本語学部准教授)	法律・立法の歴史を通した日中文化について講演された。
7 月 31 日	講演	「南京の紹介・南京郵電大学の紹介・中国での日本語教育について」	于秋芳氏(南京郵電大学 副教授)	中国文化・中国の大学・中国の日本語教育について講演された。
8 月 1 日 8 月 2 日	その他	外国につながる子どもたちの宿題教室	松岡洋子 教授 會田篤敬特任助教	教員希望の学生や高校生が、モンゴルや中国にルーツを持つ小学生の宿題を手伝った。
後期	国際教養	All in English 全 52 回講座	會田篤敬特任助教	日本人学生と留学生が英会話を通じて英語力向上を図った。
後期	国際教養	初級日本語教育体験連続講座(全 8 回)	會田篤敬特任助教	授業構成と日本語教育文法に関する講義後、模擬授業が行われた。

10 月 21 日	国際教養	フィリピン JICA 研修員との交流会	平井華代准教授 JICA 東北事務所 岩手青少年会館	JICA の復興・防災研修で来日中のフィリピン人行政官と交流を深めた。
10 月 28 日	国際教養	アーラム大学説明会	Tracy Lautzenheiser 氏（アーラム大職員） 會田篤敬特任助教	同大学の概要について説明がなされた。
10 月 30 日	教養	夢の始まりは転校した学校になじめなかったことがきっかけだった！単独自転車世界一周、家族 4 人で冒険へ！	坂本達 氏 (ミキハウス) 平井華代准教授	メディアや書籍で活発な講演活動をする同氏により、会社員を続けつつ世界冒険を行う体験が美しい映像と音楽とともに語られた。
後期	教養	海外経験共有講座 第 5 回	学生 會田篤敬特任助教 本学職員	学内プログラム以外の海外体験を学生・職員が発表・共有し、学生の海外渡航へのモチベーションの向上を図った。
11 月 21 日	国際教養	ジェンダーワークショップ /The Impossible Dream ～みんなが思う幸せな家族って～	SCIP フィリピン参加学生 平井華代准教授	国連の動画「The Impossible Dream」を題材に、家庭内男女役割とジェンダー平等を議論した。
11 月 26 日	国際教養	海外大学院進学説明会	曽根靖雄氏(ICC コンサルタンツ 代表取締役社長) 平井華代准教授 會田篤敬特任助教	海外大学院進学に関する講話を行った。
後期	教養	日本の観光地を英語で学ぼう！連続講座 全 7 回	学生 會田篤敬特任助教	発表者自身にゆかりのある土地の観光について英語で発表した。
12 月 2 日	教養	温泉のススメ	学生スタッフ 會田篤敬特任助教	県内の温泉地について英語で発表した。
12 月 3 日	講演	理学療法士から南米ボリビアでの青年海外協力隊体験と国際ｷｬﾘｱ	菊池真美子 氏 (JICA いわてデスク国際協力推進員) 平井華代准教授	JOCV の体験談と国際協力のキャリアについて語られた。

1 月 15 日	文化	書初めワークショップ	学生スタッフ 會田篤敬特任助教	書初め体験で一年の抱負を書にした。
1 月 28 日	国際教養	日本語研修コース修了発表会	留学生 松岡洋子教授	日本語研修コース留学生の母国紹介
1 月 29 日	国際教養	SCIP フィリピン研修履修説明会	平井華代准教授 尾中夏美教授 會田篤敬特任助教 SCIP フィリピン参加学生	SCIP フィリピン研修概要説明と体験談が共有された。

報告：平井華代・會田篤敬

留学生のための着物体験ワークショップ

1. 概要

交換留学生を中心に、例年着物を着る体験を通して日本文化の理解促進を目的として春と冬 2 度実施している。対象者の数が増えたことから、春 2 回、冬 2 回、合宿所を会場に実施した。講師として二戸市で呉服店を経営している田家祐子先生にお願いしている。

2. 実施内容

前期

5 月 15 日(火)		6 月 11 日(火)	
国籍	性別	国籍	性別
アメリカ	男	台湾	女
アメリカ	男	中国	女
タイ	男	中国	女
韓国	女	中国	女
フランス	女	中国	女
フランス	女	中国	女
フランス	女	トルクメニスタン	女
タイ	女	ロシア	女
インドネシア	女	中国	男
アメリカ	女	台湾	男
タイ	女	台湾	男

後期

11 月 12 日(火)		12 月 10 日(火)	
国籍	性別	国籍	性別
韓国	男	韓国	男
中国	女	中国	女
中国	女	中国	女
中国	女	中国	女
ロシア	女	中国	女
ロシア	女	モンゴル	女
韓国	女	モンゴル	女
香港	男	中国	男
		中国	男
		インドネシア	女
		台湾	男

報告:尾中夏美

デ・ラ・サール大学（フィリピン）英語研修

1. 研修の概要

本プログラムの概要は以下の通りである。

① 本プログラムは参加者が英語イマージョン環境を実現させ、かつ財政的負担をできるだけ軽減した英語研修プログラムとして実施した。

② フィリピンはマン・ツー・マン指導で知られるが、多国籍のクラスメイトとの英語による交流の教育的意義を重視することから、通常英語クラスへの参加とした。受講科目は現地で実施されるプレースメントテストの結果に従ったレベルから各自が 3 科目を選択した。

③ 岩手大学とデ・ラ・サール大学は 3 年間の事業協定を締結し、デ・ラ・サール大学が実施する英語コースに 12 名の学生を派遣した。

④ 学生寮への手配や授業料の支払い、事前事後研修など、研修実施に係るロジスティックスは CIEE に外部委託した。

⑤ 現地から事後に送付される評価表に従い、翌年度 7 月に単位認定手続きを教員が一括して行う。

2. 実施内容

【スケジュール】

履修説明会　11 月 6 日（水）

事前研修　1 月 17 日（金） 第 1 回オリエンテーション

2 月 13 日（月） 第 2 回オリエンテーション

海外研修　2 月 26 日（水）～3 月 12 日（木） ＜新型コロナウィルス感染防止による休校措置に伴う早期帰国＞

事後研修　4 月 2 日（木）

【参加者】

人文社会科学部	1 年生 3 名	2 年生 3 名
教育学部	1 年生 1 名	2 年生 1 名
理工学部	2 年生 2 名	
農学部	2 年生 2 名	

※ 男女内訳　男子 4 名、 女子 8 名

3. 今年度の課題と対応

前回は授業に他大学の日本人参加があり、日本人のみのクラスになった。現地フィリピン人学生との交流を広げるため、折り紙ワークショップやデ・ラ・サール大学付属施設が実施するフィーディングボランティア活動も予定していたが、新型コロナウィルスの世界的感染拡大を受けて学校が全て閉鎖となり、ホテル待機となったため早期帰国した。有志はオンラインで英語研修を継続した。

報告：尾中夏美

海外研修
「カリフォルニア・イノベーション研修」「グローバル・プロ養成プログラム」

1. 趣旨と概要

グローバル・プロ養成プログラムとカリフォルニア・イノベーション研修は日本の他大学と合同で開催され、他大学から参加した大学生とともにカリフォルニア州シリコンバレーの企業訪問、現地でグローバルに活躍する日本人、日系人による講話と交流、スタンフォード大学・サンノゼ州立大学訪問と米国大学生との意見交換と意見報告会などの活動を通じて、グローバルなキャリア意識を高めることを主眼とした研修である。今年度はグローバル・プロ養成プログラムの参加希望者がいたため、約 1 か月の研修参加者には事前のオリエンテーション、事後に帰国報告を行った。

2. 実施内容

【スケジュール】

グローバル・プロ養成プログラム　2019 年 8 月 19 日～9 月 20 日

【単位付与】

グローバル・プロ養成プログラム　　国際教育科目「海外研修」2単位

国際教育科目「海外研修事前事後研修」2単位

3. 参加者

グローバル・プロ養成プログラム

総合科学研究科理工学専攻　2 年生　1名（男子）

4. 奨学金付与

グローバル・プロ養成プログラムには JASSO 奨学金2か月分を付与するとともに、家計基準に従って準備金なども支給された。

5. 募集チラシ

報告：尾中夏美

令和元年度新入生オリエンテーション

1.　実施したオリエンテーション等（前期及び後期にそれぞれ実施）

1.1 留学生オリエンテーション

国際課及び保健管理センターから、新入生に必要な手続き及び日本での生活や履修登録等について説明を行った。また、盛岡東警察署から生活上の注意点について説明があり、安全・快適な新生活をスタートさせる一助とした。説明は、グローバル教育センター及び国際課教職員が英語及び中国語の同時通訳を行った。

1.2 国際交流会館オリエンテーション

新入居者の紹介を兼ね、入居者全員を対象に国際交流会館での生活上のルール及び寄宿料等についての説明を行った。説明後は入居者の自己紹介の時間とし、入居者相互の交流の場とした。

1.3 キャンパスツアー及びライブラリーツアー

キャンパスツアーでは、サークルU、岩手大学留学生会及び中国人留学生学友会が中心となり、岩手大学キャンパスの各施設の場所や行き方について、案内及び説明を行った。
ライブラリーツアーでは、学内の図書館の使用方法の説明を行った。留学生は、英語グループと中国語グループに分かれ、図書館職員から説明を受けた。サークルU、岩手大学留学生会、中国人留学生学友会及びグローバル教育センター教員が図書館職員の説明を英語又は中国語の通訳を行った。

1.4 チューターオリエンテーション

令和元年度にチューターを行う学生に対して、チューターの概要説明、注意事項及び手続きについて説明を行った。

2.　各種オリエンテーション等の実施日程等

2.1　前期

(1)留学生オリエンテーション

日　時：平成 31 年 4 月 3 日(水)13：30～14:10
会　場：理工学部　銀河ホール
対象者：55 名

(2) キャンパスツアー、ライブラリーツアー

日　時:平成 31 年 4 月 3 日(水)15:30～16:00

会　場:理工学部　銀河ホール等

対象者:55 名

(3)国際交流会館オリエンテーション

日　時:平成 31 年 4 月 4 日(木)10:00～11:00

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:16 名(国際交流会館新規入居者)

(4)交換留学プログラム開講式

日　時:平成 31 年 4 月 4 日(木)11:30～12:00

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:23 名

2.2　後期

(1)キャンパスツアー、ライブラリーツアー

日　時:令和元年 9 月 26日(木)14:00～

会　場:学生センターA棟 1 階　G19講義室等

対象者:50 名

(2)国際交流会館オリエンテーション

日　時:令和元年 9 月 30 日(月)10:00～11:00

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:28 名(国際交流会館新規入居者)

(3)交換留学プログラム開講式

日　時:令和元年 9 月 30 日(月)11:30～12:00

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:19 名

(4)留学生オリエンテーション

日　時:令和元年 9 月 30 日(月)14:00～15:00

会　場:理工学部　銀河ホール

対象者:50 名

報告：国際課

海外留学支援事業

海外の大学との学生交流や様々な海外研修プログラムについての情報提供の場として以下の事業を実施した。

1. 海外留学・研修オリエンテーション

実施日程:5 月 15 日(水)～24 日(金)

オリエンテーションの内容は、表 1 の通りである。

表 1. プログラム

日付	時 間	内 容
5 月 15 日	16:50～17:10	岩手大学派遣プログラム概要説明
	17:10～17:40	国際研修@フィリピン―貧困説明と体験報告(全学)
	17:40～18:30	フィリピン英語研修説明と体験報告(全学)
5 月 20 日	12:15～12:55	国際ボランティア・国際エコボランティア(全学)
5 月 21 日	12:10～12:20	岩手大学派遣プログラム概要説明
	12:20～12:35	国際研修@イタリア―アート説明
	12:35～12:50	派遣留学体験報告(NCC)
5 月 22 日	12:10～12:55	シリコンバレー短期研修・インターンシップ研修(全学)、事前事後研修説明
	17:20～17:50	国際研修@台湾―国際ビジネス(全学)
5 月 23 日	12:15～12:55	短期課題設定型研修(SCIP)体験報告 インドネシア(世界遺産) イタリア(アート) 台湾(経済交流)
5 月 24 日	16:50～17:40	トビタテ！留学 JAPAN 全国版、地域人材コース 全国版@カナダ 地域人材コース@台湾 地域人材コース@ベトナム

2. 留学説明会

全学対象の交換留学申請のための説明会を以下のように実施した。

日程:7 月 11 日(木)

対象となるプログラム:(米国)テキサス大学オースティン校、アーラム大学

(カナダ)セント・メアリーズ大学

3. 個別留学相談

個別留学相談は学生それぞれで異なる空き時間に個別対応するため、不定期に実施している。相談受付のポスターは常時掲示しているので、希望者は国際課を通すか直接メールで相談時間を予約する。令和元年度はのべ 94 件の留学相談があった。トビタテ！留学 JAPAN 全国版や地域人材コースに関する相談は同じ学生が複数回相談に訪れた。

表 2.所属別相談件数（実数）

学部	人社学部	教育学部	理工学部	農学部
学部生	38 (23 人)	15 (9 人)	10 (10 人)	19 (8 人)
院生	0	0	0	12 (6)

4. Super English, Step-up English, Foundation of English

留学や海外研修を目指す学生の英語基礎トレーニングコースとしてステップ・アップ・イングリッシュを実施し、またこのコース修了者で一定レベルに達した学生対象に、TOEFLiBT®で交換留学が可能となるレベルに到達させることを目標とする Super English を実施している。1 学期 11 週間開講し、英語力で一定条件を満たす学生が Step-up English を履修できる。

表 3. 受講者数

		2019 年度前期					2019 年度後期				
SUE	所属学部	人社	教育	理工学	農学	合計	人社	教育	理工学	農学	合計
	人数	1	1	0	4	6	7	1	0	1	9
SE	所属学部	人社	教育	理工学	農学	合計	人社	教育	理工学	農学	合計
	人数	1	0	0	3	4	1	0	0	2	3

5. 国際月間

日程:11 月 1 日（金）～11 月 29 日（金）

報告:尾中夏美

IHATOVO グローバルコース・グローバルマイレージ

1. 概要

グローバル教育センターでは、岩手に顕在化するグローバルな課題を理解し、解決に貢献し、発信する力の養成をめざし、「IHATOVO グローバルコース」を企画・運営している。このコースの参加によって「知識・探求力」、「コミュニケーション力」、「人間力」を向上させ、地域社会、国際社会で活躍する人材を育成する。今年度から全学部学生が対象となった。

2. コースのコンセプトと構成

コースは、A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践の 4 つのカテゴリーに分類された、授業および課外活動で構成されている。各授業、活動に参加すると、Global Mileage が付与される。A～Dのすべてのカテゴリーのいずれかの授業、課外活動に1つ以上受講・参加し、一定程度の Global Mileage を獲得した者には IHATOVO グローバルコース履修認定証を授与する。コース認定されなくても、Global Mileage の獲得実績に応じて表彰を行う。

IHATOVO グローバルコース・ゴールド達成 2000 マイル以上獲得
IHATOVO グローバルコース・シルバー達成 1200 マイル以上獲得
IHATOVO グローバルコース・ブロンズ達成 800 マイル以上獲得

【教育活動の分類】

カテゴリー	推奨授業（例）	推奨課外活動（例）
A. 外国語	英語発展等	Foundation of English, Super English、ニイハオ！漢語、海外語学研修等
B. コミュニケーション	多文化コミュニケーション、現代の諸問題等	グローカル語り場、多文化ｷｯｽﾞｷｬﾝﾌﾟ、English Camp 等
C. 国際教養	地域と国際社会、Comparative Japanese、国際講義等	がんちゃん国際フォーラム、国際講演会等
D. 実　践	地域課題演習 E,F、海外研修―世界から地域を考える、キャリアを考える等	学内留学、海外インターンシップ、国際ボランティア等

3. 実施状況と今後の課題

今年度は、全学の学部生が参加対象となり、7 月にはゴールド達成者 1 名を表彰し、賞状および副賞を授与した。また、グローバルビレッジの活動に対しても積極的にマイル付与を行うなど、マイレージ取得対象授業活動を拡大し、マイレージ取得学生が全学の 4 割近くとなった。

次年度は、マイル付与対象授業、活動をさらに増加させるとともに、カテゴリーの整理等を行う。また、学生への周知も積極的に行い、グローバルな活動に対する学生の意識や態度の育成をさらに進める計画である。

報告:松岡洋子

―地域支援・地域連携業務報告―

地域日本語教育支援事業

1. 事業の趣旨

外国出身の住民が増加する地域社会の日本語課題解決の一助とすることを目的として、地域日本語教育支援事業を平成 17 年度から継続実施している。昨年度までに引き続き、子どもの学習支援事業（情報交換会、指導者研修会および合宿研修）、地域の日本語教育に関する情報交換、研修事業を関係機関等と連携して実施した。

2. 事業内容

2.1 子どもの学習支援事業

(1) いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会総会

日時：令和元年 6 月 18 日（火）13 時～14 時 30 分

場所：岩手大学学生センターＡ棟 2 階会議室

参加者:岩手県教育委員会　佐々木　淳一　盛岡市教育委員会　小田島　篤史
一関市教育委員会　伊藤　彰子　　二戸市教育委員会　長畑　宏範
いわて多文化子どもの教室むつみっこくらぶ　村井　好子
岩手大学教育学部　大野　眞男（議長）
グローバル教育センター　松岡　洋子　　国際課長　八重樫　敬（事務局）
岩手県政策地域部国際課　北栃　玲子　岡崎　幸治

＜協議内容＞

協議会としての事業の報告および計画（指導者研修会、多文化キッズキャンプ等）を承認後、各地域教育委員会および民間支援団体からの活動報告を経て情報交換を行った。

文部科学省の日本語指導が必要な児童生徒等の調査で、2016 年調査と 2018 年調査で該当者数が減少したが、調査後に来日したケースもあり、実際にはより多くの該当者がいることが予想される。三重県で実施された指導者研修には 3 名派遣された。県内各地で国際学級、民間支援者等で支援に当たっているが、体制、人材に課題がある。盛岡市教育委員会では、窓口に外国人の子供向けに就学案内を置いている。県内各地に就学ガイドを置くようにしてはどうか、などの意見が出た。

(2) 令和元年度日本語指導が必要な外国人児童生徒等指導者研修会

日時: 令和1年11月1日（金）10:00-16:15

場所: 岩手県庁　12 階特別会議室

主催: 岩手県教育委員会　岩手大学グローバル教育センター
いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会

参 加 者: 約 40 名

協議内容:

1. 報告 「日本語指導に関する国、県の動向」 県教育委員会 佐々木 淳一

2. 事例報告 盛岡市立上田小学校 佐藤 純

北上市立黒沢尻西小学校 奥山 由香

一関市立一関小学校 今野 英行

3. 情報交換(グループ討議)

4. ワークショップ 「外国につながる子どもの初期指導を考える」

東京学芸大学 南浦涼介

＊今年度は、県内各地の教育委員会からの参加者が多く、4 月の入管法改定に伴い、今後、外国人児童生徒の増加が予想される中、その指導に関する関心の高さが窺えた。この研修会の継続や、文部科学省の研修、情報発信等により、県内でも外国につながる児童生徒の指導の必要性に対する認識が高まってきたが、一方で、具体的な指導方法や体制整備などは、当該児童生徒が散在するため難しい実情も見えた。

(3) 多文化キッズキャンプ

日時:令和2年1月12 日(日)～13 日(月祝)

場所:岩手山青少年交流の家(岩手県滝沢市)

参加者:子ども 23 名 留学生 6 名 日本人学生 9 名 保護者 2 名 スタッフ 9 名

計 49 名

＜概要＞

外国人散在地域である東北地方では、学内外を問わず外国につながる子どもの学習、生活に関する指導・支援体制の整備が困難である上に、子ども自身やその家族、支援者が孤立する傾向がある。このような状況に対して、子どもたちの日本語学習・教科学習支援と交流を目的として平成 19 年度から合宿研修を実施している。今年度は岩手、青森、宮城在住の子どもと保護者、関係者と、本学の学生 14 名と宮城教育大学の学生 1 名が参加した。経費は、岩手大学グローバル教育センターおよび東北多文化アカデミーの資金と個人参加費により支弁した。

＜成果と課題＞

上記 3 事業は定例化され、外国人散在地域の社会貢献事業として一定の効果が認められる。特に、大学、教育行政、民間の外国人支援団体等との連携が継続的に行われ、外国人住民が増加傾向にある中で、今後も事業の継続の必要性は大きい。一方で、多文化キッズキャンプの経費の助成金獲得などが難しくなっており、規模の縮小、参加者負担の増額など、運営方法について検討が必要となっている。また、大学主導の事業だけでなく、行政、民間の役割分担等について、検討が求められる。

2.2 日本語学習支援情報交流事業

日本語学習支援ネットワーク会議 19 in 秋田

日 時 ： 2019 年 11 月 17 日（日） 10:30－16:30

場 所 ： カレッジプラザ（秋田市中通 2－1－51）

主 催 ： 日本語学習支援ネットワーク会議19 in 秋田実行委員会

参加者： 100 名

内 容 ：

【午前】

日本語支援を必要とする子どもを取り巻く現状と課題

国際教養大学専門職大学院 伊東 祐郎

秋田県における日本語の支援を必要とする子どもの支援状況と課題

秋田県教育義務教育課 畑 朋幸

山形市における子ども支援

－行政・学校・支援者との連携による山形スタイルを目指して－

山形大学 内海 由美

【午後】

特別支援?日本語支援? 外国につながる児童・生徒に対するサポート

司会：岩手大学 松岡 洋子

外国につながる子どもたちのこころの支援 四谷ゆいクリニック 阿部 裕

教科学習支援の現場から－グレーゾーンの子どもたちへの支援の課題－

YSCグローバルスクール 密山 和香子

学習障害のある学生に対する語学教育の実践例 国際教養大学 橋本 洋輔

秋田県能代市における取り組みから見えた成果と課題

のしろ日本語学習会 北川 裕子

フロア全体での議論、質疑応答

＜成果と課題＞

平成17年度より始まった「日本語学習支援ネットワーク会議」は、東北地区の大学、地域の日本語学習支援に関する関係者、関係機関のネットワークを活用し情報交流を継続しており、今年度は国際教養大学が中心となり秋田で開催され、子どもの支援を中心に情報交換、討議が行われた。秋田での開催は 10 年ぶりとなり、参加者の関心も高かった。外国人住民の増加に伴い今後は行政との連携につながる情報交換会につなげていく必要がある。来年度は、青森市において、青森大学、青森中央学院大学、弘前大学の共同により開催予定である。

報告：松岡洋子

岩手県留学生交流推進協議会事業

1. 岩手県留学生交流推進協議会総会

令和元年 7 月 24 日(水)、岩手大学学生センターB 棟1階多目的室で岩手県留学生交流推進協議会総会を行った。

総会には 15 の構成団体が参加し、平成 30 年度事業報告に続き、令和元年度事業計画として、①広報誌「留学生いわて」№32 の発行、②「第7回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展」の開催、③外国人留学生フィールドスタディ in Iwate の開催について、④外国人留学生生活状況調査の実施について、それぞれ審議のうえ実施することとした。

また、「令和元年度トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム地域人材コース」の採択状況や構成団体の令和元年度地域交流等実施計画、令和元年 5 月 1 日現在の各高等教育機関に在籍する外国人留学生数、平成 22 年度～令和元年度間の岩手県内留学生数の推移について報告があった。

2. 第 7 回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展

第7回外国人留学生による″岩手のいいところ″写真展 インスタグラム留学生フォトコンテストの表彰式を、令和2年1月28日、岩手大学学生センターB 棟フリースペースを会場に開催した。

毎年開催している″岩手のいいところ″写真展は、昨年度同様にインタグラムを活用し、岩手県内の大学・専門学校に在学中の留学生から写真を募った。結果、合計 139 作品がインスタグラムをとおし投稿され、その中から、14 作品が受賞した。受賞作品に限らず、「岩手でびっくりしたこと」というテーマのもと、留学生が岩手に来て美しいと驚いた岩手の景色や風景、岩手で暮らす人の何気ない日常を留学生の新鮮な視点で切り取ったようなものなど、多様で趣のある写真が多く投稿されました。受賞作品の中には、最多で 75 件もの「いいね！」が付く等、インスタグラムをとおして写真が投稿されたことにより、世界中の方に岩手をテーマとした写真を楽しむ機会にもなった。

表彰式では、受賞者に表彰状と各協賛企業から提供された賞品が贈呈された。岩手県留学生交流推進協議会長の岩渕明岩手大学長からは留学生に対し、「素晴らしい写真を投稿いただき感謝します。今年度初めて開催された盛岡マラソンや、八幡平の壮大な景色等、どの作品も素晴らしく岩手の魅力を映し出していたと思います。普段、岩手に住む人が当たり前と感じることが、留学生の皆さんには驚きであるということが伝わりました。今後も、岩手の良さをご自身でも堪能するとともに、ぜひ世界に向けて発信していってください。」と祝辞が贈られた。 そして、本協議会構成機関をはじめ、たくさんの協賛をえたことに感謝したい。図書カード、せんべい、缶詰、化粧品、米、市町村のグッズなど、受賞した留学生からは喜びの声があり、留学生が岩手県産品への理解を深める機会でもあった。

＜協賛団体＞

岩手県漁業協同組合連合会、岩手県国際交流協会、岩手県ユネスコ協会連盟、岩手県立大学、株式会社久慈琥珀、国立岩手山青少年交流の家、八幡平リゾート株式会社、宮古市、盛岡市、軽米町山下善昭（個人）

＜表彰作品＞

(1) 岩手県留学生交流推進協議会長賞　選者：岩渕　明　岩手大学長
　グエン　ティ　ザ　グエン　ベトナム／盛岡情報ビジネス専門学校
(2) 岩手県国際交流協会賞　選者：県国際交流協会
　張　和月（チョウ　ワゲツ）台湾／岩手大学
(3) 盛岡市役所賞　選者：盛岡市
　ジョンレイ　カストロ　フィリピン／盛岡情報ビジネス専門学校
　王　懿敏（オウ　イビン）　中国／岩手大学
(4) サーモンランド賞　選者：宮古市国際交流協会
　趙　林芸（チョウ　リンゲイ）　中国／岩手大学
(5) JF岩手漁連会長賞　選者：藪　敏裕　岩手大学副学長（国際連携担当）
　レ　ズィ　カン　ベトナム／盛岡情報ビジネス専門学校
　劉　嘉儀（リュウ　カギ）　中国／岩手大学
(6) ユネスコ賞　選者：岩手県ユネスコ協会連盟
　宋　杰（ソウ　ケツ）　中国／岩手大学
(7) 株式会社八幡平リゾート賞　選者：喜多　一美　岩手大学理事（教育・学生・IR 担当）
　ガンボルド　エンヘトゴトブ　モンゴル／岩手大学
　王　懿敏（オウ　イビン）　中国／岩手大学
(8) 株式会社久慈琥珀賞　選者：喜多　一美　岩手大学理事（教育・学生・IR 担当）
　劉　嘉儀（リュウ　カギ）　中国／岩手大学
　エカテリーナ　クラブテンコ　ロシア／岩手大学
(9) いいね！賞（いいね！数による選出）　副賞提供者：岩手県立大学
　ファン・ティ・フォン・ジャン　　ベトナム／盛岡情報ビジネス専門学校
(10) 事務局優秀賞　選者：事務局（岩手大学国際課）　副賞提供者：軽米町　山下善昭
　イスラム　タンジラ　バングラデシュ／岩手大学
(11) 参加賞　参加者全員　副賞提供者：国立岩手山青少年交流の家

報告：国際課

地域への支援事業（English Camp）

1. 趣旨

本事業は東日本大震災直後から釜石市、田野畑村への教育支援として、岩手大学と岩手大学の協定校である米国アーラム大学が協働して運営する事業である。合宿期間中、英語だけで行う体験学習を通じて、中学生たちに国際交流に興味を持つきっかけを作るとともに、英語学習への意欲を育み、広く世界で活躍できる人材（グローバル人材）の基礎を構築することを趣旨とする。同時に、岩手大学生は英語を実用的に使いながら、文化背景の異なるチームメイトと協働作業を行うことにより、言語能力、異文化対応力、積極性などの向上が見られることが、教育効果として検証されている。今年度は地域創生専攻の院生1名がグローバルコミュニケーション科目履修のリーダーとして参加した。

2. 実施内容

【期　間】

2019 年 11 月 9 日（土）～11 月 10 日（日）

【場　所】

国立岩手山青少年交流の家（岩手県滝沢市内）

【参加者】

中学生：	田野畑中学校	2 名	大平中学校	2 名	釜石中学校	1 名
	唐丹中学校	1 名	飯岡中学校	2 名	見前南中学校	1 名
	乙部中学校	1 名	下橋中学校	3 名		

岩手大学生： 9 名　　アーラム大学生： 7 名　　ALT： 5 名

引率教員： 岩手大学 1 名　　アーラム大学 2 名

【研修内容】

日本語でのオリエンテーション終了後は日本語使用禁止で 2 日間を過ごした。岩手大学生と留学生は混在小チームに分かれ、英語を使ったゲームやクラフト作りなどの活動を企画運営した。中学生は学年や所属中学校が異なる生徒を組み合わせて留学生、日本人大学生と同室宿泊させることで、英語を使うことと同時に「知らない人」とのコミュニケーション能力を育成する機会も提供した。

DATE	TIME	ACTIVITIES
November 9	11:30-12:15	Orientation（オリエンテーション）
	12:15-13:00	Lunch
	13:00-13:50	Session 1& 2 at Plaza Ihatovo
	14:00-14:45	Session 3
	14:50-15:10	Break（休憩）
	15:15-16:00	Session 4
	16:05-16:50	Session 5
	16:50-17:30	Move to the Dormitory Wing（宿泊棟に移動）
	17:30-19:00	Dinner
	19:00-19:45	Session 6
	20:00-22:30	Take a bath.　Relax.　Get ready to go to bed.
	22:30	Lights out.　Good night!
November 10	6:30	Wake up!
	6:30-7:00	Get dressed.　Wash your face.
	7:00-7:30	Cleaning time
	7:30-9:00	Breakfast.　Move your bags to the seminar room.（持ち物を研修室に移動）
	9:00-9:50	Session 7
	10:00-10:55	Session 8
	10:55-11:15	Break
	11:15-12:00	Wrap-up（まとめ）and cleaning
	12:00-12:55	Lunch
	13:00	Departure

報告：尾中夏美

One Day English School in 陸前高田

1. 研修の概要

本研修の目的は陸前高田市立中学校 2 校の生徒に英語学習支援を実施することである。夏休みの課題の支援とともに、英語コミュニケーションや外国人留学生との交流を通して異文化理解を深めることも目的とする。この事業を実施するために、岩大の日本人学部生、留学生の参加を募った。同時に、グローバルコミュニケーション科目のリーダーシップ研修としても位置づけて、地域創生専攻の大学院生 5 名がリーダーとして事業の企画・運営を担った。

2. 研修内容

【スケジュール】

日程	時刻	活動
8月4日（日）	12:00	岩手大学出発
	15:00	陸前高田グローバルキャンパス着 プログラムの設営と準備、リハーサル
	18:00	宿舎に移動
8月5日（月）	8:30	グローバルキャンパス着。準備。 バスで高田一中、高田東中に生徒を出迎え
	9:30	プログラム開始
	12:00	昼食
	13:00	午後の活動
	16:30	プログラム終了。中学生見送り。盛岡に向けて出発。 着後解散。

【参加者】

岩手大学学部生参加者　8名（内　留学生2名）

高田一中参加者　7名（3年生1名、2年生1名、1年生5名）

岩手大学大学院生リーダー　5名

引率教員　　1 名（岩手大学グローバル教育センター）

【宿舎】

民宿吉田

3. 大学院生リーダーの打ち合わせ

基本的に毎週金曜日午前に6回実施した。

4. 経費

陸前高田市からの事業委託費

5. 参加中学生へのアンケートによる感想

★楽しかったこと、よかったことについて

「いろんな人とコミュニケーションをたくさんとることができた。英語の楽しさを知ることができた。」

「大学生や留学生に会って体験できたこと」

「英語のカルタで真剣に勝負できたこと！分からないことがあってもおしえてくれた」

「フルーツバスケット。久しぶりにやったし、皆で笑えて楽しかった」

「宿題がよくすすんだこと」

「カルタが楽しかった」

「色々な大学生や留学生と交流ができて、楽しく英語を学ぶことができました。今日一日、全て楽しかったです」

報告：尾中夏美

留学生と市民のガーデンパーティー～世界の屋台村～

1. 日時

令和元年 6 月 15 日(土) 12:00～15:00

2. 場所

岩手大学中央食堂前

3. 主催

岩手大学留学生会、サークルU、岩手大学グローバル教育センター、
公益財団法人盛岡国際交流協会、盛岡情報ビジネス専門学校

4. 参加者

学生・教職員・一般市民

5. 参加屋台

9ヶ国
(インドネシア、フランス、中国、バングラデシュ、タイ、韓国、スペイン、ベトナム、フィリピン)

６．内容

今年は岩手大学のインドネシア、フランス、中国、バングラデシュ、タイ、韓国、スペイン、ベトナムから、盛岡情報ビジネス専門学校のフィリピンから出展があった。

留学生会とサークルＵ（留学生と交流のサークル）では、4月からガーデンパーティーの準備に取り掛かった。昨年、雨でガーデンパーティーの開催日が延期され、様々な調整でとてもつらい思いをしたことから、今年の開催日を梅雨が渡来する前の 6 月 15 日に設定した。が、今年もやはり天気が良くなく、小雨の中でなんとか実施できた。

毎年参加者が変わる(卒業など)ことから、日本の屋台ルールにも慣れていないことから、苦労も多いが、材料の調達や値段設定など、工夫に工夫を重ねて参加した。ガーデンパーティーは 12:00～15:00 まで行われるが、早いところでは 14:00 に品切れになる屋台もあり、大盛況だった。ベトナムにサンドイッチのような料理があること、インドネシア屋台のスープの辛さが韓国人好みだったことなど、初めて知ることが多かった。

当日は、中国(ウイグル)、インドネシア、韓国、フィリピンの留学生や、サークル ISPC、さんさ踊りチームがアトラクションを披露した。また、特別ゲストとして、わんこ兄弟の「とふっち」も参加し、さらに盛り上がった。　　(※留学生会李セフン会長の報告書から一部抜粋・編集)

報告:国際課

高大連携ウィンターセッション

1. 概要

これまで 12 月下旬に高大連携ウィンターセッションが実施されており、グローバル教育センターから2コマを提供している。参加学生を 2 分割し、同時に 2 つの授業を教員 2 名で実施した。

2. 実施内容

【期　間】

2019 年 12 月 26 日（水）

【タイトル】

グローバルなマインドとグローカルなアクション

―グローバル化時代の地域リーダーに必要な知識と技能とは―（尾中）

―SDGs 達成に向けたジェンダーバイアスの意識化（平井）

【参加人数】

県内高校　1，2 年生　223 名

【研修内容】

参加高校生を尾中 149 名、平井 74 名で 2 分割し、それぞれの教室においてアクティブラーニング形式で授業を行った。1 グループは 5～6 名程度の小グループに分けた。グループが別々の学校所属の生徒で構成されるように、予め事務の方で座席表を作成してもらった。生徒たちは与えられたディスカッションテーマに沿って、初対面のチームメイト達と意見交換や情報共有などを行って、グローバルな視点から地域課題を考えたり、グローバルな課題と身近な課題の関連性に目を向けて課題について考えるという活動を体験した。

報告：尾中夏美・平井華代

地域連携
一般公開・地域連携グローカルセミナー

身近な地域と世界とをつなぐ活躍をする人々を招聘し、地域課題と世界課題の関連、及びその解決とキャリア形成を考える一般公開のグローカルセミナーを「多言語多文化交流空間 Global Village」と共催で実施した（表１）。高校生を含む地域からの参加者があった他、アンケート調査では参加者から高い評価を得た。世界と地域と大学とを結ぶセミナーの企画実施を通じ本学のネットワーク拡大と国際教育事業を通じた地域づくりを促進した。

（表 1）

	日程	タイトル	講師	内容・備考
1	5 月 16 日（木）10:30～12:10	国際機関で働きたい人のためのキャリアセミナー	外務省国際機関人事センター 課長補佐 中野美智子氏	国連への就職の具体的方法と国の制度について講演された。秋田県から高校生が聴講のために来学した他、地域からの参加者が熱心に参加した。
2	6 月 13 日（木）10:30～12:10	地域に広がるこども食堂	特定非営利活動法人インクルいわて 山屋理恵理事長	盛岡市でひとり親とこどもを中心とした社会的包摂支援に取り組む活動について紹介された。履修生以外の学生や職員の聴講があった。講演後、これをきっかけにこども食堂でのボランティア活動に参加した学生がいる。
3	10 月 30 日（水）12:20～14:30	夢の始まりは転校した学校になじめなかったことがきっかけだった！ 会社員を続けながら、単独自転車世界一周、そして家族 4 人での世界 6 大陸大冒険へ！	ミキハウス株式会社 社長室 坂本達氏	サラリーマン冒険家として自転車世界一周を成し遂げ現在も 6 大陸を冒険中の著名な坂本氏を招聘し、体験談を語ってもらった。著書を読んだという地域の一般市民からの参加もあった。
4	11 月 26 日（火）13:00～14:40	海外の大学院へ留学しよう！	海外大学院留学セミナー 海外留学協議会（JAOS）	奨学金情報や欧米の大学院への進学の仕方についてノウハウが講義された。大学院留学を考えるようになったという学生の声がきかれた。
5	12 月 3 日（火）13:00～14:40	南米グアテマラ青年海外協力隊体験談と理学療法士から国際協力キャリアへ	JICAいわてデスク 菊池真美子氏	理学療法士のキャリアから転身し、海外青年協力隊として南米グアテマラで活動した体験談と、その後の国際キャリアパスについて語っていただいた。

報告：平井華代

―国際連携室　業務報告―

岩手大学国際戦略推進体制及び各プロジェクトについて

1. 国際連携室・国際戦略推進委員会の設置

平成 24 年度に策定した「岩手大学国際連携戦略」の具現化において、留学生の受け入れ及び学生の海外派遣の促進、学生及び教職員の国際的視野、外国語能力の向上など、海外大学との連携・研究交流推進などに係る方策・戦略を推進するための体制強化が求められる中、平成 26 年度に実施された教育研究支援施設改組の中で、「国際連携室」を新たに設置した。

また、国際化及び国際連携戦略の推進において、教育推進、研究推進、地域連携の各機構及び各学部・研究科との連携・協働により、全学としての各戦略項目の進捗状況等の確認、推進策の検討、各種課題の共有やその解決のための調整を図る場として「国際戦略推進委員会」を設置した。

2. 国際戦略推進のための各プロジェクトの設置

国際連携戦略を着実に推進するためにアクションプラン(Plan)を策定し、優先順位を付しながら、横断的な組織構成のもと、迅速かつ柔軟な対応（Do）を行う必要がある。

そのため各種戦略の進捗状況に合わせ、国際戦略推進委員会のもとに以下のプロジェクトを設置した。プロジェクトは従来の委員会方式に依ることなく、各種案件の必要性や緊急性に合わせて適宜設置・改廃を行い、迅速かつ柔軟に対応できるものとした。

2.1 プロジェクト運営のポイント

（1）特定部局のみで対応が難しい横断的事項を中心にプロジェクトを設置する。
（2）案件に応じ既存の組織・委員会をもってプロジェクトの実質的運営を付託する。
（3）各プロジェクトには国際連携室構成員が必ず加わり、関連事業の実施（実施支援）を行う。
（4）各学部・機構等における国際関連事業推進の現状・課題等については、国際戦略推進委員会において共有を図るほか、各学部国際交流委員会等に国際連携室構成員が陪席等を行い、情報収集・提供に努め、国際戦略推進委員会等において、必要な支援の実施（または支援策の検討）を図る。

2.2 各プロジェクトの概要（平成 29 年度現在）

（1）交流基盤整備プロジェクト

①対応する国際連携戦略

「グローバル化の意識を高めるキャンパス環境を整備する」
「各種戦略を実現するためのハード、ソフト両面の整備を進める」

②推進するアクション

キャンパス環境及び関連施設（宿舎、交流施設等）の整備

グローバル化に対応した教職員のFD、SDの企画（教育推進機構等との協議に基づく）

国際連携推進のための広報（広報室との協議に基づく）

国際連携・国際交流に関する危機管理

帰国留学生の組織化とネットワークの強化　など

（2）UURRプロジェクト

①対応する国際連携戦略

「協定校の重点化を図り、留学生受入と学生の海外派遣を促進する」

「地域社会のグローバル化への対応に貢献する産学官民連携事業を実施する」

②推進するアクション

国際的な産学官連携事業、大学・地域間交流事業の展開

COC 等と関連した特色ある国際連携・共同教育事業の推進

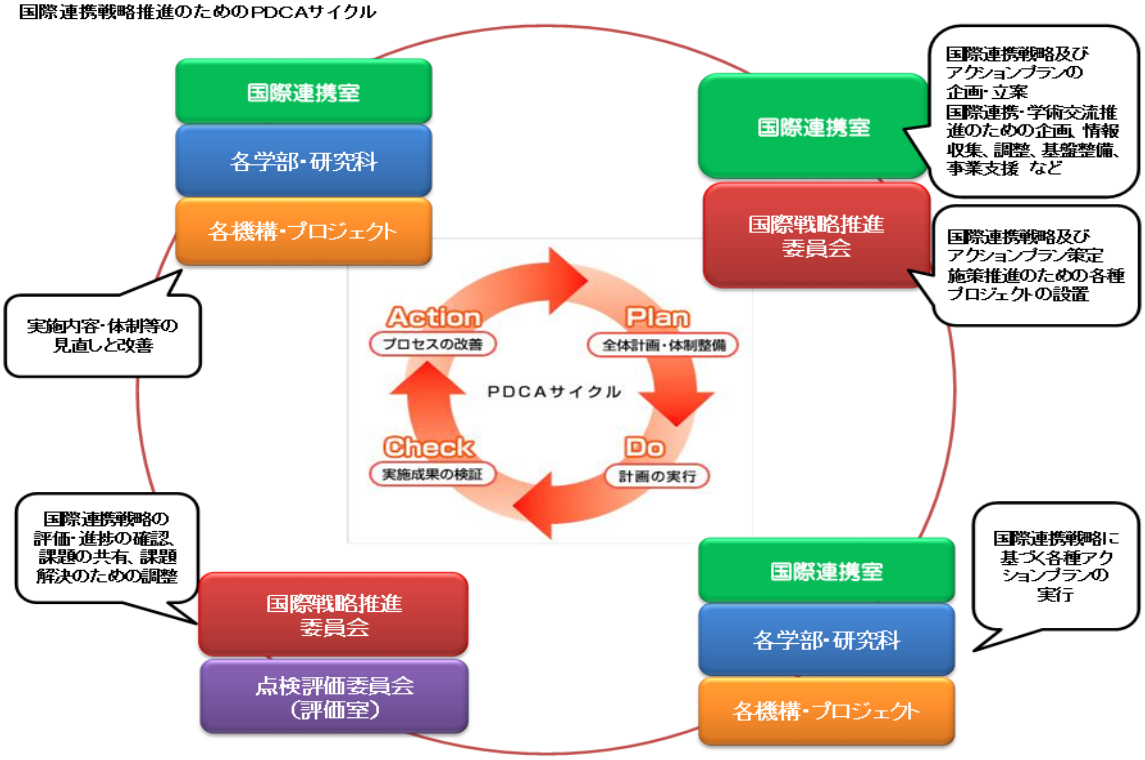
海外拠点、連携拠点等の整備　など

2.3 プロジェクトの見直しについて

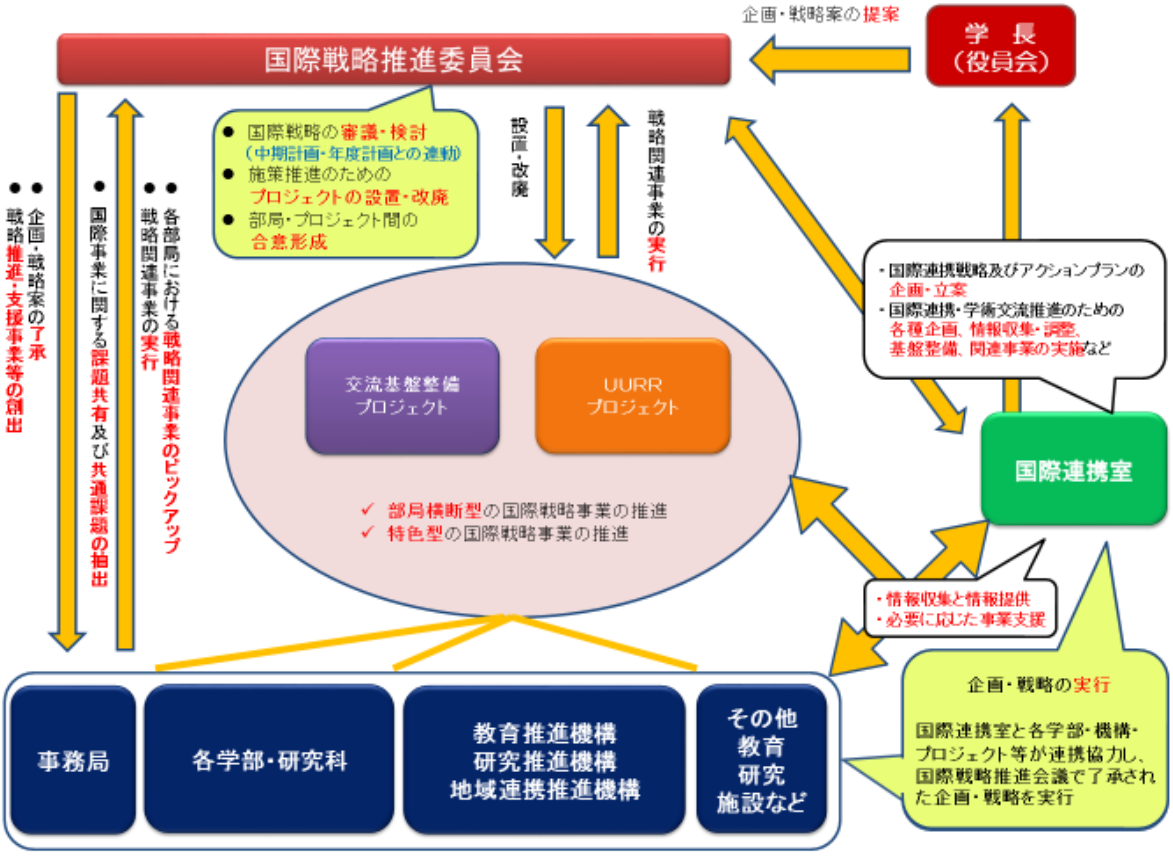
国際連携戦略及び具体的アクションプランを着実に推進するために、プロジェクトを設置し対応してきたが、すでに通常業務として定着してきた事業や全く動きがない事業などがあり、活動実績がないプロジェクトについては平成29年度末をもって一度廃止とした。平成30年度からは「岩手大学第三期における国際連携戦略アクションプラン」及び各年度の「国際連携室推進事項」に基づき事業を進めているが、今後、大学の方向性等を考慮しながら必要に応じて新たなプロジェクトを設置し本学のグローバル化を推進していきたい。

報告：国際課

国際連携戦略推進のためのPDCAサイクル



国際戦略推進業務の具体的流れ



令和元年度　岩手大学教員海外派遣事業実施

1. 事業概要

平成 27 年度より国際連携室では、岩手大学の若手・中堅教員を海外の大学・研究機関に派遣し、国際的な視野を持った教員を育成することを目的として、教員自らが研修先及び研修内容を自由にアレンジする、「自由選択型」と、本学の協定校（カナダ・サスカチュワン大学及び中国・精華大学）で研修を行う「協定校連携型」による教員海外派遣事業を実施してきた。第 1 回派遣（平成 27 年度　9 月～1 月）では計 5 名、第 2 回派遣（平成 27 年度 12 月～3 月）では計 4 名、第3回派遣（平成 28 年度 5 月～12 月）では 2 名の派遣を行なった。平成 29 年度からは「自由選択型」は教育推進機構が担当することとなり、国際連携室では「協定校連携型」について引き続き実施し、第 4 回派遣（平成 29 年度 1 月～3 月）では 1 名、第 5 回派遣（平成 30 年度 9 月～12 月）では 1 名の派遣を行った。本事業は、国際交流に積極的な教員へのインセンティブ付与や、教員の国際業務能力向上の機会を提供し、教員一人ひとりの国際化への意識を高め、岩手大学のグローバル化を推進することを目的としており、派遣された教員は、本事業への参加後、派遣先の大学・研究機関の研究者との交流推進に寄与するとともに、岩手大学が実施する国際関係事業に積極的に参画することが期待されている（参考：岩手大学教員海外派遣事業実施要項）。

2. 協定校連携型プログラムの概要

2.1 サスカチュワン大学（カナダ）

概要：サスカチュワン大学（以下サス大）グウェンナ・モス・教育効果研究センター（以下 GMCTE：http://www.usask.ca/gmcte/ ）が実施している教育法のコースを受講し，教育法の実践と応用を学ぶため，サス大で通常行われている授業を聴講することを通じ，自らの担当科目を英語で教育するための技術を修得する。

開始時期：研修希望者は 9 月もしくは 1 月のいずれかの時期に渡航し，3 ヶ月の研修期間中、以下の GMCTE が開講しているサス大の教員・大学院生向けの教育法訓練コースに参加。研修期間中は，サス大付属の語学学校において自己負担で英語コースを履修することにより英語力を強化することができる（IELTS テストで総合スコア 6.5 程度の水準をクリアしていれば，語学学校で英語コースに参加せず，GMCTE の教育法コースへの出席及び他の授業の聴講のみとすることも可能）。

2.2 清華大学（中国）

概要：清華大学の短期研究者受入プログラムに参加し，清華大学対外漢語文化教学センター（International Chinese Language & Culture Centre）で中国語及び中国文化を習得すると共に研究交流を行う。日本語・日本事情関連分野の場合，清華大学日本語学科で授業

(有償)を行うことも可能。清華大学には，英語による大学院修士課程もあり，英語による研究交流及び授業体験も可能。語学以外の専門分野での受け入れは,博士号取得済みで 3～5 年以上の教育経験を有することが条件。語学での受け入れは,修士以上で教育経験を有することが条件。

開始時期:9 月～11 月。 英語で開講される授業の受講や，日本語学科での授業を担当することを通じ，専門分野の教育力向上が期待できる。また，中国語能力をすでに有する教員は，中国語での授業体験も可能であり，中国語による教育力強化が見込まれる。清華大学には准教授以上の教員が 3,000 人以上在籍し，優れた研究実績を有しているため，研究分野における人間関係構築も期待できる。3ヶ月に亘り，清華大学・対外漢語文化教学センター(International Chinese Language & Culture Centre)で，自らのレベルに応じた中国語コースを受講し，中国語力を向上させると共に，各研究室での研究交流や授業の聴講を通じて，教育法の実践や応用についての理解を深める。参加者は，大学院で開講されている英語による授業の聴講も可能。

3. 令和元年度派遣

理工学部　鴨志田　直人　助教(協定校連携型・サスカチュワン大学:6 月～12 月)

4. 報告会

実施日:令和2年 6 月(予定)

5. 教員海外派遣事業採択者による意見交換会

実施日:令和元年6月10日(月)11:00～12:00

参加者:学長、国際連携担当副学長、教員海外派遣事業採択者8名　等12名

内　容:教員海外派遣事業参加者から、本事業に参加した意義や成果、改善点等について話していただき、その後意見交換を行った。参加者の全員が、有意義な研修であり今後も続けていくべきとの意見だったこと、帰国後に参加者のほとんどがアクティブラーニングを取り入れた授業を実施していること、学内委員会等との兼ね合い等から手を挙げづらい状況があること、帰国後の英語を話す機会の提供等が課題であることをと確認した。

岩手大学創立 70 周年記念事業・UURR プロジェクト
「グローカル人材で未来創造」国際シンポジウム

岩手大学は、創立 70 周年記念事業の一環として「グローカル人材で未来創造」国際シンポジウム（アジアジョイントシンポジウム 2019 合同開催）を下記のとおり開催した。

【参加機関】
海外協定校等：計 17 大学・機関
吉林農業大学、キングモンクット工科大学トンブリ校、キングモンクット工科大学ラカバン校、群山大学、サイアム大学、サスカチュワン大学、上海海洋大学、西北大学、全南大学、高雄師範大学、大連理工大学、中国社会科学院考古研究所、寧波大学、ハンバット大学、パンヤピワット経営大学、パハン大学、ロッテンブルグ大学
その他
グローバルフェロー、国際交流コーディネータ、外国人卒業生

【参加者数】
学長フォーラム：計約 100 名
分科会：計約 502 名
1. グローバル社会で活躍するための外国語教育　計 96 名
2. SDGs の実現に向けた農学の貢献　計 183 名
3.次元計測点群処理による文化財解析　計約 30 名
4.AJS 分科会…金型鋳造分野における研究開発とグローカル人材育成　計 26 名
5.AJS 分科会…起業家人材育成とビジネスプラン　計 23 名
6.AJS 分科会…平泉と長安―東アジアにおける庭園比較史　計 100 名
7.外国人留学生同窓会設立＆懇談会、新国際交流会館見学　計 44 名

【日程】
2019 年 11 月 13 日（水）～16 日（土）
11 月 13 日（水） 盛岡着・歓迎レセプション
11 月 14 日（木） 学長フォーラム、分科会、交流レセプション
11 月 15 日（金） 企業視察等、学部主催の研究交流レセプション
11 月 16 日（土） 盛岡発・帰国

【概要】

1. 11 月 13 日（水） 盛岡着・歓迎レセプション

国際課職員及び学生スタッフが盛岡駅とホテルにて出迎えを行い、海外からの参加者全員が無事盛岡に到着し、ホテルへチェックインした。

18:30 からホテル（メトロポリタン盛岡本館）にて歓迎レセプションが行われ、海外からの参加者のほか、岩手大学から岩渕学長、藪副学長、本シンポジウム部会メンバーらが出席した。冒頭の岩渕学長の挨拶では、本シンポジウム参加のため海外からの参加者へのお礼が述べられた。そして、海外からの参加大学・機関の代表者から自己紹介が行われ、本シンポジウム部会メンバーとも顔合わせをした。

2-1. 11 月 14 日（木）9:00-12:00 学長フォーラム

場所：岩手大学理工学部銀河ホール

○ Opening remarks（挨拶）

1. 開催挨拶：岩渕 明岩手大学長

岩渕学長は、本シンポジウムの主催者として開会の挨拶を述べた。岩手大学は 1949 年に開学し、今年70周年を迎えている、岩手大学は Glocal (global + local)な大学作りを柱にグローバルな視点を持ちながら地域の課題に向き合う Glocal な人材の育成に力を入れている、東日本大震災後は岩手の主要な大学として地域の再生（build back better）に取り組んでいると語った。

そして、Internationalization は文化の違いを知り尊重すること、Globalization は同じ価値観で国境の隔てをなくして共同して事業を行うことだと述べ、本シンポジウムの学長フォーラムと分科会を通して、有意義な討論ができることを期待すると語った。

また、本シンポジウムには海外から 17 大学・研究機関の学長・副学長・研究者が 52 名、海外在住の卒業生も参加していることの紹介があった。

2. 来賓挨拶：千葉 茂樹岩手県副知事

千葉副知事から、初めに台風 19 号で被災された方に対し哀悼の意を表したあと、本シンポジウムの開催につき祝辞を述べた。

そして、2011 年の東日本大震災津波の発災以降の岩手県の国際交流状況について紹介し、今年 9 月にはラグビーワールドカップ 2019™日本大会の試合が被災地である釜石市で開催され、多くの外国人観光客が観戦に訪れたこと、来年は東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン事業による事前キャンプ受入れも行われていることの紹介があった。

岩手県では今年度スタートした 10 年間の総合計画「いわて県民計画」において、岩手と世界をつなぐ人材や、地域産業の国際化に貢献する人材の育成を推進方策に掲げている。岩

手大学を始めとする産学官の連携組織「いわてグローカル人材育成推進協議会」を設立し、学生の海外留学や、優秀な留学生の岩手への就職支援を実施している。将来の岩手を担う人材を育成するに当たっては、岩手大学を含め様々な主体との連携を更に強化し、優れた教育や特色ある研究の展開に、引き続き御尽力いただきたいと述べた。

3. 郭 炳善（KUACK, Byong Sun）群山大学長

海外参加大学・研究機関を代表して、岩手大学と学術交流・学生交流協定を締結している韓国群山大学の郭学長が祝辞を述べ、岩手大学とは課題解決研修や交換留学プログラムによる学生間の交流を通して友好関係を築いてきた、今後も学生交流等を通して互いに発展していきたいと、今後の交流活動への意気込みや期待を語った。

4. モムアムノット（MAM, Amnot）カンボジア農林水産省副大臣

本シンポジウムに参加した卒業生を代表して、修了生のモムアムノット（人文社会科学研究科 2005 年修了・連合農学研究科 2008 年修了）副大臣が祝辞を述べ、70周年シンポジウムに参加でき、また祝辞を賜ることは卒業生として岩手大学との関りの中で大事な 1 ページとなり、誇りに思っている、岩手大学が掲げている“Glocal”は、日本人だけでなく、外国人にも有益な考え方だと賛同の意を表した。

〇Signing Ceremony of Dual Degree Program between Hanbat National University and Iwate University（ハンバット大学とデュアルディグリー覚書調印）

岩手大学とハンバット大学との交流は、1999 年からスタートして、この20年の間、研究交流・学生交流を着実に実施してきた。

今回は、両大学の交流実績を強化発展させる形で、岩手大学理工学研究科とハンバット大学理工学研究科の化学分野の博士課程において共同学位の教育プログラムを実施することとなり、ハンバット大学崔秉旭学長と岩手大学岩渕明学長、岩手大学理工学研究科船崎健一科長が覚書に調印した。

本覚書の特徴としては、両研究科の教員が一人の学生に対して教員指導団を組むこと、学生は両大学の授業科目を履修できること、 修了した学生には両大学の学位が授与されることなどがあげられる。今後、両大学が共同学位の教育課程を通してグローバルに活躍できる博士人材を育成し、両大学の交流が一層深まることが期待されている。

〇President’s Forum　Session 1

Creating the Future via Glocal Human Resources　大学の国際戦略とグローバルな人材育成

【以下概略】

1. 岩渕 明岩手大学長

岩手大学の概要について

4 学部からなり、4,500 人の学部生、900 人の大学院生が在籍している。また、230 名の留学生が在籍。日本全国には 86 の国立大学があるが、本学は大きいわけでもなく、かといって小さいわけでもない、いわゆる中規模大学である。

協定について

19 か国の国々と 54 の MOU を結んでいる。ただし、アフリカと南アメリカの国々とは結んでいない。

東日本大震災後は、地域の活動が減ってきている(人口減等が背景にある)。本学としては震災の復興ではなく、「Build back better」を目指している。

挨拶でも述べたように、岩手大学のミッションは Glocal な大学を作っていくことであるが、この震災からの復興は Local な問題でもあるが、Global な問題でもある。

学生には、積極的に海外に出て Glocal な人材(Human Resources)になってほしい。そのために、大学としては様々な取り組みを行っており、今後も積極的に実施していく。

2. 呉 連賞(WU, Lien Shang)高雄師範大学長

大学の概要について

1954 年に開学。6 つの学部と 2 つのキャンパスからなる。

大学運営について

優秀な人材を輩出するためには、良い教育プログラムを作ることに尽力しており、インターンシップ等を通じた産業界等との連携、MOU を政府や市とも結んでいる。

地域の課題を解決することにも力を注いでいる。Innovative な商品を生み出すことにも力を入れており、125 以上の商品を開発。これには、岩手大学の先生方にも協力いただいている。

国際戦略について

128 の MOU を結んでおり、また Dual Degree プログラムも実施しており、国際化を推進している。

国際交流の状況について

現在 800 人弱の留学生がいるが、これを 1,000 人に増やすことを目指している。この実現に向けて、環境を整えていきたい。

3. HEIN, Sebastian ロッテンブルク大学応用森林学教授

大学の概要について

1,150 人の学生、32 人の教授、小規模の大学である。学生の 50%が海外へ出ている。

本大学が目指すものは、地域で解決した課題を都会より離れた地域にも波及させていくこと。

日本とドイツの類似点と相違点について
2017 年頃、ヨーロッパはひどい干ばつにあったが、同じころ日本は大雨に悩まされていた。同じ気候の問題でも状況は互いに異なっており、互いに学びあう姿勢が今後より重要になってくると思われる。

4. 鐘 俊生（ZHONG, Jun Sheng）上海海洋大学国際交流処長

開学から 107 年の歴史について
1,200 名のスタッフ、12,000 人の学部生、3,000 人の大学院生からなる大学。教育の面でも高い評価を受けている。市政府等からの援助も受けて調査船を造船した。T-Talent, R-International Research, S- Service, T-Teacher を重要視しており、国際化もそのうちの一つである。
現在の国際交流の状況について
九州女子大に 28 名の優秀な学生が 2 年間留学する等、活発な人的交流が行われている。
将来の国際交流について
今後、国際化を推進する上で、5つのタスクを掲げている。①世界のニーズにあった人材のトレーニングを行うこと。②世界の大学との交流を通して、最先端の研究を推進すること。③国際的に求められる課題を解決できる能力を持ったスタッフの育成・サポート。④マネージメントの能力を向上させること。⑤世界の水準に適した環境を整備すること。

5. YUSOFF, Ahmad Razlan パハン大学教授

大学概要について
2002 年に開学した新しい大学。2つのキャンパスがあり、工学分野に焦点を当てている大学。14,131 名の学生がおり、22,340 名の同窓生がいる。ドイツの大学と Dual Degree の協定も持っている。
教育について
2015 年から MOOC を使ったオンラインコースを開設しており、現在 9,513 名が受講している。また、18 か国 39 カ所に Global Classroom を整備している。様々なタイプの教育体系があるというのが、本学の特徴。
その他（本学は世界の大学ランキングのトップ2．6%以内に位置しており、世界からも高い評価を受けている。）

〇President’s Forum Session 2
University’s Connection to Local Communities and International Academic Communication
大学の地域貢献のあり方と研究力アップについて

1. 藤代 博之岩手大学理事・副学長

岩手大学には3つのサテライトオフィス（花巻、北上、奥州）があり、それぞれ市の支援を受けながら設立。また、2007 年には、盛岡市の支援を受けコラボ MIU を開設し、そこでは主にインキュベーション・R&D など、産業と結びつけるコラボレーションを行っている。また、東日本大震災後に設立された釜石サテライトでは、ジョイントリサーチが活発に行われている。
本学は4つの学部と5つのリサーチセンターがあり、地域の課題の解決に貢献してきている。中でも典型的なのが、アグリイノベーションセンターと地域防災研究センターである。

2. 崔 秉旭（CHOI, Byoung Wook）ハンバット大学長

大学概要について

学部生 8,768 名、大学院生 517 名、6 学部、3 大学院からなる。また、ハンバット大学のこれまでの歴史について紹介。学長は変わってきているが、大学として追求すべき理念は変わっていないということを強調。

産学（A（Academic）-I（Industry））の成功例について

ハンバット大学の目標はこの分野で韓国トップに立つことを目標にしている。そのため、PBL（Problem Based Learning）や地域とのコラボレーション、Start-up の推奨等、学生が積極的にこのような経験をすることを重要視している。このように、産業界と積極的に関わり、社会との Platform となることが、本大学の重要なミッションだと考えている。

3. LEE, James K.W.サスカチュワン大学副学長

これからの大学は、国際的な課題に対応するために、Internationalization（国際化）は重要だが、同時に International partnership（国際的な協力）も重要になってきている。なぜなら、現在人類が直面している諸問題は、単一の国では対応不可能なものが大多数であり、多くの国々が手を組んで諸問題に対応することが不可欠である。そして、大学はその一翼を担っている。今回のシンポジウムでも岩手大学長が述べていたようにグローカル（Thinking Globally, Acting Locally）という、考え方が大学として益々重要な考え方になってくるだろう。
また、カナダの多くの大学は国民の税金が投入されており、国民に得られた成果を還元すること、また資金をどのように使ったか等、説明する責任がある。

2-2. 11 月 14 日（木）13:00-17:30 分科会

1. グローバル社会で活躍するための外国語教育 【人文社会科学部・教育学部】

Foreign Language Education for Living in a Global Society

【参加者数】 96 名（日本 88 名、韓国 4 名、タイ 4 名、）

【分科会での発表・議論の内容の総括】

前半の発表は日本語教育をテーマとし、日本語を使用言語として行われた。第一発表者のタイ国サイアム大学日本語コミュニケーション学科（以下 JFC）長の高田知仁氏は、JFC のカリキュラムの特徴について説明した。タイと日本との密接な経済関係のもと、タイの日系企業は日本語のできる現地人材を求めており、JFC では日本人とのコミュニケーション能力を重視したカリキュラムを実施していることが報告された。併せて、本学に留学中のサイアム大学の学生2名も紹介された。第二発表者は、韓国群山大学日語日文学科教授の南二淑氏であった。最近の日韓関係の課題に触れながら両国の関係の重要性が強調された後、群山大学の高い日本語教育目標が説明され、具体的に日韓語の慣用句や諺の類似点と相違点、日本語の詩作品の教材化などの指導上の工夫についても言及が行われた。

後半の発表は、英語教育政策及び英語教員養成をテーマとし、英語を使用言語として行われた。第三発表者は、パンヤピワット経営大学（以下 PIM）英語教育学科長のポンピモン・プラソンポン氏であった。タイ王国の英語教育目標と目標実現のための教育政策、英語力向上のための種々の取り組みが報告され、日本の英語教育にとっても参考になる内容であった。併せて、本学に留学中の PIM の学生も紹介された。第四発表者は本学教育学部のジェームズ・ホール氏であり、本学英語教育科の卒業生と現役学生との共同発表を行った。発表題目は「問題解決のできる英語教師の育成」であった。ホール氏の報告に加えて、本学卒業生の熊谷修平氏は PIM 附属中等学校での数学教育実習について報告し、現役学生の北村ちひろ氏もサイアム大学コーディネイトによるバンコク市内中等学校での教育実習をふりかえって、それぞれ自らの教師としての成長を語った。

これらの報告に加えて、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）の各国の外国語教育での取り入れ状況について、日本語と英語を使用言語として報告者間で報告と討議が行われた。

【分科会開催の所感】

分科会で報告された取り組みは、日本・韓国・タイをめぐる関係向上に貢献していると考える。また、岩手大学のグローカル人材育成目標のために、分科会参加大学は協定校として連携しており、今後も協定校との交流を継続・強化することが不可欠と考えられる。

【今後の展望】

これまで PIM では数学教育実習を行ってきたが、今年度の1月から PIM と教育学部英語教育科との共同研究、学生交流も検討されることとなった。サイアム大学と岩手大学の日本語教育分野の教員交流により、今後、岩手大学の日本語教師養成とサイアム大学の日本語コミュニケーション学科との連携強化を検討されることとなった。最後に、英語教育研究の共同研究の構想が群山大学と岩手大学の教員の間で進められた。

2. SDGs の実現に向けた農学の貢献

Contribution of Agriculture Research and Education to Realization of SDGs (Sustainable Development Goals)

【参加者数】全参加者数 183 名（日本 159 名、日本以外 24 名）

【分科会での発表・議論の内容の総括】

SDGs という大きな課題について、農学が果たす役割を農学、畜産、漁業、森林また獣医という様々な視点から議論を行った。

第1部は招待講演として、コペルニク代表の中村氏から基調講演をいただくとともに、協定を結んでいるサスカチュアン大学、ロッテンブルク大学、上海海洋大学、吉林農業大学からの発表。第2部は高校生の講演として釜石高校と水沢高校からの発表があり、海外からのスピーカーからの質問にも適切に応答していた。第3部は岩手大学農学部のすべての学科教員からの発表を行い、議論を深めた。第4部は総合議論として持続可能性という視点から今後の方向について議論を行った。

【分科会開催の所感】

岩手大学全体と農学部で早くからこの分科会を準備し、公共施設や高校にもそれを周知できたことは、SDGs という大きな取り組みに岩手大学も取り組んでいるということをアピールでき、岩手大学のブランド力を高めることに繋がったと考えられる。

【今後の展望】

研究者同士の共同研究を進める予定。

3. 3 次元計測点群処理による文化財解析 3D Measurement and Analysis of Culture Assets

【参加者数】約 30 名（国別は不明）

【分科会での発表・議論の内容の総括】

下記のように 8 件の研究発表を行った。主な内容は、3 次元点群処理、文化財可視化、計測装置開発等であった。

Constructing AR Environment for Mobile Phone

Flake Surface Segmentation from Nosy Point Cloud of Stone Tools

Unfoldment of Surface Pattern with Highlighting Decoration via Rotationally Symmetric Jomon Earthenware

Dynamic 3D scanning based on optical tracking

Analyzing Shape Similarities between the Arm Model of Mongolian Buddha Statues for Archaeological Applications

Error controllable point cloud simplification with a specific simplification degree

Elaborated Face Matching of Japanese Terracotta beyond Point Cloud Registration

Constructing Adjacent Graph between Stone Tools from Joined Material for Finding Hollow Space

【分科会開催の所感】

分科会は，岩手大、モンゴル国立大、西北農林科技大の 3 大学が持ち回りで実施している研究シンポジウムが中心となったものであり、今回で 3 回目の開催である。各大学で実施している研究内容を把握し、共同研究を拡大するための情報を得ることができた。

【今後の展望】

第 4 回 3 大学合同研究シンポジウムは、2020 年度 9 月に西北農林科技大学で開催する予定であり、今後も継続する。

4. AJS 金型鋳造分野における研究開発とグローカル人材育成

AJS (Asia Joint Symposium) for Research & Development and glocal human resource training in the field of Die, Mold and Casting

【参加者数】26 名（中国 6 名、韓国 1 名，マレーシア 1 名、日本 18 名）

【分科会での発表・議論の内容の総括】

はじめに、本学の西村教授と平塚教授より、金型と鋳造分野における人材育成について紹介が行われた。引き続いて、大連理工大学の趙教授と劉教授と李准教授、韓国ハンバット大学の金教授、マレーシアパハン大学のラズラン教授、本学の廣瀬名誉教授と内舘准教授による研究発表や人材育成の取り組みに関する9件の発表が行われた。

【分科会開催の所感】

分科会では質疑応答で活発な議論があり、本会を開催したことで相互の理解と友好が深まったと感じている。また、大連理工大学からは 6 人中 4 人が初めての岩手大学訪問であり、新たな交流が生まれたことは今後にとって有意義であると思われる。本学の関連研究室から学生も参加しており、学生にとって英語での発表を聴講することは良い刺激になったものと思われる。なお、県内企業の方も 2 名参加された。

【今後の展望】

来年度は Asia Joint Symposium が大連理工大学で開催される見込みであり、本学の金型・鋳造の分野から数名の教員が参加する予定である。また、大学院地域創生専攻の必修科目のグローバルコミュニケーションの一環として、希望する学生を参加させることを検討する。マレーシアパハン大学については、2019 年 12 月に本学の教員 2 名が訪問して講義を行うことになっており、2020 年 2 月には岩渕学長と内舘准教授が訪問を予定している。参加校とは引き続き、交流を進めて行きたい。課題としては，研究面での協力体制の構築が挙げられる。

5. AJS 起業家人材育成とビジネスプラン

AJS (Asia Joint Symposium) for Industrial, Academic and Governmental Collaboration Entrepreneur human resources development and business plan

【参加者数】23 名（中国 4 名、韓国 10 名、日本 9 名）

【分科会での発表・議論の内容の総括】

大連理工大学の孫紅新国際コーディネーターは、これまでの UURR の経緯の説明、国際連携の活動状況として立命館大学との交換留学生プログラム等について紹介した。ハンバット大学崔鐘仁副学長は、ベンチャー企業のアーリーステージの技術に基づく成功方策について企業経営者のリーダーシップ、アイディア、市場ニーズ、能力の重要性について紹介した。ハンバット大学禹昇翰教授は、大学と企業が協力しながら起業家教育を行うシステムとしてクロスオーバーエデュケーション（学生は企業で、企業は大学で研修するプログラム。）を紹介した。ハンバット大学金亨駿教授は、R&D イノベーションモデルとしての韓国の Living Lab の高齢者住宅の見守りシステムや地域の伝統的市場の活性化プロジェクト等の具体例について紹介した。岩手大学千葉寿技術専門員は、産学官連携による緊急災害情報の広域警報システムの開発状況ならびにビジネスプランについて紹介した。岩手大学小野寺純治特任教授は、COC プロジェクトで進めている地域創生・起業家人材育成の取り組み状況について紹介した。

【分科会開催の所感】

本セッションでは、各大学が現在取組んでいる学生の企業へのインターンシップによる企業教育により社会に出た際の即戦力として活躍できる人材育成に力を入れている状況を知ることができた。所感としては、企業へのインターンシップは学生への何を勉強すれば社会で活躍できそうかを知る機会であるが、それを生かして学生自身が基礎学力をさらに身に着けるとともに自身の得意分野を開拓していくところまでフォローアップする仕組みが今後は必要であると感じた。

【今後の展望】

日本、中国、韓国の3大学の新たな取り組みやその成果についての紹介はあったが、多様かつ具体的な課題点を克服された点については発表時間の関係で紹介しきれないため、各大学での課題克服事例についてのディスカッションを行う機会があるとさらに有意義なディスカッションにつながると期待している。

6. AJS 平泉と長安—東アジアにおける庭園比較史

AJS (Asia Joint Symposium) for Hiraizumi and Chang'an- Comparative History of Gardens in East Asia

【参加者数】100 名（中国 15 名、日本 85 名）

【分科会での発表・議論の内容の総括】
①中国社会科学院考古研究所研究員　張建鋒氏
演題:「中国先秦前漢期における苑池造営の変化についての考察」
概要:新石器時代の水池から前漢期の苑池までの発掘状況を概観する上で、その立地・性格及び造営の変化についてまとめた。
②西北大学教授　王建新氏
演題:「文化遺産保護の中国的実践とその反省」
概要:中国における文化遺産保護実践の歴史過程を振り返えつつ、文化遺産保護実践の中国特色をまとめたうえで、文化遺産保護に関する権利及び「合理利用」に対する反省点を指摘した。
③岩手県文化スポーツ部文化振興課世界遺産課長　佐藤嘉広氏
演題:「平泉と苑池」
概要:最新発掘成果のもとに、世界遺産平泉の寺院における浄土庭園及びそれ以外の苑池を概観しつつ、奥州藤原氏が築こうとした仏教的浄土世界における苑池の性格について論議した。
【分科会開催の所感】
　世界史的な視点から、とくに東アジアの文脈における前近代の政治都市(拠点)の成立過程及びその一連発展の系譜において、政治・行政拠点としての平泉の位置付け及びその苑池の普遍的価値を、ある程度明確化することができた。
【今後の展望】
　今後、世界遺産としての平泉の新たな学術意義を確認し、世界遺産拡張登録を推進するため、東アジアにおける前近代の政治都市(拠点)の成立過程及びその構造を検討するうえで、12 世紀における平泉との比較研究を行うことによって、政治・行政拠点としての平泉が、東アジアにおいて独特の位置にあることを明らかにすることが求められている。よって、UURR 枠組みのもとで、中国や韓国等の大学や考古研究所等の研究機関との交流や会合を、さらに行うことが必要である。

7.　外国人留学生同窓会設立大会・懇談会・国際交流会館見学・植樹

Inaugural Meeting of the Alumni Association for Iwate University International Students, International Alumni Round Table, International House Tour and Tree Planting
【参加者数】44 名
(日本 14、韓国 4、カンボジア 2、タイ 1、中国 19、マレーシア 2、ロシア 2)
【分科会での発表・議論の内容の総括】
　岩手大学外国人留学生同窓会(以下、「同窓会」と記す。)設立大会では同窓会の設置、同窓会規約及び役員名簿について審議し参加者全員から承認を得られた。続いて同窓会会長の楊建華先生、副会長のパイリントラ先生から「同窓会設立宣言」の宣誓が日英両言語

で高らかに行われ、岩渕岩手大学長から記念の盾が授与された。なお、国際交流会館敷地内に石割桜と同じ種類である「エドヒガンザクラ」を同窓会参加者全員で植樹を行い、続いて完成後間もない国際交流会館新築部分の見学を行った。

懇談会では様々な分野で活躍されている卒業生・修了生代表5名から近況や岩手大学在学中の思い出、在学生へのメッセージ、岩手大学への今後の期待等について述べていただいた。在学中の留学生からは最近の留学生会活動、中国人留学生学友会の活動紹介がなされた。その後の懇談タイムでも、当日の参加者一人一人から岩手大学での思い出や感謝の気持ちが述べられ、卒業・修了年次、国や地域の垣根を超え、同窓生・現役留学生・教職員相互の親睦を深め合うことができた。

【分科会開催の所感】

岩手大学創立 70 周年という節目に、岩手大学外国人留学生同窓会を新たに設置できたことは大きな成果であった。同窓会を土台として、本学及び在学生とのネットワークを構築し、大学及び地域社会のグローバル化と発展に貢献することが今後期待される。

【今後の展望】

既に7つ設置されている同窓会支部に加えて、同窓会設置が呼び水となり、同窓会支部が別地域にも発足されることが期待される。更に、同窓会支部毎だけではなく同窓会全体としての総会開催が見込まれる。なお、岩手大学イーハトーヴ基金に同窓会支援に関する特定基金の新設の手続きを進めているところであり、本同窓会の活動に掛かる費用として使用する予定である。

3-1. 11 月 15 日（金） 企業・平泉・盛岡手づくり村視察

企業視察　株式会社岩手ヤクルト工場（従業員約 120 名・岩手県北上市）

生産施設：成形機、充填ライン、ストレージタンク等

視察内容：オリエンテーション、生産工程見学、質疑応答

視察は二つのグループに分かれて行われ、ヤクルト工場のガイドと共に本学の教職員及び留学生が英語、中国語、韓国語で説明し、容器成形から製品が冷蔵庫に運ばれるまでの生産工程を見学した。また、日本国内で販売されている様々なヤクルト製品や、海外で販売されているヤクルトの展示コーナー、東京ヤクルトスワローズのコーナーもあり、参加した皆さんは大変興味深く見学し、帰国したら早速ヤクルトを買ってみたいという方もいた。

平泉毛越寺・中尊寺視察　海外参加者に岩手をもっと知ってもらうため、世界遺産である毛越寺・中尊寺の見学を行った。英語・中国語・韓国語によるボランティアガイドの案内で、平安時代の浄土庭園の毛越寺、そして中尊寺では国宝の金色堂と奥州藤原氏の残した文化財が収蔵されている讃衡蔵などを見学した。毛越寺も中尊寺も紅葉がとてもきれいで、参加の皆さんには岩手の秋を楽しむ良い機会でもあった。

盛岡手づくり村視察

視察の最後は手づくり村を訪れ、盛岡地域における伝統工芸品の作業風景の見学、南部せんべいの手焼き体験等を通して、盛岡の地場産業にも触れることができた。

3-2. 11 月 15 日（金） 学部主催の研究交流レセプション

本シンポジウムに参加した大学・研究機関は、各学部からの提案によるもので、研究者同士の交流を深めるため、15 日（金）の夕食は学部による研究交流レセプションとして企画した。交流レセプションには各学部長をはじめ、協定校の交流窓口になっている先生方や、相互の研究交流・学生交流に携わっている先生方等が参加し、有意義な交流の場となった。

【総括】

本シンポジウムのテーマである「グローバルな視点を持つ人材の育成」、「地域創生に貢献できる人材の育成」、「国際的学術交流の促進」について、参加した協定校の学長・副学長及び研究者等と闊達な意見交換ができ、それぞれの大学の先進的な取組について理解を深め、今後の課題についても情報共有できた。

さらに、本シンポジウムを通して、協定校とより強固なネットワークと友好関係を築き、今後の交流の更なる発展と継続について確認できた。

地域のグローバル化を先導することを目標と掲げている岩手大学の国際交流に対する取組を学内外および世界に発信できた。

報告：国際課

令和元年度がんちゃん国際フォーラム
もう何も頼れない　GAFA時代のキャリア形成

平成 19 年度より継続して実施している、「がんちゃん国際フォーラム」は、「国際的視野をもった人材育成のため教育の国際化を推進する」との本学の教育目標に則り、国際社会の発展や、地域の国際化に貢献しうる人材の育成等のため、国際交流等の知識の啓発を促すための講演会であり、今回が通算 18 回目の開催となる。本学学生がグローバル化のなかでの地域のあり方を考え，持続可能な地域づくりの担い手となる国際理解力のある人材育成に資することを目的としている。令和元年度の講演会は、アマゾン　ウェブ　サービス　ジャパンにて金融の事業開発を担当している　飯田哲夫氏を招いて「もう何も頼れない　GAFA時代のキャリア形成」というテーマで講演が行なわれ、本学の学生及び教職員を中心に約 110 名が聴講した。

日時：2019 年 4 月 19 日　15:00～17:00
場所：岩手大学教育学部　北桐ホール
対象：本学学生・教職員および一般市民

講師：飯田　哲夫氏
　アマゾン ウェブ サービス ジャパンにて金融の事業開発を担当。92 年、東京大学文学部仏文科卒業後、電通国際情報サービスにて金融機関向けの IT ソリューションの開発・企画を担当。その後ロンドン勤務を経て、マンチェスター・ビジネス・スクールにて経営学修士（MBA）を取得。電通国際情報サービス時代に日本初の FinTech ピッチコンテストを手掛けるなど、日本国内における FinTech 領域の拡大に貢献してきた。2016 年 7 月より現職。趣味は絵を描くことと釣り。

概要：今日、GAFA（Google、Amazon、Facebook、Apple）のように、革新的なサービスを生み出しながら、大きく成長し続ける企業、そしてそこで働く人たちもいます。一方で、企業のライフサイクルは短くなり、今ある職業の半分は今後 10 年で無くなるとも言われています。また、高齢化・少子化の進む日本において国の保証に頼ることもできません。このように何にも頼ることの出来ない時代に、これから社会へ出ていく我々はどのようにキャリア形成を考えれば良いのでしょう。講演では、GAFAの業績が伸びている理由や、AMAZONの経営理念、さらに飯田氏のマンチェスター・ビジネス・スクール時代の経験等を交えての講演が行なわれ、参加者は興味深い話の内容に聞き入っていた。

アンケート結果

○所属（単位：人）	
岩手大学	学生 93（人社 12、理工 67、農 4、総合研究科 7、連合農学研究科 2、獣医学研究 1） 教員　4（非常勤1含む）
一般の方	2
○今回の講演会を知ったきっかけ	
大学 HP	8
その他 SNS	3（Facebook、アイアシスタント 2）
チラシ	5
メール	29
知人から聞いた	21
その他	24（先生から 8、授業 14、新聞（盛岡タイムス）、掲示版）
○本日の講演はどうでしたか	
とてもよかった　47	よかった　43　　改善してほしい　1

感想（一部抜粋）

来年就活するにあたって自分では考えたことのなかった企業が消滅するかもしれないという視点でのお話は、とてもおもしろかった。長く企業を継続しつつ、変化を絶やさない、時代のニーズに合わせた企業づくりは大変だけど、自分も就活をする際に見極めていくべきポイントだと思った。

Amazon の会社理念に感銘を受けた。本当の意味でお客様を大切にし、また、人々の生活をより良いものにしようと挑戦する人にとって働きやすい職場だと感じた。制約の多い社会だが、それを糧に努力したい。

今回の講演をきいて 1 番印象に残っているのは、無人のコンビニや配送作業、アレクサ等の AI 技術の発達です。とても近未来的で感動しました！今後のことでは「将来は現在の延長にない」「変化はどこからでも起こせる」という言葉が心に残っています。直感を信じて新しいことにチャレンジしてみたいと思いました。

「失敗を恐れず失敗から学ぶ文化」という言葉が印象に残りました。失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦してくことが大切なのだと思いました。

昭和から平成、そして令和へと時代が移り変わるにつれて、企業の成長衰退は非常にめまぐるしく、諸々のサービスの向上の裏には AI の存在が大きいということに気付いた。AI がもたらすものは、便利さはもちろんのこと、今まではなかった事例の展開にも起因し得るが、一方で仕事は減ってくのでは、という懸念もある。AI が社会の中で重要性を増す世界の中で、いかに「挑戦」し続けるか、ということが大切になるということを知った。

報告：国際課

米国で日本語を学習する高校生対象の進学説明会

1. 趣旨

米国の大学の授業料が高騰していることにより、教育ローン借入金が膨大になって、大学進学者の財政状況を悪化させていることが社会問題化している。他の大卒者との差別化を図りたい日本語学習者は、日本語能力を付加価値として就職を有利に進めたいという思惑があると推測される。一方日本の国立大学の授業料は米国のそれと比べて格段に廉価であり、生活費等総額も米国内進学より低く抑えられる。初級レベルの日本語既修者が、日本語能力向上に必要な期間も含めて 4 年半や 5 年かけて本学を卒業しても、大学での専門性と日本語力の両方を獲得できる本学への正規留学は魅力的となると想定できる。そこで、米国の日本語学習者対象に進学説明会を実施することで岩手大学の魅力を発信し、正規学生としての留学についての情報を提供する。

2. 実施内容

当初教員 2 名と事務 1 名で米国中西部の高校に訪問を予定していたが、新型コロナウィルス感染拡大により渡米を断念し、ウェブ会議システム ZOOM を使用して、日本語教員の協力の下 Eastview High School（ミネソタ州）1 か所で実施した。

報告：尾中夏美・ジェイコブ・ピーターセン

令和元年度日本留学フェア及び
外国人学生のための進学説明会等

【海　外】

1　中国　「日中大学フェア＆フォーラム in CHINA 2019」

日　　時: 5 月 25 日、26 日、27 日、28 日

場　　所: 成都市、錦竹市

参 加 者: 岩渕明学長、藪敏裕副学長、髙木浩一理工学部教授、
崔華月国際課外国語専門員

2　韓国　「日本留学フェア（韓国）」

日　　時: 9 月 28 日、29 日、30 日

場　　所: 釜山、ソウル

参 加 者: 松岡洋子グローバル教育センター教授、越田晶子国際課主査（副課長）、
山下千佳国際課主任

3　インドネシア　「日本留学フェア（インドネシア）」

日　　時: 11 月 22 日、23 日、24 日

場　　所: スラバヤ、ジャカルタ

参 加 者: アンデス・カールキビストグローバル教育センター准教授、相川和慶国際課
主事、伊藤伎恵研究推進課主事

【国　内】

1　外国人留学生のための進学説明会（東京会場）

日　　時: 7 月 6 日（土）

会　　場: 【東京会場】 サンシャインシティ　文化会館展示ホール D

参 加 者: 石松弘幸国際連携室准教授、越田晶子国際課主査、
村山香織国際課事務職員

2　外国人留学生のための進学説明会（大阪会場）

日　　時: 7 月 13 日（土）

場　　所: 【大阪会場】梅田スカイビル　アウラホール及びステラホール

参 加 者: 尾中夏美グローバル教育センター教授、高橋潤入試課主査、
山根康介国際課主任

3　北東北国立三大学国際交流担当者による進学説明会

日　　時: 12 月 9 日（月）13:00～15:30（各大学紹介・質問タイム／大学毎に実施）

場　　所: 岩手大学人文社会科学部2号館1階　111番教室

参 加 者: 岩手大学、秋田大学、弘前大学国際交流担当教職員

※【詳細報告】

【海　外】

1　中国　「日中大学フェア＆フォーラム in CHINA 2019」、「地震遺跡公園および成都理工大学訪問」

【概要】

日　　時: 2019 年 5 月 25 日(土)～26 日(日)
場　　所: 四川錦江賓館 Jinjiang Hotel(中国四川省成都市)
主　　催: 科学技術振興機構、中国科学技術部(国家外国専門家局)
共　　催: 中国国際人材交流協会、四川省科学技術庁(四川省外国専門家局)
協　　力: 成都市科学技術局
後　　援: 日本学術振興会北京研究連絡センター
実施協力: 四川省科学技術交流センター
参 加 者: 日中大学・高等専門学校学長(もしくは学長レベル相当者)
岩手大学参加者: 岩渕　明(学長)、藪　敏裕(副学長)
髙木　浩一(理工学部教授)、崔　華月(国際課外国語専門員)

【プログラム】

5 月 25 日(土):成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地視察、開会式、講演会、日中学長円卓会議、日中交流会

5 月 26 日(日):日中学長個別会談、日本新技術展、日本大学フェア、四川大学訪問

【報告】

中国国際人材交流協会と日本科学技術振興機構(JST)が共催した同イベントには、日中両国の大学、科学研究機関、企業界の代表者ら計 1200 人以上が出席し、日中両国の大学間における最大規模の学長級国際科学技術革新人材・技術交流イベントである。

学長フォーラムは、日中大学学長円卓会議を新設し、日中の大学 100 校近くの学長・副学長らが、共に関心を寄せる「大学教員の研修と評価」「中日共同研究促進の仕方」「グローバル化人材の育成」「産学研協力の最良の実践」「技術者育成の国際協力」などの議題について議論した。

岩手大学からは、岩渕学長が「グローバル化人材の育成」の円卓会議に出席し、本学の取組について紹介した。また、会期中には日中大学学長会談、日本側新技術成果展示、日本側大学・専門学校フェアなどが行われた。

日中大学学長会談では、協定校の石河子大学、大連理工大学及び西蔵大学、成都理工大学の学長・副学長が岩手大学ブースを訪れ、今後の交流について会談が行われた。
留学フェアブースでは、下記の大学等が来場し、岩手大学を紹介し、学生交流・研究交流等について意見交換を行った。特に研究交流では、研究者を日本に派遣することが可能かの質問が多くみられ、その場合は本学の研究者とのマッチングが必要であることと、研究者総覧のウェブサイトを紹介した。ブースでは、本学の教育学研究科を修了した留学生も一緒に対応し、留学相談に来た学生や保護者の方に岩手大学での留学生活について紹介した。

1	櫻花日語大学	日本語学校／学生の日本への留学
2	河北省農林科学院	農学分野での研究交流 （野菜の研究について詳しく質問があった）
3	大理大学	教育、人文、農学分野での学生交流・研究交流
4	上海交通大学 （日本研究中心外国語学院）	中国短期研修についての紹介
5	韓山師範学院	研究者交流、学生交流
6	四川農業大学	農学分野での研究交流
7	中国石油大学	研究者交流、学生交流
8	成都理工大学	研究者交流、学生交流
9	海南師範大学	研究者交流、学生交流
10	武漢理工大学	研究者交流、学生交流
11	貴州現代農学研究所	研究者交流
12	山西大学	研究者交流、学生交流
13	山西農科院	農学分野での研究者交流、学生交流
14	その他個人等	入試制度について質問

日本新技術展では、日本からAI（人工知能）、ロボット、自動運転、生体材料など、40 点以上の最新の科学研究成果が展示された。

岩手大学からは、理工学部髙木教授グループの農業・食品への高電圧・プラズマ活用技術を展示し、高木教授がブースにて来場者対応を行った。河北省農林科学院、四川農業大学、山西農科院、石河子大学などの研究者や、また企業関係者が3社くらい、ブースに見えられ、特に河北省農林科学院、山西農科院は、双方の訪問も含めた今後の共同研究など、話が進展した。企業からの相談は、即商品として、いくら儲けがでるかなどの話に展開され、多少かみ合わない部分もあった。いろんな方には興味を持ってもらえたように感じた。

2 韓国　「日本留学フェア（韓国）」、「協定校明知大学訪問」

主　催：独立行政法人日本学生支援機構

日　時：9 月 28 日（土） 10 時 ～ 16 時（釜山会場）

9 月 29 月（日） 10 時 ～ 16 時（ソウル会場）

参加者：グローバル教育センター　教授　松岡洋子

国際課　主査（副課長） 越田晶子

国際課　主任　山下千佳

釜山会場ではヤングリーダーズ国際研修元参加者、ソウル会場では元交換留学生(2名)が通訳補助を行った。

開催地	フェア全体来場者数	岩手大学ブース相談者	資料配付数
釜山	R 1/1,640 H29/2,410 H28/1,738 H27/1,670	25 名以上 内訳：学部 20 名、大学院 1 名；人社 5 名、教育 1 名、理工学 8 名、農学 4 名 ※重複回答有、※H29 年度 50 名以上	日本語版 70 部韓国語版 30 部
	参加機関	69 機関 内訳：4 国立大学、5 公立大学、30 私立大学 15 専門学校、14 日本語教育機関、1 その他教育機関	
ソウル	R 1/3,080 H29/3,950 H28/3,120 H27/2,580 H26/2,360 H25/2,125	68 名以上 内訳：学部 74 名、大学院 1 名、；人社 26 名、教育 8 名、理工学 27 名、農学 11 名 ※重複回答有、※H29 年度 100 名以上	日本語版 100 部 韓国語版30部 ※資料足らず
	参加機関	92 機関 10 国立大学、4 公立大学、41 私立大学 18 専門学校、17 日本語教育機関、1 その他教育機関、1その他機関	

主な相談事項

大学概要：岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について

学習内容：関心ある分野を学べる学部・学科があるか、どのような授業があるかについて

就 職 先：岩手大学の留学生の卒業後の就職動向について

入　　試：入試日程、出願時期、願書の取り寄せ方法・必要な科目・手続き、日本留学試験の合格ライン、入試の過去問、英語成績（TOEFL など）が必要かどうか、渡日前入学制度について、編入学について

授業料等：入学料および授業料の額、授業料免除（来年度から授業料免除制度が変更になりきびしくなることについて説明）について

奨 学 金：学習奨励費・私費奨学金の種類、金額、受給の可能性

生活状況：おおよその生活費

宿舎について：学生寮の有無、寮費等必要経費、民間アパートの賃貸相場

その他の質問事項：兵役時の休学について、盛岡の気候、大学周辺の環境、街の規模など

感想

釜山会場では、天候が悪かったためか全体来場者数も伸びなかったが、本学ブースを訪れる学生も少なかった。ソウル会場では昨年度に比べると来場者数は減っているものの、終日盛況であり、本学ブースを訪れる学生も朝から途絶えることなく対応に追われた。

両会場とも国立大学の参加が少ない理由もあり、国立大学への進学を希望する学生が多く本学ブースを訪れた。

質問内容が、学びたいことを学習できる学部・大学院はあるか、指導してくれる教員はいるか、というものが多く、学びたい分野が明確な学生が多かった。

来場者の中には、高校1、2年の学生も多く相談に訪れて、再来年以降の入学に備えていた。また、保護者や日本語学校教員の来場者も多かった。

日本留学試験の合格点数、入試の過去の入手可能性についての質問が多く、回答できる範囲で対応した（日本留学試験の合格点は、非公表なので回答できない旨伝え、平均点が一つの目安なので、すべての科目で平均点を超えることを目標にするよう回答した。）。

大学院への進学希望者の場合、希望する研究分野の教員を紹介し、後でHPを通して研究内容等を調べ、教員と直接連絡するように伝えていた。しかし、メールアドレスを公表していない教員もいて、その場合は国際課を通して連絡するように対応した。

両会場ともに、元本学の留学生が通訳に入ってくれたことで韓国語対応ができ、スムーズな対応ができた。

資料について、今回韓国語版、日本語版を用意したが、ほとんどの学生が韓国語版を希望したため、資料が足りなかった。日本語版は数冊(担当者説明用等)で良いという印象であった。

卒業後の就職先に関する質問も多数あり、留学生の進路、就職先について把握しておく必要を感じた。

学生からの質問は似ているものが多いので、情報をまとめたチラシ（韓国語）や Q&A（FAQ）を作成しておくとブース対応がよりスムーズになるのではないかと感じた。（授業料、カリキュラム、寮、奨学金等）

3 インドネシア 「日本留学フェア（インドネシア）」

主　　催: 独立行政法人日本学生支援機構

日　　時: 11 月 23 日（土） 9 時 30 分 ～ 16 時（スラバヤ会場）

11 月 24 月（日） 10 時 30 分 ～ 17 時（ジャカルタ会場）

参 加 者: アンデス・カールキビスト グローバル教育センター准教授

相川和慶 国際課主事

伊藤伎恵 研究推進課主事

Sri Wlandari 元国費教員研修留学生（通訳補助）

開催地	フェア全体 来場者数	岩手大学ブース相談者	資料 配付数
スラバヤ	R1/1,837 H30/1,460 H29/1,415 H28/1,208	100 名以上 内訳:学部 16 名、大学院 31 名;人社 9 名、教育 11 名、理工 23 名、農 10 名 ※重複回答有	日本語版 50 部英語版 50 部 ※資料不足
	参加機関	34 機関 内訳:5 国立大学、2 公立大学、12 私立大学 2 専門学校、11 日本語教育機関、2 その他	
ジャカルタ	R 1/3,080 H30/ 3,855 H29/3,536 H28/3,755	180 名以上 内訳:学部 43 名、大学院 49 名、;人社 17 名、教育 8 名、理工 39 名、農 27 名 ※重複回答有	日本語版 90 部 英語版 90 部 ※資料不足
	参加機関	64 機関 12 国立大学、3 公立大学、24 私立大学 5 専門学校、15 日本語教育機関、5 その他	

主な相談事項

大学概要: 岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について

学習内容: 関心ある分野を学べる学部・学科があるか、どのような授業があるかについて

就 職 先: 岩手大学の留学生の卒業後の就職動向について

入　　試: 入試日程、出願時期、願書の取り寄せ方法・必要な科目・手続き、日本留学試験の合格ライン、入試の過去問、英語成績（TOEFL など）が必要かどうか、渡日前入学制度について、編入学について、

授業料等: 入学料および授業料の額、授業料免除（来年度から授業料免除制度が変更になりきびしくなることについて説明）について

奨 学 金: 学習奨励費・私費奨学金の種類、金額、受給の可能性
生活状況: おおよその生活費
宿　　舎: 学生寮の有無、寮費等必要経費、民間アパートの賃貸相場
そ の 他: 盛岡の気候、大学周辺の環境、街の規模など

所感

スラバヤ・ジャカルタ両会場とも、想定を上回る人数が本学ブースを訪れ、開場から終了間際まで盛況であり、本学ブースを訪れる学生も朝から途絶えることなく対応に追われた。

質問についてはまず、関心のある分野の学部学科（大学院）が設置されているか、指導してくれる教員はいるか、というものが多く、学びたい分野が明確な学生が多かった。

来場者には、高校生も多く含まれ、再来年以降の入学に備えていた。日本語学校に通っている高校生もいた。また、保護者や日本語学校教員の来場者も多かった。

学部入学希望者からは、英語のみで修了可能か多く問われた。（不可能である。）

学部生からは、1年間の短期受入プログラムはあるか問われた。（協定校との交換留学のみ。）

選抜方法や日本留学試験の合格点数については必ず確認された。回答できる範囲で対応した。日本留学試験の合格点は最低点のみを公開していること。すべての科目で平均点を超えることを目標にするよう回答した。

大学院への進学希望者の場合、希望する研究分野の教員を紹介し、後で HP を通して研究内容等を調べ、教員と直接連絡するように伝えた。メールアドレスを公表していない場合は国際課を通して連絡することとした。

両会場ともに、本学の元留学生が通訳に入ってくれた上に、同行したグローバル教育センターの教員もインドネシア語による対応が可能であったため、スムーズな対応ができた。また、先述の教員がスラバヤ・ジャカルタ両市内の案内も担ったことから、移動などもスムーズにできた。

資料について、Outline は日本語版と英語版を同数用意した。また、出願方法や学費、寮などの情報を集約した 1 枚ものの資料を作成し配布した。1 枚ものの資料はホテルのサービスなどで増刷もしたが大幅に不足した。この資料は説明で役立つので、今後は余裕を持って持参すると良い。

あまちゃんを見たことがあるので岩手県を知っているという高校生がいた。

【国　内】

1　外国人留学生のための進学説明会（東京会場）

主　　催: 独立行政法人　日本学生支援機構（JASSO）
日　　時: 7 月 6 日（土） 10 時 ～ 16 時

会　　場:【東京会場】サンシャインシティ 文化会館展示ホール D
参 加 者: 石松 弘幸 国際連携室 准教授
越田 晶子 国際課連携グループ主査(副課長)
村山 香織 国際課教育グループ事務職員
参加機関: 183 機関
総入場者数: 1885 名(H30 年 1867 名、H29 年 2263 名、H28 年 2669 名、H27 年 2844 名)

岩手大学ブース訪問者
外国人学生
① 総計:30 名　※名簿に記入した学生数
(H30 年41名、H29 年 44 名、H28 年 76 名、H27 年 73 名、H26 年 52 名)
② 国・地域別:中国(22 名)、マレーシア(2 名)、ベトナム(2 名)、モンゴル(1 名)
タイ(1 名)、シリア(1 名)、台湾(1 名)
③学部別:
人文社会科学部(9 名)(うち大学院希望 3 名)
教育学部(0 名)
理工学部(14 名)(うち大学院希望 1 名)
農学部(6 名)(うち大学院希望 1 名)
特定学部なし(1 名)
★学部希望(25 名)、大学院希望(5 名)
日本語学校等来訪者　　3 名

【主な相談事項】
大学概要: 岩手県と岩手大学の位置、周辺環境について
試験関係: 入試日程、必要な科目、出願手続きについて(学部、大学院ともに)
日本留学試験のボーダーライン
英語成績(TOEFL など)が必要かどうか
私費留学生入試の合格者割合(前年度の留学生入学者数)
過去問題はもらえるか
納 付 金: 入学料および授業料の額
授業料免除の得やすさ(基準)、免除される割合、免除許可者の割合
奨学金について:私費奨学金の種類、金額、受給者数、申請方法
生活状況: おおよその生活費、アルバイトは探しやすいか
宿舎について: 学生寮の設備、寮費等必要経費、民間アパートの家賃相場について
その他の質問事項: 盛岡の気候、雰囲気、等について

留学生在籍数、各国別の留学生在籍数
卒業後の就職動向について
留学生対象のイベントについて

【全体的な感想】

当日は、朝から小雨が降り肌寒い日であり、会場は閑散とした印象であった。総入場数は昨年度より 10 名程度増えたようであるが、人通りも少なく、訪問者数も伸びなかった。

学部入試希望で、学びたい分野が明確な学生が多い印象だった。

機械、デザイン、経済、経営、動物、食品、環境などの分野を志望する学生の相談があった。

ブース訪問者の中には、「岩手大学を受験します」と発言する学生が数名いたのが印象的であった。

昨年同様に iPad を持ち込み、インターネット上で入試情報や研究者情報を説明した。

来場者には、今後自分でも調べることができるよう、HP での情報収集方法などを案内した。

日本留学試験での点数のボーダーライン及び英語成績が必要かどうかを質問する学生が多数いた。

オープンキャンパスのチラシも配布し、多くの学生が関心を持っていた。

【改善点等】

地図・アクセス情報とキャンパスの四季の写真を掲示した。岩手の場所や気候が分からない学生も多かったため活用できた。雪の写真に興味を示す学生が多くアピールになった。

手持ち資料や募集要項等、すべての資料をファイリングして 2 セット用意した。

長机にはテーブルクロスを敷き、机の上にはファイルと iPad だけを置くことで、雑然とすることなくすっきりと使うことができた。

学生はシャープペンシルの方が使うのではないかとの声があったため、昨年度からボールペンとシャープペンシルを用意。（どちらか 1 本を配付。）

学部希望者のなかには、入試について具体的な質問がある学生もおり、可能な限り入試課からも参加していただければより正確な回答ができるのではと感じた。

2 外国人留学生のための進学説明会（大阪会場）

主催：独立行政法人日本学生支援機構
日　時：7 月 13 日（土） 10 時 ～ 16 時
場　所：大阪会場：梅田スカイビル アウラホール及びステラホール
（大阪府大阪市北区大淀中1-1-88）

参加者: グローバル教育センター 教授 尾中夏美
入試課 主査(副課長) 高橋潤
国際課 主任 山根康介
参加機関: 132機関 (H30 132 機関:国公立大学、私立大学、その他専門学校)
総入場者数: 2,004名
(H30 1,740名、H29 1,761名、H28 1,633名、H27 1,322名、 H26 1,313名、H25 1,095名、H24 1,350名)

岩手大学ブース訪問者
① 総計: 学生 35名 (H30 49名、H29 34名、H28 30 名、H27 25名、H26 43名)、
日本語学校等関係者 2名
② 国別: 中国(31名)、インドネシア(2名)、韓国(1名)、ベトナム(1 名)
③ 学部別: ※複数回答あり
・人文社会科学部(16名):心理学、歴史、芸術、経営学など (うち大学院希望1名)
・教育学部(3名):教育心理、特別支援教育など
・理工学部(12名):知能・メディア、物理、化学、機械など(うち大学院希望2名)
・農学部(3名):農学、食品生産、獣医学など
・学部指定なし(2名):

主な相談事項
大学概要: 岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について
学習内容: 関心ある分野を学べる学部・学科があるかについて(どのような授業があるのか等)
就 職 先: 岩手大学の留学生の卒業後の就職動向
入 試: 入試日程・必要な科目・手続き、出願資格について、日本留学試験の合格ライン、入試の過去問、英語成績(TOEFL など)が必要かどうか(入試には必要なくても、理系では英語論文を読んだりすることが必要なので英語力は必要と、対応)、過去の留学生の入学状況
授業料等: 入学料および授業料の額、授業料免除について
奨 学 金: 学習奨励費・私費奨学金の種類、金額、受給の可能性
生活状況: おおよその生活費
宿舎について: 学生寮の有無、寮費等必要経費、寮の間取り、民間アパートの賃貸相場
その他の質問事項: 研究生への出願方法について、盛岡の気候、大学周辺の環境、街の規模など

感想

質問内容が、学びたいことを学習できる学部・大学院はあるか、指導してくれる教員はいるか、というものが多く、学びたい分野が明確な学生が多いので、どのような授業（カリキュラム）がわかる各学部のパンフレットが役に立った。また、理工学部 HP の教員 INDEX が見やすく、学生に紹介しやすかった。

入学者選抜日程（学部）と入学者選抜方法等のみを印刷してセットしておいたが、問い合わせが最も多いため、大いに役に立った。

日本留学試験の合格点数、入試の過去の入手可能性についての質問が多く、回答できる範囲で対応した。（日本留学試験の合格点は、非公表なので回答できない旨伝え、募集要項に記載されている日本語の最低点については学生と確認した。）

国立大学の試験日が同じため、どこの大学に出願するか慎重に検討しているようであった。

ブースへの訪問者数の印象として、昨年と同様、大阪大学、関西大学などの有名校や関西近郊の大学に行列ができていた。大学進学コースのある予備校、美容やアニメ関係の専門学校も人気が高かった。

3 北東北国立三大学国際交流担当者による進学説明会

1. 日　時　　令和元年12月9日（月）13:30～15:30
　　（各大学紹介・質問タイム／大学毎に実施）
2. 場　所　　岩手大学人文社会科学部2号館1階　111番教室
3. 参加機関及び参加者

〇秋田大学

村上　賢治　　理工学研究科教授
浜田　典子　　高等教育グローバルセンター助教

〇弘前大学

鹿嶋　彰　　国際連携本部　准教授
堀井　惇平　　国際連携本部係員

〇岩手大学

尾中　夏美　　グローバル教育センター教授
越田　晶子　　国際課国際連携グループ主査（副課長）
崔　華月　　国際課連携グループ外国語専門員
山下　千佳　　国際課国際連携グループ主任
高橋　潤　　入試課入試グループ主査（副課長）

4. 参加者

・盛岡情報ビジネス専門学校　生徒　13名（ベトナム11名、中国1名、インドネシア1名）

・上野法律ビジネス専門学校　生徒　3名（中国3名）

5. 配布資料　大学毎に大学案内・願書などを事前郵送または当日持参

6. 各大学からの感想

◆秋田大学

昨年度は全体説明で集中が途切れてしまう人が数名見られたので，今年は伝える情報を厳選し，全体量としては減らすことにしました。具体的には，希望者の多い理工学部に関する情報は多くし，医学部医学科や教育文化学部学校教育課程などは思い切って減らしました。個別面談に来た学生は，どのコースで自分の学びたいことが学べるのかを聞いていました。

最近，盛岡情報ビジネス専門学校出身の学生の傾向として，科目等履修生として１年を過ごし，秋田大学に入学する人が増えています。これを踏まえ，今年度、理工学部の科目等履修生の受け入れ制度を整えました。今回の説明会でそれを明確に伝えることができてよかったです。非常に小規模な説明会ですが，各大学のニーズにあった説明ができるところが本会のいいところだと思います。

◆弘前大学

参加人数がまとまっていて、とても説明しやすい環境でした。説明時間が長くても、学生たちが熱心に話を聞いている姿が印象的で、また、2年前の盛岡情報ビジネス専門学校卒業生を多くの学生が知っており、日本語学校から大学進学への道には、縦の繋がりがとても重要な要素だと改めて考えさせられました。学生にとっても、3つの大学にはどのような特色を持っているのか比較することができるため、とても貴重な機会であると感じました。

◆岩手大学

７回目となる今回の進学説明会には、盛岡情報ビジネス専門学校の生徒のほか、上野法律ビジネス専門学校からも生徒（3名）が参加し、岩手大学を会場に実施しました。

岩手大学の紹介では、昨年の進学説明会に参加した学生からの「学部の情報をもっと知りたい」という声を反映して、学部の課程や学科についてキーワード形式にして詳しく説明しました。

また、大学生活をイメージできるように、現役留学生の1日を動画で紹介しました。さらに、今年4月に理工学部と人文社会科学部へ入学した盛岡情報ビジネス専門学校出身の学生2名のインタビューを動画に撮り、授業の様子や部活の内容、受験勉強のアドバイスなどについて紹介してもらいました。

個別相談では、本学での開催利点を生かして、入試課の担当者にも対応してもらい、出願資格の相談をする学生も見られ、有意義な説明会でした。

報告：国際課

外国人留学生同窓会設立大会・懇談会・国際交流会館植樹
及びタイ・マレーシア卒業生との懇談会

1. 外国人留学生同窓会設立大会・懇談会・国際交流会館植樹

11 月 14 日、岩手大学創立 70 周年記念事業「グローカル人材で未来創造」国際シンポジウムにて、外国人留学生同窓会（以下、「同窓会」と記す。）を設立。

設立大会には卒業生及び在学留学生等が 44 名参加し、同窓会の設置、同窓会規約及び役員名簿について審議し、参加者全員から承認を得られた。続いて同窓会会長の楊建華先生、副会長のパイリントラ先生から「同窓会設立宣言」の宣誓が日英両言語で高らかに行われ、岩渕岩手大学長から記念の盾が授与された。なお、国際交流会館敷地内に石割桜と同じ種類である「エドヒガンザクラ」を同窓会参加者全員で植樹を行い、続いて完成後間もない国際交流会館新築部分の見学を行った。（詳細内容については、本年報の岩手大学創立 70 周年記念事業・UURR プロジェクト「グローカル人材で未来創造」国際シンポジウム開催報告を参照）

2. タイ・マレーシア卒業生との懇談会

2.1 タイ・バンコク

日時：2 月 1 日（土）

卒業生：4 名　パイリントラさん（農・タイ支部会長）、パトポンさん（工）、ベンさん（工）、エムさん（農・タイ支部事務局長）

岩手大学参加者：岩渕学長、崔外国語専門員

懇談内容：コロナウィルスの関係もあり、エムさんとはホテルのロビーで、そのほかの 3 人は夕食を取りながら、岩手大学滞在中の懐かしい話題や、現在の仕事の内容、今後の大学との関りなどについて交流を深めた。タイ支部はエムさんが中心となり、LINE グループで情報共有をしている。現在約 50 名が登録しているが、元交換留学生が多く、学位取得者が少ない。そして、バンコク以外で働いている人が多い。

パイリントラ先生は、懇談の中で卒業生としてまた岩手大学国際交流コーディネーターとして、岩手大学とタイの大学の今後の交流の活性化に貢献していきたいと意気込みを語った。岩渕学長からパイリントラ先生に外国人留学生同窓会への寄付の礼状を渡した。

2.2 マレーシア・クアラルンプール

日時：2 月 2 日（日）

卒業生等：卒業生8名、家族 2 名。ハナフィアさん（工・マレーシア支部会長）、イスラムさん（工・マレーシア支部事務局長）、ラズマンさん（工）、アフィファさん（工）、ファディラさん（工）、カミラさん（工）、イラさん（農）、齊藤さん（人社）

岩手大学参加者：岩渕学長、内舘先生、崔外国語専門員
懇談内容：タイと同じく夕食を一緒に取りながらの懇談だった。参加者全員から近況報告や岩手大学在学中の思い出などについて紹介があった。みなさん仕事またはプライベートで日本と深いかかわりがあった。

事務局長のイスラミさんから、外国人留学生同窓会マレーシア支部には、WhatsApp Messenger グループに登録している人が約 60 名（実際は 90 名以上いるとのこと）いるとの紹介があり、岩手大学とマレーシア支部、あるいは卒業生が在籍している大学が一緒になって、研究セミナーまたはシンポジウムなどをマレーシアで共同開催するなど、実質的な交流活動につなげていきたいと提案があった。

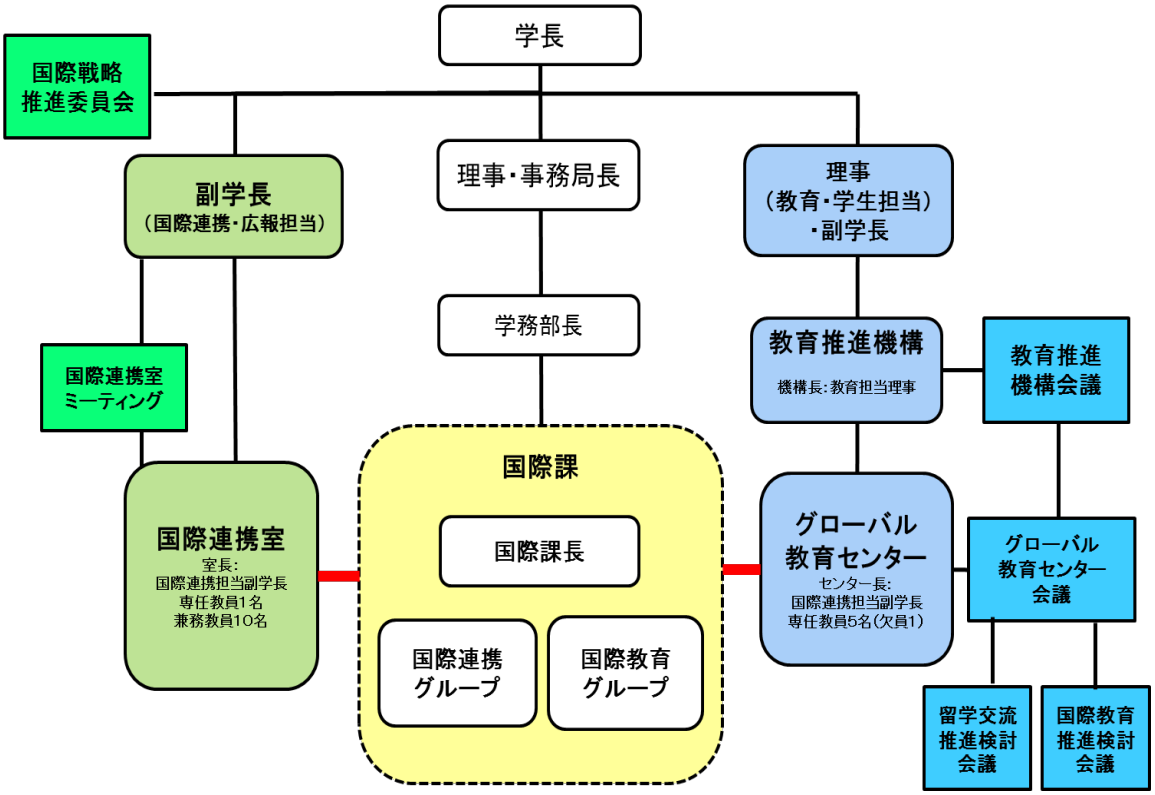
岩渕学長から、卒業生のみなさんから岩手のここが懐かしい！という話をよく聞く、今後卒業生が懐かしいと思う場所をテーマとした写真コンテストを企画するなど、在学生と卒業生を結びつけるイベントも企画していきたいと述べた。

マレーシア支部との交流が大いに期待される懇談会であった。

報告：国際課

—資料—

国際連携・国際教育関連 現行組織図



外国の大学との交流
Academic Cooperation between Universities/Faculties

2019 年 5 月 1 日現在

大学間協定 Universities

国名 Country	大学等名 Name of University	初締結 年月日 First Date of Agreement	主な交流内容 Contents of Exchanges	
			学術交流 Academic Exchange	学生交流 Student Exchange
中華人民共和国 People's Republic of China	曲阜師範大学 Qufu Normal University	2002.9.25	○	○
	北京大学・石河子大学 Peking University Shihezi University	2003.12.5	○	
	西北大学 Northwest University	2003.12.9	○	○
	大連理工大学 Dalian University of Technology	2005.5.23	○	○
	吉林農業大学 Jilin Agricultural University	2006.10.3	○	○
	寧波大学 Ningbo University	2006.10.28	○	○
	山東工芸美術学院 Shandong University of Art and Design	2016.7.21	○	○
	上海海洋大学 Shanghai Ocean University	2017.5.16	○	○
大韓民国 Republic of Korea	明知大学校 Myongji University	2004.7.13	○	○
	国立 HANBAT 大学校 Hanbat National University	2006.8.23	○	
	全南大学校 Chonnam National University	2009.9.1	○	○
	群山大学校 Kunsan National University	2016.1.27	○	○
台湾 Taiwan	高雄師範大学 National Kaohsiung Normal University	2011.7.8	○	○
タイ王国 Kingdom of Thailand	サイアム大学 Siam University	2002.7.2	○	○
	キングモンクット工科大学トンブリ校 King Mongkut's University of Technology, Thonburi	2016.6.20	○	

タイ王国 Kingdom of Thailand	ラジャマンガラ工科大学ラーナ校 Rajamangala University of Technology Lanna	2017.7.26	○	
	パンヤピワット経営大学 Panyapiwat Institute of Management	2017.12.18	○	○
	キングモンクット工科大学ラカバン校 King Mongkut's University of Technology, Ladkrabang	2018.8.1	○	○
	チェンマイ大学 Chiang Mai University	2019.5.8	○	
ミャンマー連邦共和国 Republic of the Union of Myanmar	パテイン大学 Pathein University	2016.12.4	○	
アメリカ合衆国 United States of America	オーバン大学 Auburn University	1998.11.6	○	
	アーラム大学 Earlham College	2003.8.11	○	○
	テキサス大学オースティン校 The University of Texas at Austin	2004.10.20	○	○
	アラスカ大学アンカレッジ校 University of Alaska Anchorage	2016.2.5	○	○
カナダ Canada	セント・メアリーズ大学 Saint Mary's University	2003.7.31	○	○
	サスカチュワン大学 University of Saskatchewan	2013.3.1	○	○
アイスランド共和国 Republic of Iceland	アイスランド大学 The University of Iceland	2011.2.16	○	○
ロシア連邦 Russian Federation	サンクト・ペテルブルグ国立文化大学 St. Petersburg State University of Culture	2000.3.28	○	○
モンゴル国 Mongolia	モンゴル国立大学 National University of Mongolia	2017.10.1	○	○
	モンゴル科学技術大学 Mongolian University of Science and Technology	2018.9.4	○	○

部局間協定 Faculties

部局名 Faculty in Charge	国名 Country	大学等名 Name of University	初締結年月日 First Date of Agreement	主な交流内容 Contents of Exchanges	
				学術交流 Academic Exchange	学生交流 Student Exchange
人文社会科学部 Humanities and Social Sciences	フランス共和国 French Republic	ボルドー・モンテーニュ大学 Université Bordeaux Montaigne	2007.7.6	○	○
教育学部 Education	中華人民共和国 People's Republic of China	北京大学芸術学系・哲学系・宗教学系 Peking University Department of Philosophy (Religion)	1998.8.21	○	
	イタリア共和国 Republic of Italy	カラーラ大学 Accademia di Belle Arti di Carrara	2005.10.5	○	○
	アメリカ合衆国 United States of America	ノースセントラルカレッジ North Central College	2002.9.6	○	○
	カナダ Canada	ブリティッシュ・コロンビア大学教育学部 The University of British Columbia Faculty of Education	2001.7.17	○	
人文社会科学部・教育学部 Humanities and Social Sciences, Education	中華人民共和国 People's Republic of China	清華大学人文学院 School of Humanities, Tsinghua University	2017.3.21	○	○
理工学部 Science and Engineering	中華人民共和国 People's Republic of China	華南理工大学 South China University of Technology	2004.7.6	○	○

理工学部 Science and Engineering	中華人民共和国 People's Republic of China	西北農林科技大学信息工程学院 Northwest A&F University College of Information Engineering	2006.8.23	○	○
		西安科技大学計算機科学と技術学院 College of Computer Science and Technology, Xi'an University	2010.9.8	○	
		清華大学深圳研究生院 Graduate School at Shenshen, Tsinghua University	2016.7.5	○	
	タイ王国 Kingdom of Thailand	チュラロンコン大学理学部 Chulalongkorn University Faculty of science	2002.1.10	○	
		タマサート大学工学部 Faculty of Engineering, Thammasat University	2014.12.11	○	
		カセサート大学 Faculty of Science, Kasersert University	2016.7.1	○	
	マレーシア Malaysia	マレーシアパハン大学研究イノベーション部門 Department of Research and Innovation, University Malaysia Pahang	2010.6.9	○	
	大韓民国 Republic of Korea	忠南大学校グリーンエネルギー技術専門大学院 Chungnam National University Graduate School of Green Energy Technology	2013.4.8	○	
		韓国世宗大学校工学部 College of Engineering, Sejong University	2019.1.8	○	
	モンゴル国 Mongolia	人文大学情報通信マネージメント学院 University of the Humanities	2016.4.1	○	○
	キルギス共和国 Kyrgyz Republic	キルギス-トルコマナス大学工学部 Engineering Faculty, Kyrgyzstan-Turkey Manas University	2009.10.22	○	○

理工学部 Science and Engineering	キルギス共和国 Kyrgyz Republic	キルギス-ロシアスラブ大学工学部 Engineering Faculty, Kyrgyz-Russian Slavic University	2010.12.1	○	○
	スウェーデン王国 Kingdom of Sweden	リンネ大学工学部・健康科学部 Faculty of Technology, Faculty of Health and Life Sciences, Linnaeus University	2016.10.1	○	
	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	ベトナム国建設省建築材料研究院 Vietnam Institute for Building Materials of Ministry of Construction	2017.12.4	○	
農学部 Agriculture	ドイツ連邦共和国 Federal Republic of German	ロッテンブルク大学 University of Applied Forest Sciences Rottenburg	2013.11. 6	○	○
連合農学研究科 Agricultural Sciences	バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh	ダッカ大学生物学部 Faculty of Biological Sciences, University of Dhaka	2014.11.26	○	
グローバル教育センター Global Education Center	台湾 Taiwan	台湾文藻外語大学日本語文系 Department of Japanese, Wenzao Ursuline University of Languages	2018.2.26	○	
	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	アイルランガ大学人文学部 Airlangga University Faculty of Humanities	2018.3.20	○	○

岩手大学教員海外派遣事業（令和元年度分）実施要項

平 成 30年 10月 11日
国際戦略推進委員会決定

1. 目的

岩手大学の若手・中堅教員を海外の大学・研究機関に派遣し、国際的な視野を持った教員を育成する。国際交流に積極的な教員へのインセンティブ付与や、教員の国際業務能力向上の機会を提供し、教員一人ひとりの国際化への意識を高め、岩手大学のグローバル化を推進することを目的とする。

なお、当該教員は、本事業への参加後、派遣先の大学・研究機関の研究者との交流推進に寄与するとともに、岩手大学が実施する国際関係事業に積極的に参画することとする。

2. 期待される効果

岩手大学の国際交流関連事業に積極的に取り組み、大学運営において国際関係業務の核となる人材となる。

教育内容・方法の改善に意識的に取り組み、派遣終了後、岩手大学において外国語等による国際的に水準の高い講義が実施可能になる。

国際理解力、コミュニケーション能力が強化、育成される。

派遣国に対する教育研究分野の理解が促進される。

教授法に関わる FD 研修会や講演会、国際交流委員会等へ積極的に参画する。

3. 要 件

(1)資格： 派遣年度の4月1日現在、50 歳未満の本学教員（附属学校教員を除く）

(2)派遣期間： 派遣開始は4月1日以降とする。派遣の期間は、原則6ヵ月以内で、年度末を超えない範囲とする。承認後の期間延長は原則として認めない。ただし、住居確保や転居手続きの都合上、派遣期間前後1週間程度の滞在は認める。

(3)派遣期間中の身分： 派遣期間中の身分は、本学教員であり、出張として扱われる。

(4)受入機関：国際連携室が提示する協定校

具体的なプログラム内容は別紙のとおり。

※協定校以外への海外派遣（自由選択型）については本事業とは別途募集予定。

(5)派遣者数： 2名以内

(6)支給経費： 勤務場所と派遣先との往復1回分に係る交通費、及び滞在費を支給する（国立大学法人岩手大学旅費規則による）。ただし、航空運賃は最下級普通運賃（ディスカウントエコノミー相当）とする。滞在費については、日額1万円を上限として支給する。 その他、

実施にあたり必要となる経費について、教員に配分される研究費等から充てることができるものとする。

(7)語学力:研修先で主に英語でコミュニケーションを取る場合、IELTS 5.5/TOEFL-iBT 69-79/TOEIC 600-740 程度以上の語学力を有していることが望ましい。

(8)その他

①本事業は、サバティカル研修との重複申請を認めるが、本事業は教員の「国際業務能力向上」の機会を提供し、その成果を本学の国際関係事業に積極的に還元してもらうことを主目的とした事業であり、「自主的調査研究に専念できる」ことを主目的とするサバティカル研修制度とは目的が異なるため、申請に当たっては留意すること。なお、双方とも採用された場合、重複する期間については一方を辞退すること。

②本事業による派遣期間がサバティカル研修と連続する場合、本事業派遣先とサバティカル研修実施場所の移動にかかる旅費は別途協議により支給する。

③海外旅行保険については、必ず加入すること。

4. 応募方法

申請時の所属部局を通じて応募すること。

(1)申請書類

岩手大学教員海外派遣事業申請書(別紙様式1)

※本事業の趣旨から、帰国後、岩手大学に 1 年以上在職することが期待されていることを理解したうえで署名すること。

部局長の推薦書(別紙様式2)

※推薦者数が複数の場合は順位も付して連絡すること。

航空賃等の見積書

※内訳記載があるもの。家族で行く場合は申請者分のみのもの。

(2)提出期限は別途定める。

5. 選 考

(1)本事業の目的に照らし、国際連携室による審査のうえ、国際戦略推進員会において決定する。

(2)審査結果については推薦のあった部局長に対して通知する。

6. その他

(1)採択された教員は以下の義務が発生する。

①派遣期間中、毎月定期報告書(別紙様式3)を提出すること。

②派遣終了後、1ヵ月以内に、「帰国報告書(別紙様式4)」を提出すること。

③派遣終了後、1年以内に、事業報告会にて派遣概要及びその後の業務進捗状況の報告を行うこと。

④派遣終了後、1年経過後に「成果報告書（別紙様式5）」を提出すること。

⑤派遣終了後、大学及び学部等で企画する国際関連事業に積極的に協力すること。

(2)派遣修了後 1 年以内に自己都合退職した場合、当該事業にかかる費用について返還を求める場合がある。

(3)本事業による派遣に伴う所属部局における研究上・教育上・職務上の影響を最小限に留めるよう努力すること。

国際交流支援コーディネータ

国際交流支援コーディネータは、国際化推進のための理念に基づく目標を達成するため、本学における特定の国際化推進事業を支援する専門的知識等を有する外部の者を、岩手大学国際交流支援コーディネータとして委嘱しています。

国際交流支援コーディネータ　委嘱者

No.	氏名	国籍	現職	委嘱日
1	ラタナチャイ パイリントラ	タイ	King Mongkut's University of Technology Thonburi 助教授	2006 年 9 月 1 日
2	鈴木　満	日本	リンネ大学 嘱託教員	2012 年 8 月 1 日
3	管　信利	日本	NPO 法人 ASIA Environmental Alliance 副代表	2014 年 10 月 1 日
4	楊　建華	中国	寧波大学日本語系副主任 副教授	2014 年 10 月 1 日
5	杉山　功	日本	彫刻家	2014 年 10 月 1 日
6	唐　硯漁	台湾	国立高雄師範大学 文化創意設計産学中心主任 工業設計系教授	2014 年 10 月 1 日
7	村上　清	日本	陸前高田市政アドバイザー	2014 年 10 月 1 日
8	ジェーン タンナー テラシマ	アメリカ合衆国	元アーラム大学講師 TSA プログラムディレクター	2016 年 4 月 1 日
9	門馬　孝之	日本	無職	2016 年 4 月 1 日
10	陳　愛陽	中国	清華大学日本語学科 准教授	2016 年 4 月 1 日
11	ポントーン トゥーパテーミー	タイ	タマサート大学工学部 助教授	2017 年 10 月 1 日

No.	氏名	国籍	現職	委嘱日
12	ナロンサック ピチャヤピスット	タイ	カセサート大学人文学部 専任講師	2017 年 10 月 1 日
13	イスラミ イスマイル	マレーシア	I-FIRM SDN BHD 社 代表	2017 年 10 月 1 日
14	李　智	中国	江南大学外国語学院 准教授	2018 年 10 月 1 日
15	モニカ　クレジョンストン	ドイツ	無職 (元ゲーテ・インスティテュート講師)	2019 年 4 月 1 日
16	アントニウス ラーマト プジョプルノモ	インドネシア	アイルランガ大学 准教授	2018 年 10 月 1 日
17	林　珈汶	台湾	ブランドマネージャー	2018 年 10 月 1 日
18	ヌグジガル プレブツォグット	モンゴル	モンゴル国立大学 プログラム・信頼性保証室長	2019 年 10 月 1 日
19	田中　琢治	カナダ	サスカチュワン大学 准教授	2019 年 10 月 1 日
20	福澤　純一	日本	無職	2019 年 10 月 1 日

報告:国際課

Iwate University Global Fellow

「Iwate University Global Fellow」称号は、海外の教育研究機関等で活躍する本学の卒業生及び元教職員との関係強化並びに本学の国際的プレゼンスの向上を目的として授与しています。

Iwate University Global Fellow 授与者

No.	氏　名	国　籍	所属等	授与日
1	Chilakamarri (Chary) Rangacharyulu	カナダ	University of Saskatchewan サスカチュワン大学 教授	2017 年 2 月 27 日
2	Karen Kikumi Tanino	カナダ	University of Saskatchewan サスカチュワン大学 教授	2017 年 4 月 18 日
3	Arnold Martin Howitt	アメリカ合衆国	Harvard University ハーバード大学 アッシュセンター上級顧問	2017 年 6 月 16 日
4	Minjie Wang （王 敏杰）	中国	Dalian University of Technology 大連理工大学 模具研究所 教授	2017 年 6 月 21 日
5	Zhongchen Wang （王 中忱 ）	中国	Tsinghua University 清華大学 教授	2018 年 8 月 8 日
6	Lanpo Zhao （趙 蘭坡）	中国	Jilin Agricultural University 吉林農業大学　教授	2018 年 9 月 8 日
7	Choi Myeongrak （崔 明洛）	韓国	Chonnam National University 全南大学 教授	2019 年 11 月 14 日
8	Peihong Cong （叢培紅）	中国	Fudan University 復旦大学 教授	2019 年 3 月 9 日
9	Mashitah Binti Mohd Yusoff	マレーシア	Universiti Malaysia Pahang パハン大学 副学長、教授	2019 年 11 月 14 日

報告：国際課

令和元年度　留学生関係行事

前期	4 月	3 日（水）	留学生オリエンテーション、サークル U・留学生会・中国人学友会説明会・キャンパス・ライブラリーツアー
		4 日（木）	2019 年度前期　交換留学プログラム　開講式
		5 日（金）	岩手大学入学式
		10 日（水）	前期授業開始
		25 日（水）	グローバルヴィレッジの留学生歓迎パーティー
		27 日（土）	フィールドツアー in Tohoku(角館)
	5 月	25 日（土）	盛岡・つなぎ間ロードレース大会
	6 月	15 日(土)	留学生と市民のｶﾞｰﾃﾞﾝﾊﾟｰﾃｨｰ~世界の屋台村~
	8 月	6 日（火）	2019 年度前期　交換留学プログラム　修了式
		6 日（火）～9 月 30 日（月）	夏季休業
	9 月	26 日(水)	留学生オリエンテーション、交換留学プログラム履修説明会、サークルU・留学生会・中国人学友会説明会、キャンパスツアー
		28 日（金）	前期成績発表
		30 日（月）	国際交流会館オリエンテーション、交換留学プログラム開講式、健康診断、留学生オリエンテーション
後期	10 月	1 日(月)	後期授業開始
		19 日（土）～20 日（日）	大学祭
	11 月	14 日（木）	岩手大学外国人留学生同窓会設立大会
		20 日（水）	フィールドスタディ in Iwate 企業訪問（花巻空港、和同産業）
	12 月	24 日（火）~1 月 5 日（日）	冬季休業
	1 月	17 日(木)	留学生フィールドスタディ　スキー in 八幡平
		28 日（火）	第 7 回外国人留学生による"岩手のいいところ"写真展インスタグラム留学生フォトコンテスト表彰式
	2 月	6 日（金）	2019 年度後期　日本語研修コース及び交換留学プログラム　修了式
	3 月	23 日（月）	卒業式
		24 日（火）～31 日（火）	春季休業
		31 日（火）	後期成績発表

報告:国際課

令和元年度交換留学生受入･派遣実績

学部等	受入 学生数	内訳	派遣 学生数	内訳
人文社会科学部	11	韓国：明知大学３ 韓国：群山大学２ ロシア：サンクトペテルブルク国立文化大学３ 中国：寧波大学１ 中国：山東工芸美術学院１ フランス：ボルドー・モンテーニュ大学１	5	ロシア：サンクトペテルブルク国立文化大学１ 中国：西北大学１ 中国：寧波大学１ カナダ：セント・メアリーズ大学１ 韓国：明知大学１ フランス：ボルドー・モンテーニュ大学１
教育学部	11	イタリア：カラーラアカデミア１ アメリカ：ノースセントラルカレッジ１ 中国：寧波大学２ 中国：曲阜師範大学３ 中国：西北大学１ タイ：サイアム大学２ タイ：パンヤピワット経営大学１	2	中国：西北大学１ アメリカ：ノースセントラルカレッジ１
理工学部	2	中国：大連理工大学２	1	スウェーデン：リンネ大学１
農学部	3	ドイツ：ロッテンブルク大学１ 中国：上海海洋大学２		
総合科学研究科総合文化学専攻	3	フランス:ボルドー・モンテーニュ大学２ 中国：寧波大学１		
総合研究科農学専攻	2	中国：吉林農業大学２		
総合科学研究科理工学専攻	5	中国：西北農林科技大学１ モンゴル：人文大学２ 中国：高雄師範大学２		
グローバル教育センター	5	アメリカ：テキサス大学オースティン校２ インドネシア：アイルランガ大学２ アイスランド：アイスランド大学１		
合計	42		8	

報告：国際課

岩手大学訪問海外研修生受入実績

訪問海外研修生:

岩手大学において短期間(3 日以上 90 日以下)の教育、研究指導又は研修を受けることを希望する外国の大学等の学生を「訪問海外研修生」(英語名称“Short-Term Visiting Trainee”)として受け入れることで、当該者の本学における諸活動に便宜を図り、もって本学の国際的な人材育成の推進に資することを目的とした事業。

令和元年度実績

学生の出身国	人数
中国	32
台湾	4
韓国	6
タイ	6
アメリカ合衆国	7
コロンビア	4
オーストリア	1
カナダ	1
合計	61

報告:国際課

岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧（短期研修・研究型）

プログラム名	派遣地域・大学	派遣時期	派遣期間	単位認定	参加資格	定員	派遣実績				
							H 27	H 28	H 29	H 30	H 31
明知大サマーキャンプ（韓国語研修）	［韓国］明知大学校	8 月上旬	3 週間	あり	全学	4	0	1	0	0	0
春期海外英語研修	［フィリピン］デ・ラ・サール大学	3 月	3 週間	あり	全学	10	10	10	10	9	12
グローバルプロ基礎コース（US-JAPAN FORUM）	［アメリカ］カリフォルニア地域の大学・企業	2 月	1 週間	なし	全学	数名	0	1	0	0	1
グローバルプロ養成プログラム（US-JAPAN FORUM）	［アメリカ］カリフォルニア地域の大学・企業	9 月	4 週間	あり	全学	数名	5	1	1	0	1
カリフォルニア・イノベーション研修（US-JAPAN FORUM）	［アメリカ］カリフォルニア地域の大学・企業	9 月	9 日～2 週間	あり	全学	数名	2	2	1	1	0
シリコンバレー・アントレプレナー研修（US-JAPAN FORUM）	［アメリカ］カリフォルニア・シリコンバレー	毎月	1 ヶ月・3 ヶ月・6 ヶ月	なし	全学	数名	0	0	0	0	0
国際研修 －エネルギーと持続可能な社会	［アイスランド］アイスランド大学 ほか［スウェーデン］リンネ大学 ほか	9 月	9 日（＋事前・事後研修複数回）	あり	全学	12	7	9	8	8	0
国際研修 －貧困と持続可能な社会	［フィリピン］サンカルロス大学・NGO	9 月	2 週間（＋事前・事後研修複数回）	あり	全学	10	4	5	4	5	8
国際研修 －デザインと持続可能な社会	［イタリア］カラーラ・アカデミー	2～3 月	3 週間（＋事前・事後研修複数回）	あり	全学	10	0	3		10	0
国際研修 －ビジネスと持続可能な社会	［台湾］高雄師範大学	3 月	13 日間（＋事前・事後研修複数回）	あり	全学	10	0	0	5	8	0
国際研修 －世界遺産と持続可能な社会	［インドネシア］アイルランガ大学	8～9 月	2 週間（＋事前・事後研修複数回）	あり	全学	10	0	0	0	6	4
異文化理解研修	［タイ］サイアム大学	2 月	2 週間	なし	全学	2	1	0		0	0
日韓学生の協働研修Ⅰ（海外研修）	［韓国］群山大学校・明知大学校	8 月	9 日（＋国内研修 9 日）	あり	人社	15	9	6	7	11	8

課題解決型国際研修 (ドイツ語)	[ドイツ] ドレスデン工科大学/ ゲーテインスティトゥート	3 月	2 週間	あり	人社	20	15	21		14	7
課題解決型国際研修 (中国語)	[中国] 曲阜師範大学、 西北大学(H28)、 寧波大学(H29)、 西北大学(H30)	3 月	2 週間	あり	人社	20	12	9	5	11	13
課題解決型国際研修 (英語)シンガポール	[シンガポール] カーティン大学(豪) シンガポール校	9 月	2 週間 (+国内 研修)	あり	人社	15	0	0	18		0
課題解決型国際研修 (英語)カナダ	[カナダ] オカナガン大学	3 月頃	3 週間	あり	全学	20	0	7		0	0
課題解決型国際研修 (フランス語)	[フランス] 西部カトリック大学	2～3 月 8～9 月	3 週 or 6 週	あり	人社	数名	1	3	2	2	0
日本語教育実習	[中国] 寧波大学	3 月頃	2 週間	あり	教育	10	9	13	7	7	0
漢文学実地研修	[中国] 国語の教科書に 出てくる場所など (寧波大学)	9 月頃 または 3 月頃	10 日	あり	教育	5	0	3	9	2	0
プアン・プログラム (英語教育実習)	[タイ] タイ国内中学校等 (サイアム大学の仲介)	1 月	2 週間	あり	教育	7	7	7	5	6	6
プアン・プログラム (数学教育実習)	[タイ] パンヤピワット運営 大学附属中等学校	1 月	2 週間	あり	教育	4	0	0	4	4	4
English Language Institute Iwate Program (語学留学)	[アメリカ] ノース・セントラル・ カレッジ	8 月	17 日間	なし	教育 他	20	0	0	0	0	0
理工学部国際研修	[カナダ] ブリティッシュ・ コロンビア大学 ELI [アメリカ] ドミニカン大学 ELS	8 月頃	4 週間	あり	工学 2 年・ 3 年 院生	10	10	7	13	14	3
ハンバット国立大学校 交流研修	[韓国] ハンバット大学校	11 月 頃	5 日間	なし	工学 院生	4	10	11	11	10	10
将来の農学・獣医学を 担うグローバルリーダー 養成プログラム (オーバン大学)	[アメリカ] オーバン大学	9 月	2 週間	あり	農学	3	2	3	2	3	4
将来の農学・獣医学を 担うグローバルリーダー 養成プログラム (サスカチュワン大学)	[カナダ] サスカチュワン大学	9 月	3 週間	あり	農学	14	14	14	14	13	13

海外の森林・林業とフォレスター研修プログラム	[ドイツ]ロッテンブルク大学	9月	10日	あり	農学	10	12	16	12	13	8
パデュー大学学生派遣プログラム	[アメリカ]パデュー大学	8月頃	1ヶ月	あり	農学	3	0	提携終了	提携終了	提携終了	提携終了
タイ王国国際インターンシップ	[西アジアを除くアジア各地域]日系現地法人	8月頃	2～4週間	あり	工学2年・3年院生	数名	2	0	0	6	5
工学研究科研究インターンシップ	[カナダ]サスカチュワン大学ほか	8月頃	2～4週間	あり	工学院生	数名	2	3	4	3	2
日本語教育実習インターンシップ	[タイ]サイアム大学	2～3月	2週間	なし	全学	2	2	0	2	0	1
連合農学研究科研究インターンシップ	[カナダ]サスカチュワン大学ほか	8月頃	2～4週間	あり	農学院生・連大院生	数名	3	3	7	4	5
					計	250	139	158	151	170	115

報告:国際課

岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧

	派遣先	派遣日程	交流者数	派遣留学生数	出身地別人数	交流の内容
1	㈱岩手めんこいテレビ	4 月	―	3	中国、韓国、バングラデシュ	mit プライムニュースの取材
2	フレンズ国際愛児園	5 月 20 日(月)	22	1	香港	園児に自国文化の紹介や交流
3	いわて i-Sake プロジェクト(実施キャンセル)	5 月 18 日(土)	13	7	中国、アメリカ	田植え(田植えイベントを通して日本酒の魅力を知る)
4	岩手中央農業協同組合	5 月 26 日(日)	―	14	中国、ベトナム、フランス、インドネシア	リンゴの摘果作業体験
5	八幡平市横間自治公民館(盛岡広域振興局農政部)	7 月 20 日(土)～21 日(日)	約 150	10	中国	地域の伝統行事に参加
6	フレンズ国際愛児園	7 月 1 日(月)	22	1	エジプト	園児に自国文化の紹介や交流
7	一関市	8 月 8 日(木)～9 日(金)	20	4	中国、韓国、フランス	地域の小学生との交流
8	フレンズ国際愛児園	9 月 30 日(月)	22	1	タイ	園児に自国文化の紹介や交流
9	NPO 善隣館語学教室	10 月～毎週火曜日・水曜日	4	2	フランス	フランス語クラスを担当
10	岩手県立宮古商業高校	10 月 19 日(土)	―	3	中国	「宮商デパート 2019」に参加
11	NPO 法人いーはとーぶスポーツクラブ	10 月 26 日(土)	―	4	中国、韓国、マレーシア	ハロウィンパーティーに参加

12	岩手大学　滝沢農業	10月4日(金)	ー	5	中国、エジプト、スペイン、タイ	稲刈り体験
13	岩手中央農業協同組合	10月26日(土)	ー	10	中国、台湾、インドネシア	リンゴの収穫体験
14	岩手銀行 法人戦略部 公務・地方 創生室	11月9日(土)～ 10日(日)	ー	4	タイ、台湾、アイスランド、アメリカ	田野畑村・普代村の情報発信、アンケート回答、地元の方との意見交換会等
15	フレンズ 国際愛児園	12月14日(土)	22	1	アメリカ	クリスマス会に参加し園児と交流
16	フレンズ 国際愛児園	11月22日(金)	22	1	スペイン	園児に自国文化の紹介や交流
17	NPO　善隣館 語学教室	1月～3月 毎週火曜日	3	1	台湾	台湾事情の紹介と中国語会話練習クラスを担当
18	盛岡誠桜 高等学校	11月20日(水)	約 40	6	中国、スペイン、バングラデシュ、タイ	高校生へ自国文化の紹介や交流
19	岩手県北 自動車 株式会社	2月11日(火)	ー	30	中国、ロシア、アイスランド、アメリカ、バングラデシュ、エチオピア、台湾、タイ、インド、モンゴル、エジプト、韓国、フランス	いわて雪まつりのモニターツアーに参加し、岩手の冬季観光の魅力を発信
20	フレンズ 国際愛児園	2月26日(水)	22	1	台湾	園児に自国文化の紹介や交流
			計	109		

報告:国際課

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム　岩手大学の採択状況

平成 26 年度（第1期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	4名	3名	2名
振興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	3名	0名	0名
計	9名	3名	2名

平成 27 年度前期（第2期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	2名	2名	1名
振興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	4名	2名	1名

平成 27 年度後期（第3期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	3名	3名	1名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	1名	0名	0名
計	5名	3名	1名

平成 28 年度前期（第4期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	1名	0名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	2名	1名	0名

平成 28 年度後期（第5期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	5名	3名	2名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	5名	3名	2名

平成 29 年度前期（第6期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名	1名	1名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	1名	1名	1名
計	2名	2名	2名

平成 29 年度後期（第7期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	3名	2名	1名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
地域人材コース	5名	5名	5名
計	8名	7名	6名

平成 30 年度前期（第8期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	1名	1名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	2名	1名	1名

平成 30 年度後期（第9期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	4名	3名	2名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	3名	2名	2名
地域人材コース	4名	3名	3名
計	11名	8名	7名

平成 31 年度前期（第 10 期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	0名	0名	0名
振興国コース	2名	1名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	1名	0名	0名
計	3名	1名	0名

平成 31 年度後期（第 11 期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	2名	1名
振興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	1名	0名	0名
地域人材コース	5名	5名	5名
計	9名	7名	6名

2020 年度前期（第 12 期）

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名	1名	1名
振興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	1名	1名	1名

報告：国際課

岩手大学留学生数（令和元年5月1日現在）

《種別》　　( )は女子で内数

【学部所属】

学部	正規生 学部生 国費	正規生 学部生 政府	正規生 学部生 私費	小計	非正規生 研究生 国費	非正規生 研究生 政府	非正規生 研究生 県費	非正規生 研究生 私費	非正規生 特別聴講学生 私費	非正規生 科目等履修生 私費	非正規生 日本語・日本文化研修留学 国費	小計	合計
人文社会科学部			14 (4)	14 (4)				7 (3)	11 (8)			18 (11)	32 (15)
教育学部			2 (2)	2 (2)					12 (9)			12 (9)	14 (11)
工学部			3	3									3
理工学部		3 (1)	28 (2)	31 (3)				4	2			6	37 (3)
農学部			5 (2)	5 (2)				2	2 (1)			4 (1)	9 (3)
合計		3 (1)	52 (10)	55 (11)				13 (3)	27 (18)			40 (21)	95 (32)

【大学院所属】

大学院	正規生 国費	正規生 政府	正規生 私費	小計	非正規生 研究生 国費	非正規生 研究生 政府	非正規生 研究生 私費	非正規生 教員研修留学生 国費	非正規生 特別聴講学生 私費	非正規生 特別研究学生 私費	非正規生 科目等履修生 私費	小計	合計
教育学研究科									1 (1)			1 (1)	1 (1)
総合科学研究科 総合文化学専攻			6 (4)	6 (4)					3 (2)			3 (2)	9 (6)
総合科学研究科 地域創生専攻			8 (5)	8 (5)									8 (5)
総合科学研究科 農学専攻			2	2	2 (1)				2 (1)			4 (2)	6 (2)
総合科学研究科 理工学専攻	1		27 (11)	28 (11)	1 (1)				4 (2)			5 (3)	33 (14)
工学研究科(M)			1	1									1
工学研究科(D)	4		25 (14)	29 (14)									29 (14)
理工学研究科(D)			7 (2)	7 (2)									7 (2)
獣医学研究科			1	1									1
連合農学研究科	14 (6)		29 (12)	43 (18)									43 (18)
合計	19 (6)		106 (48)	125 (54)	3 (2)				10 (6)			13 (8)	138 (62)

【グローバル教育センター所属】

ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教育センター	国費 日本語研修留学生	国費 日本語・日本文化研修留学生	私費 特別聴講学生	合計
合計			4 (2)	4 (2)

◆◆留学生総数◆◆

	国費	政府	県費	私費	合計
正規生	19 (6)	3 (1)		158 (58)	180 (65)
非正規生	3 (2)			54 (29)	57 (31)
合計	22 (8)	3 (1)		212 (87)	**237 (96)**

〔連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学 10名 、他大学配属 33名 〉

	国費	政府	私費	合計
岩手大学	6 (3)		4 (3)	10 (6)
帯広畜産大学	1 (1)		4 (3)	5 (4)
弘前大学	1		9 (3)	10 (3)
山形大学	6 (2)		12 (3)	18 (5)
合計	14 (6)		29 (12)	43 (18)

〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国費	政府	私費	合計
岐阜連獣	2		1	3

(国籍別：タイ 1、バングラデシュ 1、アフガニスタン 1)

〔連大他大学配属分を除いた留学生数〕

204 (84)

23ヶ国 0地域　237 人

アジア 11ヶ国0地域213(85)人						欧州 4ヶ国11(7)人			中南米 2ヶ国2(0)人			アフリカ 5ヶ国7(2)人		
中国	123	(47)	マレーシア	6	(1)	ドイツ	4	(2)	キューバ	1		ケニア	2	(1)
モンゴル	21	(13)	スリランカ	2	(2)	フランス	3	(3)	ガイアナ	1		ナイジェリア	1	
韓国	17	(3)	インド	1		ロシア	3	(2)				エチオピア	2	
ベトナム	14	(9)	カンボジア	1		ウズベキスタン	1		北米 1ヶ国4(2)人			シエラレオネ	1	
タイ	11	(4)							アメリカ	4	(2)	エジプト	1	(1)
インドネシア	8	(3)												
バングラデシュ	9	(3)												

岩手大学留学生数（令和元年11月1日現在）

《種別》　　（ ）は女子で内数

【学部所属】

学部	正規生 学部生 国費	正規生 学部生 政府	正規生 学部生 私費	小計	非正規生 研究生 国費	非正規生 研究生 政府	非正規生 研究生 県費	非正規生 研究生 私費	非正規生 特別聴講学生 私費	非正規生 教員研修留学生 国費	非正規生 日本語・日本文化研修留学 国費	小計	合計
人文社会科学部			14 (4)	14 (4)	1 (1)			10 (5)	8 (5)			19 (11)	33 (15)
教育学部			2 (2)	2 (2)					10 (10)	1	1 (1)	12 (11)	14 (13)
工学部			3	3									3
理工学部		3 (1)	27 (2)	30 (3)	1			13 (1)	2			16 (1)	46 (4)
農学部			5 (2)	5 (2)					2			2	7 (2)
合計		3 (1)	51 (10)	54 (11)	2 (1)			23 (6)	22 (15)	1	1 (1)	49 (23)	103 (34)

【大学院所属】

大学院	正規生 国費	正規生 政府	正規生 私費	小計	非正規生 研究生 国費	非正規生 研究生 政府	非正規生 研究生 私費	非正規生 教員研修留学生 国費	非正規生 特別聴講学生 私費	非正規生 特別研究学生 私費	非正規生 科目等履修生 私費	小計	合計
教育学研究科													
総合科学研究科 総合文化学専攻			6 (4)	6 (4)					3 (1)			3 (1)	9 (5)
総合科学研究科 地域創生専攻			9 (5)	9 (5)			2					2	11 (5)
総合科学研究科 農学専攻			3	3	2 (2)				2 (1)			4 (3)	7 (3)
総合科学研究科 理工学専攻	1		24 (10)	25 (10)	1 (1)				4 (2)			5 (3)	30 (13)
工学研究科(M)													
工学研究科(D)	2		20 (12)	22 (12)									22 (12)
理工学研究科(D)	1 (1)		9 (4)	10 (5)									10 (5)
獣医学研究科			1	1									1
連合農学研究科	13 (5)		30 (11)	43 (16)									43 (16)
合計	17 (6)		102 (46)	119 (52)	3 (3)		2		9 (4)			14 (7)	133 (59)

【グローバル教育センター所属】

グローバル教育センター	国費 日本語研修留学生	国費 日本語・日本文化研修留学生	私費 特別聴講学生	合計
合計		1	3 (1)	4 (1)

◆◆留学生総数◆◆

	国費	政府	県費	私費	合計
正規生	17 (6)	3 (1)		153 (56)	173 (63)
非正規生	8 (5)			59 (26)	67 (31)
合計	25 (11)	3 (1)		212 (82)	240 (94)

〔連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学 11名 、他大学配属 32名 〉

	国費	政府	私費	合計
岩手大学	5 (2)		6 (4)	11 (6)
帯広畜産大学	1 (1)		2 (1)	3 (2)
弘前大学	1		9 (2)	10 (2)
山形大学	6 (2)		13 (4)	19 (6)
合計	13 (5)		30 (11)	43 (16)

〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国費	政府	私費	合計
岐阜連獣	2			2

(国籍別：バングラデシュ 1、アフガニスタン 1)

〔連大の他大学配属分を除いた留学生数〕

208 (84)

25ヶ国 1地域　240 人

アジア 11ヶ国 1地域 217 (84)人						欧州 7ヶ国 13 (7)人			中南米 1ヶ国 1 (0)人			アフリカ 5ヶ国 8 (3)人		
中国	125	(42)	マレーシア	6	(1)	ロシア	4	(3)	ガイアナ	1		ケニア	2	(1)
モンゴル	17	(11)	インド	3	(1)	フランス	3	(2)				ベナン	2	(1)
韓国	15	(2)	台湾	3	(1)	ドイツ	2	(1)				エチオピア	2	
ベトナム	14	(9)	スリランカ	2	(2)	アイスランド	1		北米 1ヶ国 1 (0)人			シエラレオネ	1	
バングラデシュ	12	(5)	カンボジア	1		ウズベキスタン	1		アメリカ	1		エジプト	1	(1)
タイ	11	(7)				スペイン	1							
インドネシア	8	(3)				トルクメニスタン	1	(1)						